

# 丸谷地区遺跡群

NAKADAIGOROU DAI 1

## 中大五郎第1遺跡

NAKADAIGOROU DAI 2

## 中大五郎第2遺跡

MOTOIKE

## 本池遺跡

MAEHATA

## 前畠遺跡

丸谷地区県営ほ場整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

1996年3月

宮崎県都城市教育委員会



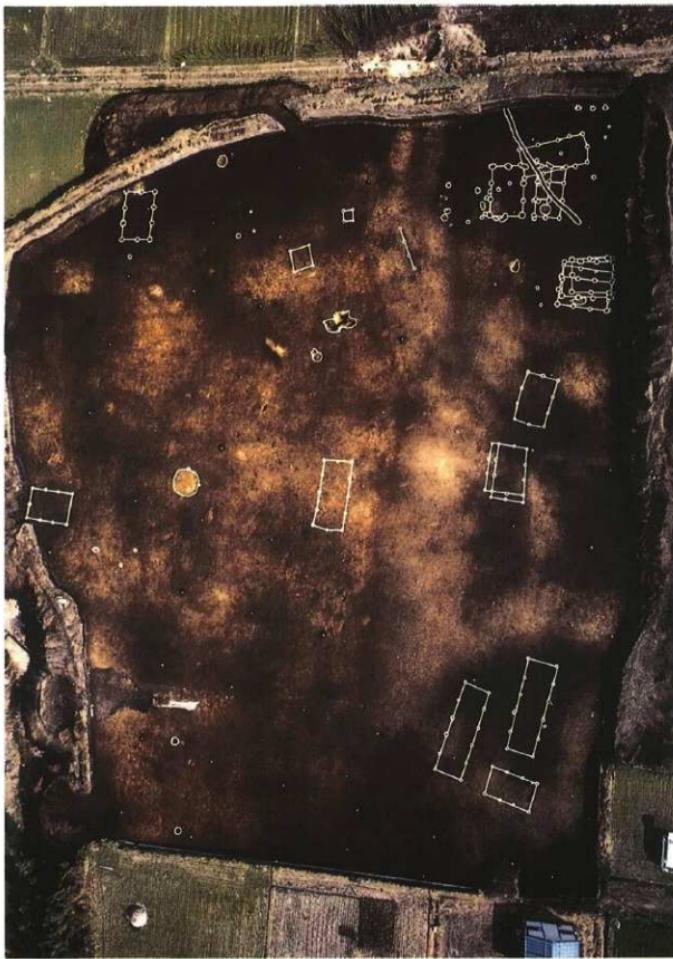
丸谷地区遺跡群全景



中大五郎第1遺跡全景



中大五郎第2遺跡全景



本池遺跡 A 区全景



前烟遺跡全景

# 序 文

この報告書は、平成3・4・5・6・7年度に宮崎県北諸県農林振興局が計画した丸谷地区県営ほ場整備事業に伴い、国・県の補助を受け都城市教育委員会が実施した丸谷地区遺跡群の正式な発掘調査報告です。

調査の結果、当該地区一帯には、縄文時代・弥生時代・古代・中世の広大な集落跡が埋蔵されていたことが判明いたしました。これらの発掘した資料が歴史教材として生かされるとともに、今後の学術研究や市史解明の一助となることを願っています。

本事業の推進と本書の刊行にあたり発掘調査に参加された皆様、宮崎県北諸県農林振興局、丸谷地区土地改良区関係者のご協力に対し深甚の謝意を表しますとともに、発掘調査と報告書作成に日夜ご尽力をいただきました宮崎県文化課の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成8年3月25日

都城市教育委員会

教育長 隅 元 幸 美

## 例　　言

1. この報告書は、丸谷地区県営は場整備事業に伴い都城市教育委員会が実施した中大五郎第1遺跡、中大五郎第2遺跡、本池遺跡、前畠遺跡の発掘調査報告書である。
2. 各遺跡の発掘調査期間は次のとおりである。

中大五郎第1遺跡	平成3年10月23日～平成4年2月2日
中大五郎第2遺跡	平成3年10月23日～平成4年2月2日
本　池　遺　跡	平成4年10月5日～平成5年1月29日
前　畠　遺　跡	平成4年11月23日～平成5年3月2日
3. 各遺跡の発掘調査担当者は次のとおりである。

中大五郎第1遺跡	宮崎県教育委員会文化課　主事　長友郁子
中大五郎第2遺跡	宮崎県教育委員会文化課　主事　山田洋一郎
本　池　遺　跡	宮崎県教育委員会文化課　主事　東　憲章
前　畠　遺　跡	宮崎県教育委員会文化課　主事　東　憲章
4. 発掘調査における図面の作成と写真的撮影は、各現場担当者が補助員の助けを借りて行った。一部の遺構実測図については、業者に作成を委託した。
5. 遺物、図面の整理は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測、拓本、製図等は、各現場担当者が、整理補助員の協力を得て行った。
6. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の25,000分の1図をもとに作成し、周辺地形図は、宮崎県土地改良事業団体連合会作成の1,000分の1図をもとにして作成した。
7. 本書に使用した方位は、遺構分布図については座標北、個別の遺構実測図については磁北である。レベルは、海拔絶対高である。
8. 本書に使用した記号は、以下のとおりである。

S A - 壘穴住居、S B - 掘立柱建物、S C - 土坑、S D - 土壙墓、S E - 溝状遺構
9. 本書に使用した写真は、各調査担当者が撮影し、空中写真については、業者に委託して撮影した。
10. 本書に執筆の分担は次のとおりである。

第1章 第1節	都城教育委員会
第1章 第2節	重山 郁子
第2章	重山 郁子
第3章	山田洋一郎
第4・5・6章	東　憲章

編集は、重山・東が行った。
11. 調査にあたり、宮崎県北諸県郡農林振興局、大五郎土地改良区等の多大な協力を得た。

# 本文目次

第1章 はじめに .....	1
第1節 調査に至る経緯と調査の組織 .....	1
1. 調査に至る経緯 .....	1
2. 調査の組織 .....	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境 .....	2
第2章 中大五郎第1遺跡の調査 .....	7
第1節 遺跡の立地と環境 .....	7
第2節 調査の概要 .....	7
第3節 層序 .....	8
第4節 弥生時代の遺構と遺物 .....	9
第5節 中世の遺構と遺物 .....	35
第6節 時期不明の遺構 .....	35
第7節 まとめ .....	36
第3章 中大五郎第2遺跡の調査 .....	53
第1節 調査区の設定と概要 .....	53
第2節 層序 .....	53
第3節 弥生時代の遺構と遺物 .....	54
第4節 中近世と時期不明の遺構と遺物 .....	105
第5節 小結 .....	111
第4章 本池遺跡の調査 .....	147
第1節 遺跡の立地と環境 .....	147
第2節 調査の概要 .....	147
第3節 層序 .....	148
第4節 本池A区の遺構と遺物 .....	148
1. 掘立柱建物 .....	148
2. 壁穴状遺構 .....	159
3. 土坑 .....	159
4. 弥生土器 .....	162
5. 土師質土器 .....	162
6. 布痕土器 .....	168
7. 須恵器 .....	168
8. 陶磁器 .....	173
9. 鉄器 .....	173
10. 土鍤 .....	173

11. 石 器	173
第5節 本池B区の遺構と遺物	173
1. 壴穴状遺構	173
2. 土 坑	180
3. 繩文土器	180
4. 弥生土器	183
5. 陶 磁 器	189
6. 石 器	189
第6節 まとめ	189
第5章 前畠遺跡の調査	241
第1節 遺跡の立地と環境	241
第2節 調査の概要	241
1. 調査の経過	241
2. 基本層序	242
第3節 弥生時代の遺構と遺物	242
豴穴住居跡	242
第4節 中世の遺構と遺物	276
1. 壴穴状遺構	276
2. 土 坑	276
3. 道路状遺構、溝状遺構	276
第5節 繩文時代の遺構と遺物	280
土 坑	280
第6節 遺構外出土の遺物	280
第7節 まとめ	282
第6章 総 括 一丸谷川地区遺跡群の返還	329

# 挿図目次

## 第1章

第1図	九谷地区位置図	2
第2図	九谷地区遺跡群周辺遺跡分布図	3
第3図	前畠遺跡周辺地形図	4
第4図	中大五郎第1・中大五郎第2・本池・前畠遺跡周辺地形図	5~6

## 第2章

第5図	基本土層図	8
第6図	遺構配置図	10
第7図	S A 1・S L 2 実測図	11
第8図	S A 1 出土遺物実測図	12
第9図	S A 2 実測図	13
第10図	S A 2 出土遺物実測図	14
第11図	S A 2 出土遺物実測図	15
第12図	S A 3 実測図	16
第13図	S A 3~7 出土遺物実測図	17
第14図	S A 4 実測図	18
第15図	S A 5 実測図	19
第16図	S A 6 炭化材出土状況実測図	20
第17図	S A 6 実測図	20
第18図	S A 7 実測図	21
第19図	S L 1 出土遺物実測図	22
第20図	S L 3 実測図	23
第21図	S L 3 出土遺物実測図	24
第22図	遺物包含層出土遺物実測図(1)	25
第23図	遺物包含層出土遺物実測図(2)	26
第24図	遺物包含層出土遺物実測図(3)	27
第25図	S B 1 実測図	33
第26図	S B 2 実測図	34
第27図	時期不明土坑実測図	27

## 第3章

第28図	中大五郎第2 遺跡土層図	53
第29図	中大五郎第2 遺跡遺構分布図	54

第30図	中大五郎第2遺跡SA1・SA2実測図	55
第31図	中大五郎第2遺跡SA3実測図	56
第32図	中大五郎第2遺跡SA4・SA6実測図	57
第33図	中大五郎第2遺跡SA6・SL1実測図	58
第34図	中大五郎第2遺跡SL2・SL3実測図	59
第35図	中大五郎第2遺跡SB10・SC2実測図	60
第36図	中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(1)	63
第37図	中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(2)	64
第38図	中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(3)	65
第39図	中大五郎第2遺跡SA2出土土器実測図	66
第40図	中大五郎第2遺跡SA2～SA6出土土器実測図	67
第41図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(1)	68
第42図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(2)	69
第43図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(3)	70
第44図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(4)	71
第45図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(5)	72
第46図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(6)	73
第47図	中大五郎第2遺跡SL2出土土器実測図(1)	74
第48図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(2)	75
第49図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(3)	76
第50図	中大五郎第2遺跡SL3・SC2出土土器実測図	77
第51図	中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(1)	78
第52図	中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(2)	79
第53図	中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(3)	80
第54図	中大五郎第2遺跡SA2・SA5・SL2出土石器実測図	81
第55図	中大五郎第2遺跡SC1・SB8実測図	105
第56図	中大五郎第2遺跡SB1・SB2実測図	106
第57図	中大五郎第2遺跡SB3・SB4実測図	107
第58図	中大五郎第2遺跡SB5・SB6実測図	108
第59図	中大五郎第2遺跡SB7・SB9・SC3実測図	109
第60図	中大五郎第2遺跡SB8・SC1実測図	110

#### 第4章

第1図	本池遺跡A区遺構分布図	149～150
第2図	本池遺跡B区遺構分布図	151
第3図	本池遺跡A・B区土層断面図	152

第4図	本池遺跡A区S B 1・2実測図	154
第5図	本池遺跡A区S B 3・4実測図	155
第6図	S B 1～4柱穴断面図	156
第7図	本池A区S B 5・6・7実測図	157～158
第8図	本池A区S B 8・9実測図	160
第9図	本池A区S B 10・11実測図	161
第10図	本池A区S B 12・13実測図	163
第11図	本池A区S B 14～16実測図	164
第12図	本池A区S A 1実測図	166
第13図	本池A区S C 1・S Z 1実測図	167
第14図	本池A区出土遺物実測図(1)	169
第15図	本池A区出土遺物実測図(2)	170
第16図	本池A区出土遺物実測図(3)	171
第17図	本池A区出土遺物実測図(4)	172
第18図	本池A区出土遺物実測図(5)	174
第19図	本池A区出土遺物実測図(6)	175
第20図	本池A区出土遺物実測図(7)	176
第21図	本池A区出土遺物実測図(8)	177
第22図	本池A区出土遺物実測図(9)	178
第23図	本池A区出土遺物実測図(10)	179
第24図	本池A区出土遺物実測図(11)	181
第25図	本池A区出土遺物実測図(12)	182
第26図	本池A区出土遺物実測図(13)	183
第27図	本池B区S A 1実測図	184
第28図	本池B区S A 2実測図、S C 1実測図	185
第29図	本池B区S C 2～4実測図	186
第30図	本池B区S C 5～7実測図	187
第31図	本池B区S C 8・9実測図	188
第32図	本池B区出土遺物実測図(1)	190
第33図	本池B区出土遺物実測図(2)	191
第34図	本池B区出土遺物実測図(3)	192
第35図	本池B区出土遺物実測図(4)	193
第36図	本池B区出土遺物実測図(5)	194

## 第5章

第1図	前畠遺跡遺構分布図	243～244
-----	-----------	---------

第2図	S A 2・4 実測図	245
第3図	S A 5 実測図	246
第4図	S A 1・2・4・5 出土遺物実測図	247
第5図	S A 5 出土遺物実測図	248
第6図	S A 6・7 実測図	250
第7図	S A 8 実測図	251
第8図	S A 6・7・8 出土遺物実測図	252
第9図	S A 9 実測図	254
第10図	S A 11・12 実測図	255
第11図	S A 8・9・10・11 出土遺物実測図	256
第12図	S A 11・12 出土遺物実測図	257
第13図	S A 13 実測図	259
第14図	S A 14 実測図	260
第15図	S A 13・14 出土遺物実測図	261
第16図	S A 15・16 実測図	263
第17図	S A 14・15 出土遺物実測図	264
第18図	S A 16・18・19・20・21 出土遺物実測図	266
第19図	S A 18・19 実測図	267
第20図	S A 20・22 実測図	268
第21図	S A 21・42 実測図	269
第22図	S A 24・25, S C 5・6・7 実測図	270
第23図	S A 22・25 出土遺物実測図	271
第24図	S A 26, S C 3・8 実測図	272
第25図	S A 27・28・29 実測図	274
第26図	S A 27・26・28・29 出土遺物実測図	275
第27図	S A 38・40 実測図	277
第28図	S A 30・33・38 出土遺物実測図	278
第29図	S A 40 出土遺物実測図	279
第30図	S A 1・3 実測図	281
第31図	S A 17・43 実測図	282
第32図	S C 13・16 実測図	283
第33図	S C 1・3・8・16, S A 3 出土遺物実測図	284
第34図	S E 1 実測図	285
第35図	S E 1 土層断面図	287
第36図	S E 1 遺構外出土遺物実測図	289

# 表 目 次

## 第2章

第1表 出土土器觀察表(1) .....	28
第2表 出土土器觀察表(2) .....	29
第3表 出土土器觀察表(3) .....	30
第4表 出土土器觀察表(4) .....	31
第5表 土器片加工円盤計測表 .....	31
第6表 遺跡出土石器觀察表 .....	32
第7表 坪穴住居觀察表 .....	32
第8表 挖立柱建物觀察表 .....	34

## 第3章

第9表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(1) .....	82
第10表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(2) .....	83
第11表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(3) .....	84
第12表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(4) .....	85
第13表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(5) .....	86
第14表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(6) .....	87
第15表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(7) .....	88
第16表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(8) .....	89
第17表 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(9) .....	90
第18表 中大五郎第2遺跡掘立柱建物一覧 .....	91
第19表 中大五郎第2遺跡坪穴住居跡一覧 .....	91
第20表 中大五郎第2遺跡土器觀察表 .....	104
第21表 中大五郎第2遺跡石器觀察表 .....	104

## 第4章

第1表 本池遺跡・掘立柱建物一覧表 .....	165
第2表 宮崎県墨苦土器・刻書土器出土遺跡一覧表 .....	197
第3表 本池遺跡出土土器觀察表(1) .....	198
第4表 本池遺跡出土土器觀察表(2) .....	199
第5表 本池遺跡出土土器觀察表(3) .....	200
第6表 本池遺跡出土土器觀察表(4) .....	201
第7表 本池遺跡出土土器觀察表(5) .....	202
第8表 本池遺跡出土土器觀察表(6) .....	203

第 9 表	本池遺跡出土土器觀察表（7）	204
第10表	本池遺跡出土土器觀察表（8）	205
第11表	本池遺跡出土土器觀察表（9）	206
第12表	本池遺跡出土土器觀察表（10）	207
第13表	本池遺跡出土土器觀察表（11）	208
第14表	本池遺跡出土土器觀察表（12）	209
第15表	本池遺跡出土石器觀察表	210
第16表	本池遺跡出土土錘觀察表	210
 第 5 章		
第 1 表	前烟遺跡出土土器觀察表（1）	291
第 2 表	前烟遺跡出土土器觀察表（2）	292
第 3 表	前烟遺跡出土土器觀察表（3）	293
第 4 表	前烟遺跡出土土器觀察表（4）	294
第 5 表	前烟遺跡出土土器觀察表（5）	295
第 6 表	前烟遺跡出土土器觀察表（6）	296
第 7 表	前烟遺跡出土土器觀察表（7）	297
第 8 表	前烟遺跡出土土器觀察表（8）	298
第 9 表	前烟遺跡出土土器觀察表（9）	299
第10表	前烟遺跡出土土器觀察表（10）	300
第11表	前烟遺跡出土石器・土錘觀察表	300

# 図版目次

## 卷頭

- 図版1 丸谷地区遺跡群全景
- 図版2 中大五郎第1遺跡全景
- 図版3 中大五郎第2遺跡全景
- 図版4 本池遺跡A区全景
- 図版5 前畠遺跡全景

## 第2章

- 図版1 SA1、SA2 ..... 41
- 図版2 SA3、SA4 ..... 42
- 図版3 SA5、SA6炭化材出土状況 ..... 43
- 図版4 SA6、SA4・SA5・SA7付近 ..... 44
- 図版5 SL1、SL1・SL2・SA4・SA6・SL3・SB1付近 ..... 45
- 図版6 SA6、SB2付近、SC2 ..... 46
- 図版7 中大五郎第1遺跡出土遺物（1） ..... 47
- 図版8 中大五郎第1遺跡出土遺物（2） ..... 48
- 図版9 中大五郎第1遺跡出土遺物（3） ..... 49
- 図版10 中大五郎第1遺跡出土遺物（4） ..... 50

## 第3章

- 図版1 中大五郎第2遺跡SA1土器出土状況（1） ..... 115  
中大五郎第2遺跡SA1土器出土状況（2） ..... 115  
中大五郎第2遺跡SA1土器出土状況（3） ..... 115  
中大五郎第2遺跡SA2土器出土状況（1） ..... 115
- 図版2 中大五郎第2遺跡SA2土器出土状況（2） ..... 116  
中大五郎第2遺跡SA3土器出土状況（1） ..... 116  
中大五郎第2遺跡SA3土器出土状況（2） ..... 116  
中大五郎第2遺跡SA3石器出土状況 ..... 116
- 図版3 中大五郎第2遺跡SA3土器出土状況（3） ..... 117  
中大五郎第2遺跡SC1出土土器 ..... 117  
中大五郎第2遺跡出土土器 ..... 117  
中大五郎第2遺跡SL1土器出土状況（1） ..... 117
- 図版4 中大五郎第2遺跡SL1土器出土状況（2） ..... 118  
中大五郎第2遺跡SL2土器出土状況（1） ..... 118

図版 4	中大五郎第 2 遺跡 S L 2 土器出土状況 (2) .....	118
	中大五郎第 2 遺跡 S A 2 検出状況 .....	118
図版 5	中大五郎第 2 遺跡 S A 3 検出状況 .....	119
	中大五郎第 2 遺跡 S A 5 検出状況 .....	119
	中大五郎第 2 遺跡 S L 3 検出状況 .....	119
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 完掘状況 .....	119
図版 6	中大五郎第 2 遺跡 S A 2 完掘状況 .....	120
	中大五郎第 2 遺跡 S A 3 完掘状況 .....	120
	中大五郎第 2 遺跡 S A 4 完掘状況 .....	120
	中大五郎第 2 遺跡 S A 6 完掘状況 .....	120
図版 7	中大五郎第 2 遺跡 S L 3 完掘状況 .....	121
	中大五郎第 2 遺跡 S L 2 完掘状況 .....	121
	中大五郎第 2 遺跡 S L 1 完掘状況 .....	121
	中大五郎第 2 遺跡 S B 1 完掘状況 (1) .....	121
図版 8	中大五郎第 2 遺跡 S B 1 完掘状況 (2) .....	122
	中大五郎第 2 遺跡 S B 2 完掘状況 .....	122
	中大五郎第 2 遺跡 S B 3 完掘状況 .....	122
	中大五郎第 2 遺跡 S B 4 完掘状況 .....	122
図版 9	中大五郎第 2 遺跡 S B 5 完掘状況 .....	123
	中大五郎第 2 遺跡 S B 6 完掘状況 .....	123
	中大五郎第 2 遺跡 S B 7 完掘状況 .....	123
	中大五郎第 2 遺跡 S B 8 完掘状況 .....	123
図版10	中大五郎第 2 遺跡 S B 9 完掘状況 .....	124
	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物完掘状況 (1) .....	124
	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物完掘状況 (2) .....	124
	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物完掘状況 (3) .....	124
図版11	中大五郎第 2 遺跡完掘状況 (1) .....	125
	中大五郎第 2 遺跡完掘状況 (2) .....	125
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (1) .....	125
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (2) .....	125
図版12	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土上器 (3) .....	126
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (4) .....	126
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (5) .....	126
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (6) .....	126
図版13	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (7) .....	127
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (8) .....	127

図版13	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（9）	.....	127
	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（10）	.....	127
図版14	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（11）	.....	128
	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（12）	.....	128
	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（13）	.....	128
	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（14）	.....	128
図版15	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（15）	.....	129
	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（16）	.....	129
	中大五郎第2遺跡S A 1出土土器（17）	.....	129
	中大五郎第2遺跡S A 2出土土器（1）	.....	129
図版16	中大五郎第2遺跡S A 2出土土器（2）	.....	130
	中大五郎第2遺跡S A 2出土土器（3）	.....	130
	中大五郎第2遺跡S A 2出土土器（4）	.....	130
	中大五郎第2遺跡S A 2出土土器（5）	.....	130
図版17	中大五郎第2遺跡S A 2・S A 3出土土器	.....	131
	中大五郎第2遺跡S A 3出土土器（1）	.....	131
	中大五郎第2遺跡S A 3・S A 5出土土器	.....	131
	中大五郎第2遺跡S A 3・S A 4出土土器	.....	131
図版18	中大五郎第2遺跡S A 4出土土器（1）	.....	132
	中大五郎第2遺跡S A 4・S A 5出土土器	.....	132
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（1）	.....	132
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（2）	.....	132
図版19	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（3）	.....	133
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（4）	.....	133
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（5）	.....	133
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（6）	.....	133
図版20	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（7）	.....	134
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（8）	.....	134
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（9）	.....	134
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（10）	.....	134
図版21	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（11）	.....	135
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（12）	.....	135
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（13）	.....	135
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（14）	.....	135
図版22	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（15）	.....	136
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器（16）	.....	136

図版22	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(17)	136
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(18)	136
図版23	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(19)	137
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(1)	137
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(2)	137
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(3)	137
図版24	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(4)	138
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(5)	138
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(6)	138
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(7)	138
図版25	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(8)	139
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(9)	139
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(10)	139
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(11)	139
図版26	中大五郎第2遺跡SL2・SB8出土土器	140
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(12)	140
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(13)	140
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(14)	140
図版27	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(15)	141
	中大五郎第2遺跡SL2出土土器(16)	141
	中大五郎第2遺跡SL2・SL3出土土器	141
	中大五郎第2遺跡出土土器(1)	141
図版28	中大五郎第2遺跡出土土器(2)	142
	中大五郎第2遺跡出土土器(3)	142
	中大五郎第2遺跡出土土器(4)	142
	中大五郎第2遺跡出土土器(5)	142
図版29	中大五郎第2遺跡出土土器(6)	143
	中大五郎第2遺跡出土土器(7)	143
	中大五郎第2遺跡出土土器(8)	143
	中大五郎第2遺跡出土土器(9)	143
図版30	中大五郎第2遺跡出土土器(10)	144
	中大五郎第2遺跡出土土器(11)	144
	中大五郎第2遺跡出土石器	144
	中大五郎第2遺跡出土土器(12)	144

#### 第4章

図版1	本池遺跡A区全景、A区平安時代遺構群	213
図版2	A区SB1、A区SB1柱穴断面、A区SB2・3・4	214
図版3	A区SB5・6・7、A区SB8、A区SB9	215
図版4	A区SB10・11・12、A区SB14、A区SA1	216
図版5	A区SC1、A区SZ1、A区平安時代遺物出土状況	217
図版6	白磁出土状況、鉄製鉤針出土状況、土鍊出土状況	218
図版7	A区出土弥生土器(1)、A区出土弥生土器(2)、 A区出土弥生土器(3)、A区出土弥生土器(4)	219
図版8	A区出土弥生土器(5)、A区出土土師質土器壺(1)、 A区出土土師質土器壺(2)、A区出土土師質土器壺(3)	220
図版9	A区出土土師質土器壺(4)、A区出土土師質土器壺(5)、 A区出土土師質土器壺(1)、A区出土土師質土器壺(2)	221
図版10	A区出土土師質土器壺(3)、A区出土土師質土器壺(4)、 A区出土土師質土器壺(5)、A区出土土師質土器壺(1)	222
図版11	A区出土土師質土器壺(2)、A区出土土師質土器壺(3)、 線刻土師質土器、A区出土布痕土器	223
図版12	A区出土墨書き土器	224
図版13	墨書き土器赤外線写真(1)、墨書き土器赤外線写真(2)、 墨書き土器赤外線写真(3)	225
図版14	墨書き土器赤外線写真(4)、墨書き土器赤外線写真(5)、 墨書き土器赤外線写真(6)	226
図版15	墨書き土器赤外線写真(7)、墨書き土器赤外線写真(8)、 墨書き土器赤外線写真(9)	227
図版16	A区出土須恵器(1)、A区出土須恵器(2)、A区出土須恵器(3) A区出土須恵器(4)	228
図版17	A区出土須恵器(5)、A区出土須恵器(6)、A区出土須恵器(7) A区出土須恵器(8)	229
図版18	A区出土須恵器(9)、A区出土越州窑青磁、A区出土中国産白磁、 A区出土国產白磁	230
図版19	A区SB2出土鐵鏃(表)、同左(裏)、A区出土鐵鏃鉤針、A区出土土鍊 A区出土石器	231
図版20	本池遺跡B区全景、B区SA1検出状況、B区SA1完掘状況	232
図版21	B区SA1ステップ状遺構、B区SA2土層断面、B区SA2完掘状況	233
図版22	B区SC1、B区SC2、B区SC3	234
図版23	B区出土繩文土器(1)、B区出土繩文土器(2)	235

图版24	B区出土弥生土器（1）、B区出土弥生土器（2）	236
	B区出土弥生土器（3）、B区出土弥生土器（4）	
图版25	B区出土弥生土器（5）、B区出土弥生土器（6）	237
	B区出土弥生土器（7）、B区出土弥生土器（8）	
图版26	B区出土磁器、B区出土石皿、B区出土石器、B区出土石器未製品	238

## 第5章

图版1	前畠遺跡完掘状况、遺構検出状況	303
图版2	前畠遺跡空中写真（1）、空中写真（2）	304
图版3	空中写真（3）、空中写真（4）	305
图版4	S A2、S A4	306
图版5	S A5土器出土状况、S A7	307
图版6	S A11、S A12	308
图版7	S A14、S A19	309
图版8	S A21・42、S A22	310
图版9	S A25、S A27	311
图版10	S A29、S A38	312
图版11	S A17、S A43	313
图版12	S E1土層断面、S E1硬化面	314
图版13	S E1門状遺構、S E2	315
图版14	S A1・2出土土器、S A4出土土器、S A5出土土器（1）	316
图版15	S A5出土土器（2）、S A5出土土器（3）、S A5出土土器（4）	317
图版16	S A6出土土器、S A7出土土器、S A8出土土器	318
图版17	S A9出土土器、S A10・11出土土器、S A11出土土器	319
图版18	S A12出土土器、S A13出土土器、S A14出土土器	320
图版19	S A15出土土器、S A16・18・19出土土器、S A20・21出土土器	321
图版20	S A22出土土器、S A25出土土器、S A27出土土器	322
图版21	S A26・28・29出土土器、S A30・33・38出土土器、S A40出土土器	323
图版22	住居跡出土石包丁（表）、住居跡出土石包丁（裏）、S A1・3、S A3出土遺物	324
图版23	S E1出土遺物（外）、S A1出土遺物（内）、S C16出土繩文土器（1）	325
图版24	S C16出土繩文土器（2）、遺構外出土繩文土器、遺構外出土弥生土器	326
图版25	遺構外出土陶磁器（外）、遺構外出土陶磁器（内） 前畠遺跡出土錢貨（外）、前畠遺跡出土錢貨（裏）	327
图版26	S A16・S A13・S A15・S A18・遺構外出土土器 上大五郎遺跡 S D1、上大五郎遺跡 S D1出土錢貨	328

NAKADAIGOROU DAI 1  
**中大五郎第1遺跡**

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯と調査の組織

### 1. 調査に至る経緯

宮崎県都城市丸谷地区では丸谷川の河川改修と県営は場整備事業が平成2年度から同時並行で進められている。

それらに伴って数次にわたる発掘調査が実施されている。は場整備事業の面工事については、前年度あるいは当年度に宮崎県文化課が行った試掘調査の結果と造成計画とを照らし合わせながら、宮崎県北諸県農林振興局・宮崎県文化課・都城市文化課の三者間で協議をもち、事業施工上保存が困難な部分については記録保存のための発掘調査を行った。発掘調査を実施した遺跡は下記のとおりである。なお、調査総面積は41,000m<sup>2</sup>である。

①平成3年度 中大五郎第1遺跡 [調査面積： 3,000m<sup>2</sup>]

中大五郎第2遺跡 [調査面積： 6,000m<sup>2</sup>]

②平成4年度 本池遺跡 [調査面積： 10,000m<sup>2</sup>]

③平成5年度 上大五郎遺跡 [調査面積： 18,000m<sup>2</sup>]

前畑遺跡 [調査面積： 4,000m<sup>2</sup>]

### 2. 調査の組織

調査の主体は都城市教育委員会であり、経費の運用も同市文化課が行った。ただし、現場における調査および出土遺物の整理・報告書作成は宮崎県文化課の埋蔵文化財担当職員があたった。なお、現場における発掘調査が平成3～5年度で、正式報告書の作成が平成6・7年度である。発掘調査の体制については各年度に刊行した概要報告書に記しているので、以下に、最終年度である平成7年度の報告書作成にかかる調査体制を掲げる。

調査責任者 都城市 教育長 腹元 幸美

調査総括 都城市文化課長 達矢 昭夫

調査事務局 同文化課長補佐 永野 元保

同 文化財係長 中村 久司

同 主事 下鶴 咲子 (庶務担当)

同 主事 桑畑 光博 (事務連絡)

調査指導 宮崎県教育府文化課主査 石川 悅雄

調査員 同 主任主事 山田洋一郎

同 主事 重山 郁子

同 主事 東 憲章

### 整理作業員

馬場 熊、山崎 孝子、佐藤 雪子、井上 典子、池田 芳枝、市野漸ふさ子、

長谷川恵子、松田 緋子、高橋 茂子、井野 貞代

## 第2節 遺跡の立地と歴史的環境

丸谷地区遺跡群は、宮崎県の南西部に位置する都城市の北東部に所在する。都城市は、宮崎県の南西部端に位置し、東・西・南の三方を山に囲まれた盆地の中央にあり、北西には、標高1,574mの秀峰高千穂ノ峰をあおぎ、南西は鹿児島県に接している。丸谷地区遺跡群は都城市内北部を東流する大淀川水系の丸谷川沿いの河岸段丘上に点在する。標高は約140m～約142mを計る。遺跡群からは、霧島連山の秀峰高千穂ノ峰を遠望することができる。

その歴史的環境は、九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査や平成2年度から行われた丸谷川河川改修事業、県営は場整備事業に伴う発掘調査で明らかになりつつある。

丸谷地区遺跡群においては、霧島連山に近いこともあり、火山灰や火碎流などの火山性堆積物が厚いため、縄文後期より遡る遺跡は確認されていない。今回報告する本池遺跡で縄文時代後期の土器が包含層中から確認されているが、これがこの一帯の遺跡での最も古い遺物である。住居跡などは確認されていない。弥生時代になると丸谷地区には多くの遺跡が営まれるようになったようである。今回報告する中大五郎第1遺跡、中大五郎第2遺跡、前畠遺跡、未報告の下大五郎遺跡、山ノ田第1遺跡で集落が確認されている。古墳時代についても前畠遺跡、上大五郎遺跡で集落跡が確認されている。この時期の古墳は、近くに県指定文化財の志和池古墳群が知られている。上大五郎遺跡では、中世館跡が確認されており、この地に当時有力な豪族の存在があったことが明らかになつた。今回報告の本池遺跡でも多数の中世の柱穴が見られる。丸谷川北岸の谷ノ口遺跡や、下川原遺跡では中世以降の水田跡が検出されている。

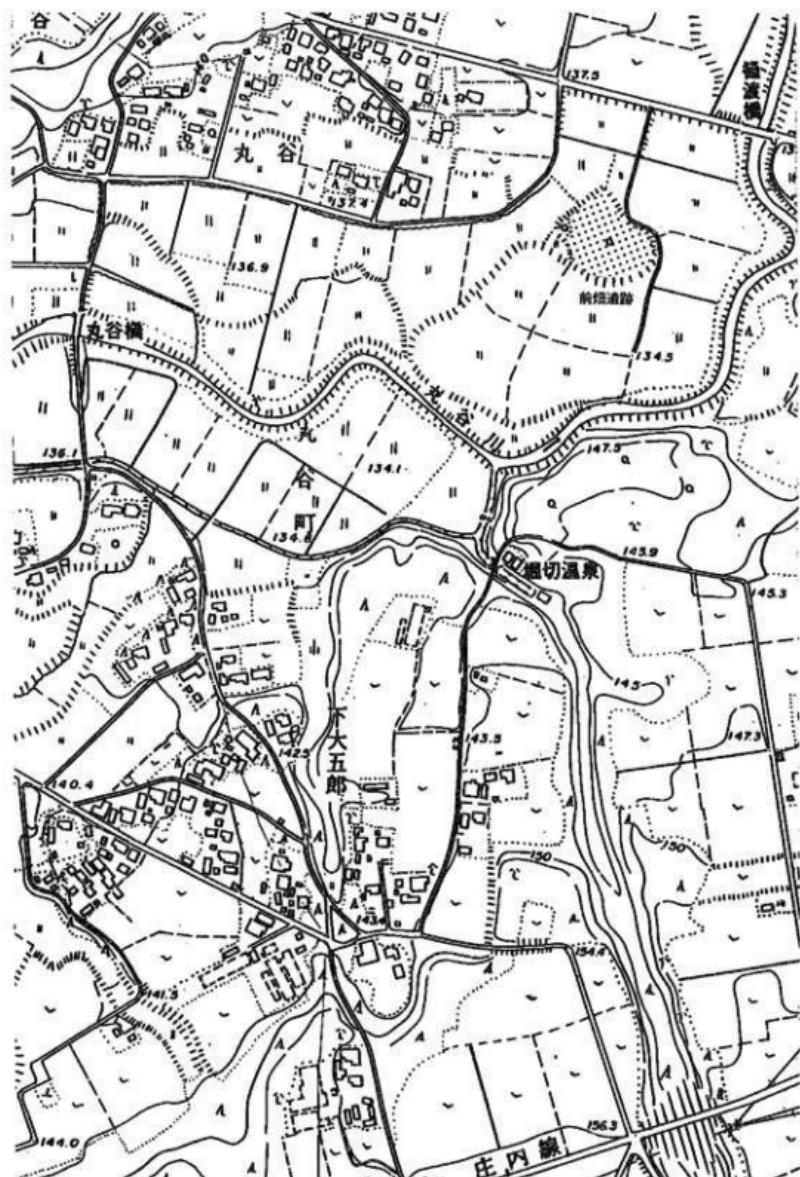


第1図 丸谷地区位置図

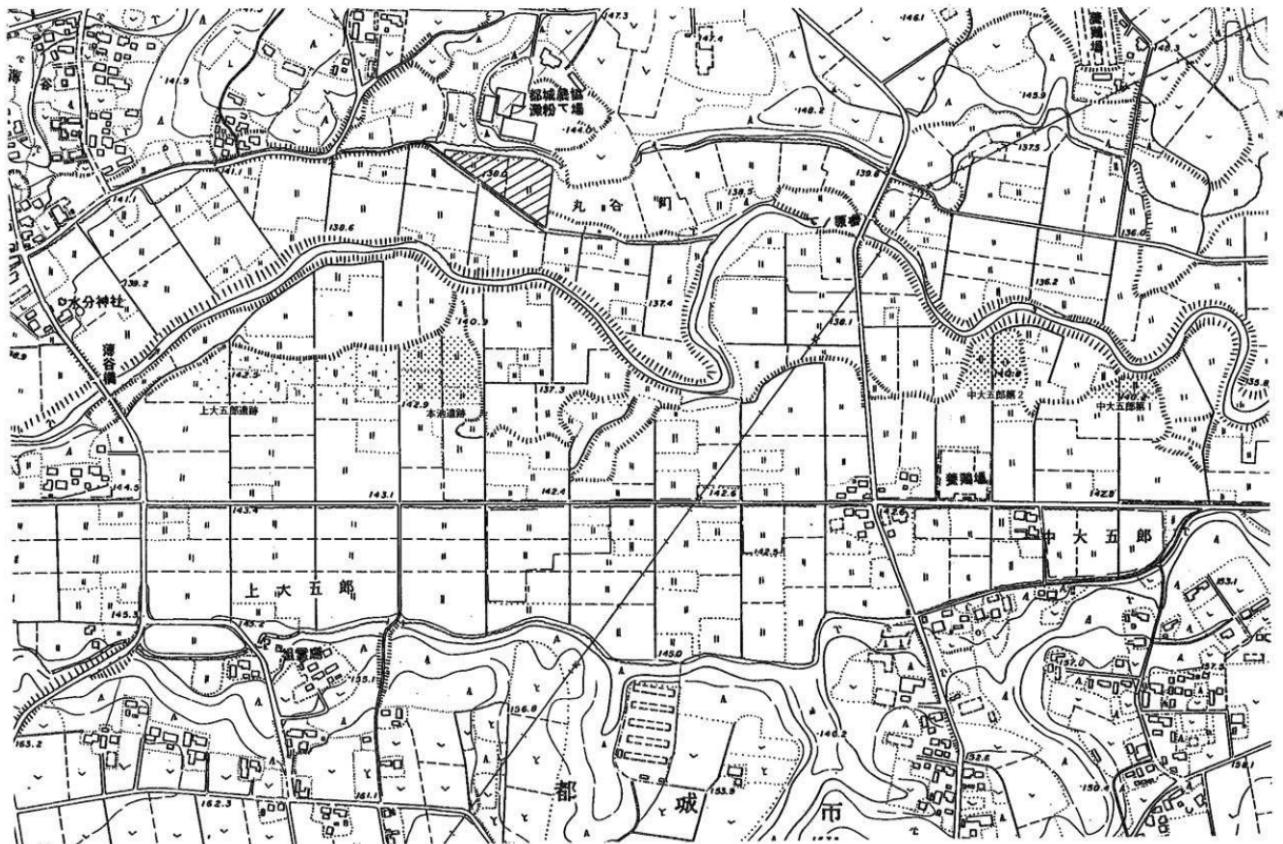


1. 中大五郎第1遺跡    2. 中大五郎第2遺跡    3. 本池遺跡    4. 前畠遺跡  
 5. 上大五郎遺跡    6. 下大五郎遺跡    7. 下川原遺跡    8. 谷ノ口遺跡  
 9. 山ノ田第1遺跡    10. 丸谷第1遺跡    11. 丸谷第2遺跡    12. 下菌遺跡  
 13. 神竹遺跡        14. 野々美谷町址

第2図 丸谷地区遺跡群周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第3図 前畠遺跡周辺地形図 (1/5,000)



第4図 中大五郎第1・中大五郎第2・本池・前畠遺跡周辺地形図(1/5,000)

## 第2章 中大五郎第1遺跡の調査

### 第1節 遺跡の立地と環境

中大五郎第1遺跡は、宮崎県都城市丸谷町に所在する弥生時代の集落遺跡である。遺跡は、丸谷川の低位段丘上の標高約140mに位置する。本遺跡は丸谷川の川面からの比高差が7m程度の丸谷川に直接張りだした低い段丘上に立地する。本報告書で報告されている中大五郎第2遺跡は西隣の段丘の張り出し部に所在する。近辺には同じく弥生時代の集落跡の下大五郎遺跡、中世遺跡の上大五郎遺跡、本池遺跡が丸谷川沿いの南側に並んで所在する。丸谷川の対岸には、近世以後の水田跡が確認された谷ノ口遺跡、下川原遺跡が所在する。

本遺跡は、調査前は水田として耕作されていたが、一部分中世の遺構を含む弥生時代の遺物包含層は譲られていた。中大五郎第1遺跡は、丸谷川に張りだした低い段丘上に立地するため、改修されていない丸谷川により川に面した崖面は大きく抉られていた。このことから本遺跡は過去に遺跡の北端部が崩落した可能性を考えられる。

中大五郎第1遺跡は丸谷川の南岸に位置し、西隣の段丘張り出し部には、中大五郎第2遺跡が所在する。中大五郎第1遺跡の所在する段丘はなだらかで、南は次の段丘の斜面まで広い平坦面を作っている。東西は丸谷川の作る河岸段丘が長く延びている。北西には高千穂ノ峰を望む。丸谷川の対岸には、近世以後の水田跡が確認された谷ノ口遺跡、下川原遺跡が所在するが、こちらは中大五郎第1遺跡、中大五郎第2遺跡が所在する段丘よりも一段低い段丘である。また、丸谷川の北岸は谷ノ口遺跡、下川原遺跡のある段丘が比較的広く開けている。中大五郎第1遺跡の所在する段丘に対応する段丘は丸谷川南岸よりも広く開けている。

遺跡の所在する都城盆地は北西に霧島連山をひかえているため火山性堆積物が厚く堆積している。特に遺跡から北西に直線で約12kmのところにある御池から約4,200年前に噴出した御池ボラが厚い。本遺跡近くで約5mの厚さが確認されている。したがって、この地区においては縄文時代前期に遡る遺跡は確認されていない。しかし、前記したとおり、弥生時代においては多くの集落が営まれたことが確認されている。

### 第2節 調査の概要

中大五郎第1遺跡の調査は、グリット法を用いて行った。10m×10mのメッシュを調査区の形に合わせて磁北を基準にして設定した。グリッドは南北方向を数字で表し、東西方向をアルファベットで表した。検出した遺構は、弥生時代の竪穴住居7軒、溝状遺構3基、中世の掘立柱建物1棟、柱穴36個、時期不明の土坑2基である。出土遺物は弥生時代のものがほとんどで、中世の遺物は出土しなかった。

都城盆地の遺跡の特徴として火山性堆積物が厚く堆積していることがある。本遺跡も例外ではなく、黒色土の下には、中大五郎第1遺跡から北西に直線で約12kmのところにある御池を噴出源とする御池ボラが約5mの厚さで堆積している。御池ボラの噴出年代は約4,200年前と考えられる。本遺跡は、調査前は水田であったので、遺跡の上位の土層は耕作により破壊さ

れていた。しかし、いわゆる水田の床土の下にクロボク土と呼ばれる黒色土が残っており、遺物はこの層の下位から御池ボラ混じりの層にかけて出土した。遺構は、御池ボラの多い黒色土中から検出された。

### 第3節 層序

都城盆地は、北西に霧島連山をひかえており、南には鹿児島県の桜島もあるので、火山性堆積物が豊富に、厚く堆積している。その中の代表的なものに約4,200年前に御池から噴出された御池ボラがある。中大五郎第1遺跡付近でも約5mの厚さが確認されている。このことから、当遺跡の調査は御池ボラを遺構確認面とした。御池ボラの上層には、いわゆるクロボク土があり、遺物はこの黒色土の下部から御池ボラ混じりの黒色土中にかけて出土している。第5図は中大五郎第1遺跡における基本土層である。

I層：灰褐色軟質土

水田の耕作土である。粘性が強いが、  
軟らかい。

II層：赤褐色硬質土

いわゆる水田のパン層である。鉄分  
の沈殿により、赤褐色を呈する。非常  
に硬くボロボロしている。

III層：漆黒色軟質土

いわゆるクロボク土である。御池ボラやスコリアをほとんど含まず、非常に軟らかい。  
粘性が高い。遺物包含層である。

IV層：漆黒色軟質土

御池ボラをIII層よりも多く含むが、まばらで細かい。御池ボラの直径は2mm程度であ  
る。スコリアもわずかに、疎らに含む。遺物包含層である。

V層：暗黒色軟質土

御池ボラを多く含み、下部にいくにしたがって褐色を呈する。御池ボラの大きさはさ  
まざまで、2mm程度から2cm程度まであるが、ほとんどは2~5mm程度である。層の下  
部の方が上部よりも御池ボラの粒が大きい傾向が見られる。遺物包含層である。

VI層：褐色硬質土

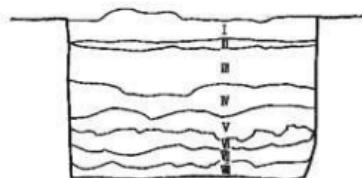
粘性が少なく硬い。ボロボロしている。直径2mm~2cm程度の御池ボラを多く含み主  
体となる土は火山灰質の砂質のものである。場所により御池ボラをきわめて多く含むと  
ころがある。

VII層：灰褐色砂質土

粘性はほとんど無く、御池ボラとスコリアを多く含む。

VIII層：黄色ボラ土

御池ボラの純粹層である。



第5図 基本土層図

#### 第4節 弥生時代の遺構と遺物

中大五郎第1遺跡では、弥生時代の遺構が10基検出されている。内訳は、竪穴住居7軒、周溝状遺構3基である。検出地点は、調査区の中央部から東よりの部分に集中している。グリッド番号で表すとB-2・C-3・C-4・C-5・D-3・D-4・D-5・E-3・E-4・F-1・F-2・F-3・G-1・G-2・G-3となる。

検出した遺構の概要は、竪穴住居は、宮崎県南部の弥生時代後期に特徴的に見られる間仕切を持つタイプ3軒（SA2・SA3・SA7）、ベット状遺構を持つタイプ2軒（うち間仕切を持つタイプが1軒、SA3・SA4）、炭化材が出土しているものが1軒（SA6）である。出土遺物は、細かい土器片が多い。周溝状遺構は、いずれも長軸が6～7m、短軸が5～6mである。どの遺構も検出面からの深さは浅い。特に周溝状遺構からは、大きな土器片が多く出土している。

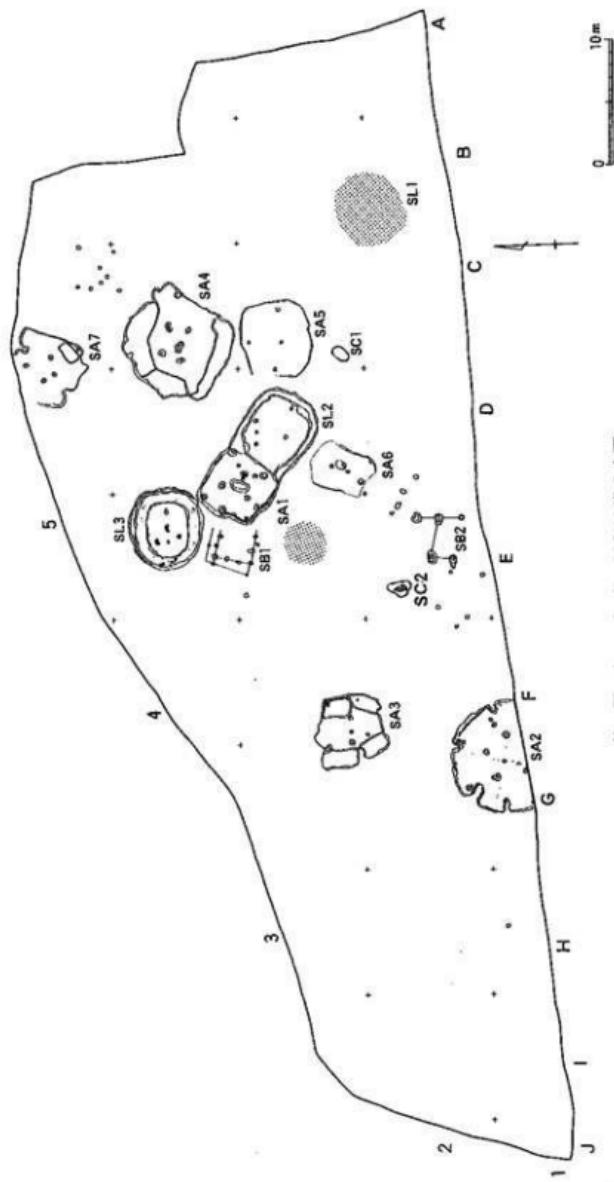
##### SA1（第7図）

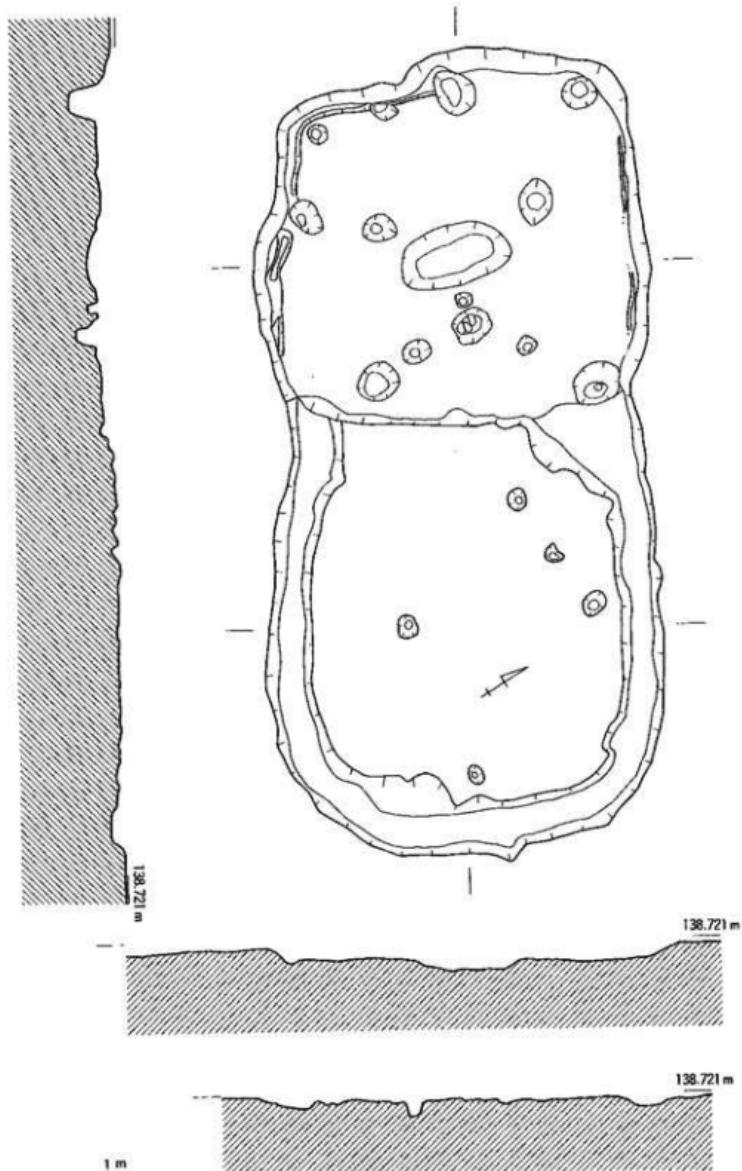
D-3・D-4・E-3・E-4にまたがって位置する。SL2を切っている。柱穴は中央部に6個、壁際に7個見られる。検出時には一部分壁帯溝が巡るが使用時には全体に巡っていたと考えられる。中央部に土坑が検出された。土坑の深さは検出面から約18cm、住居跡の床面から約10cmである。焼土は見られなかった。出土遺物は多くなく、床面から浮いた状態のものが多い。

##### SA1出土遺物（第8図）

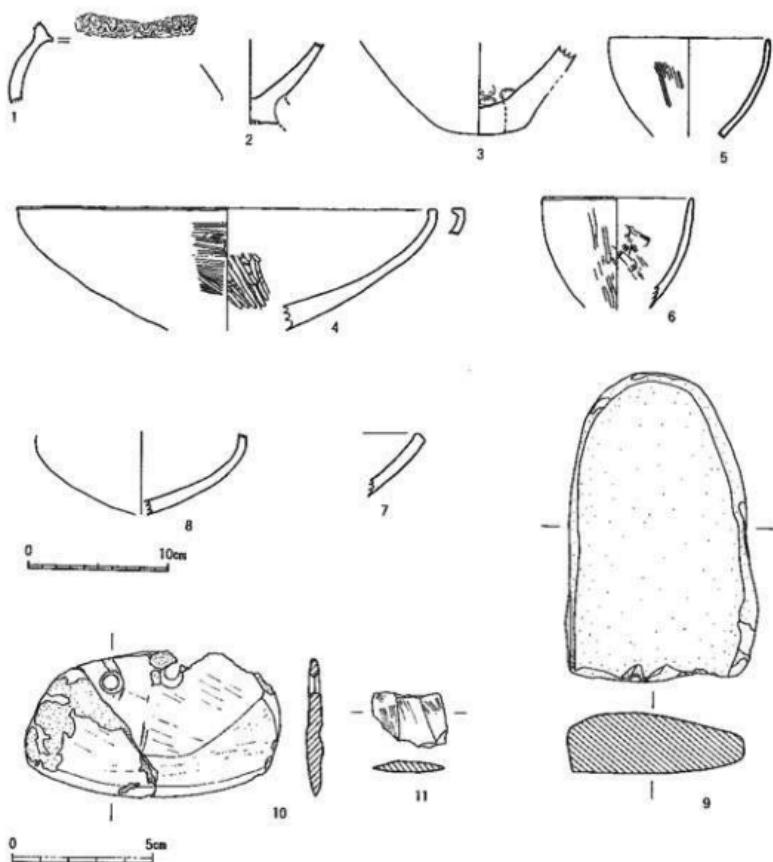
1は複合口縁の壺である。口縁部に櫛描波状紋が施される。口唇部は残存していない。2は成川式土器のカメの底部付近である。胴部の底部付近が残存しているが、底部は脚の外面部分が剥離している。土器を製作する時に脚部分を貼り付けた部分が剥離したと考えられる。3は壺の底部である。内面に指痕痕が見られる。4は大型のハチである。器高に対して口径が非常に大きいのが特徴である。口縁部の残りは良いが、底部を欠いている。内面、外面共にミガキが施されている。口唇部が一部分内側に突出している。底部付近に黒斑がある。5・6・7・8はハチである。5・6は器高対口径の比が1に近いタイプのものである。7は内・外面共に風化気味である。8の内面の口縁部近くにススが付着している。外面には薄く付着する。9は砂岩の砥石である。使用面は上下平坦面と側面にもおよんでいる。特に実測図で示した面は使い込まれてあり、表面はツルツルとした手触りで光沢がある。10は緑色岩類の石包丁である。刃部中央から割れており、穿孔部も欠損している。一部分節理しているが、きれいに研磨されている。表面は研磨時の擦痕が顕著に見られる。穿孔は両面から回転運動によりあけられている。刃部の仕上げは丁寧で現在でも使用に耐えられそうな部分がある。刃部には切損部以外に大きな刃こぼれは見られないが、小さな使用痕は刃部向かって右側に多く見られる。この部分は刃部左側に比べて刃部の摩耗が大きい。11は大型の磨製石錐の基部近くである。石材は10と同じく緑色岩類である。この石材は薄く継がれる性質があるのでその性質を利用していたと考えられる。

第6図 中大五郎 第1迴游產卵分布図





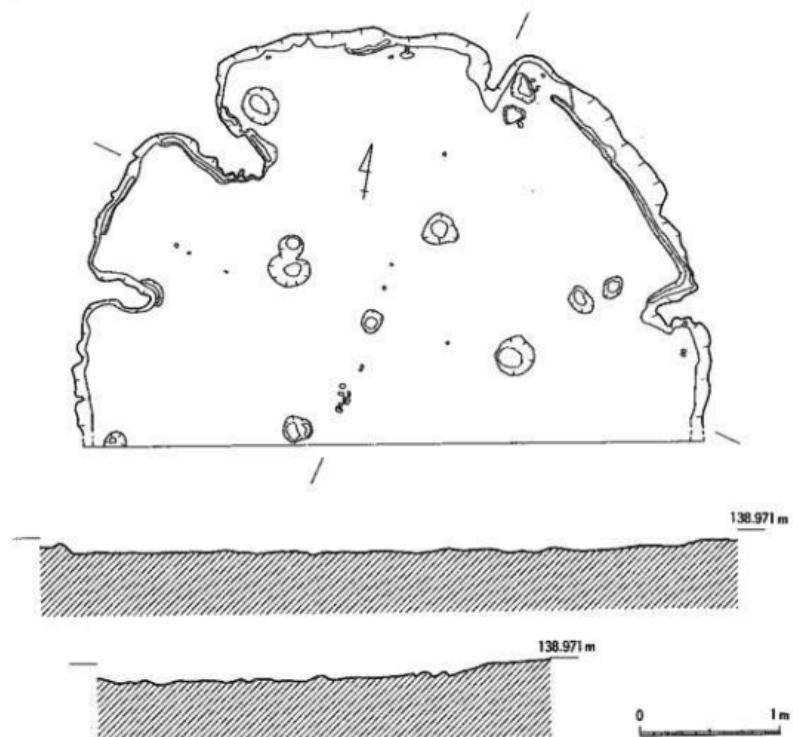
第7図 SAI・SL2 実測図



第8図 SA 1出土遺物実測図

S A 2 (第9図)

調査区の南端に位置するため全体の約半分しか発掘できなかった。円形プランの突出壁を持つ住居跡である。柱穴は中央部に6個壁際に6個確認された。壁際には壁帶溝も見られる。造構確認面からの深さは約5~10cmである。掘り込みの深さが浅いため調査時に造構の平面プランを確認するのが困難であった。焼土は確認されなかった。突出壁は住居跡全体の大きさに比べて小型で間仕切りとしての機能は十分では無かったと考えられる。遺物との関係で、弥生時

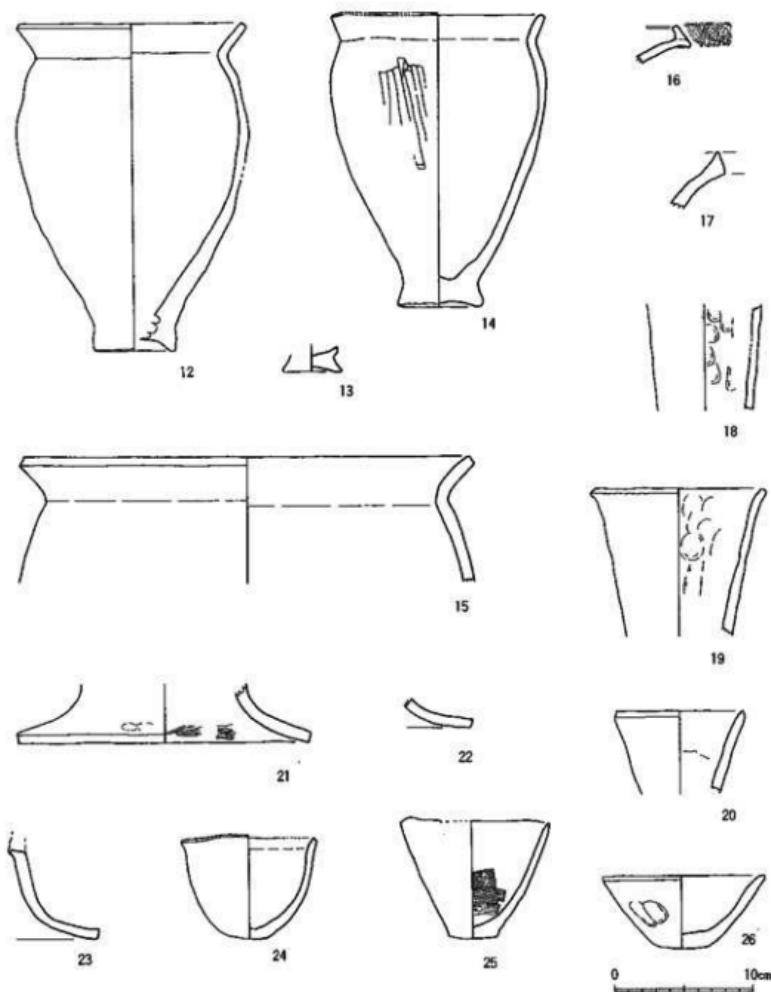


第9図 SA 2 実測図

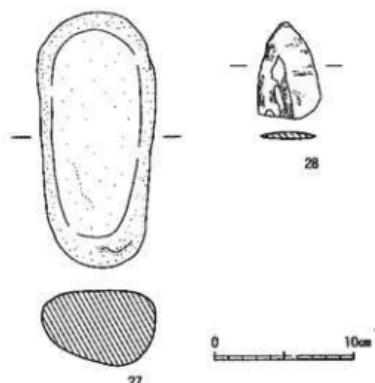
代後期後半の、突出壁を持つ住居跡としては新しいものであると考えられる。出土遺物は多いが床面の直上から出土した遺物は少ない。

#### S A 2 出土遺物（第10図）

12・14は小型のカメである。12は、外面の胴部上半部から口縁部にかけてススが付着している。外面の胴部上半部はナデが施されているが、下半部は斜め方向のハケ目が施されている。全体的に調整は粗い。口唇部は平坦に仕上げられている。13はきわめて小型のカメの底部である。内・外面共にナデが施されている。口唇部は丸みを帯びている。やや上げ底になっている。14の胴部上半部は工具ナデで仕上げられているが、胴部下半部は指によるナデが施されている。胸部の外面は指痕が顕著に見られる。内面は工具ナデが見られる。17はカメの口縁部から胴部



第10図 S A 2 出土遺物実測図



第11図 SA 2 出土石器実測図

にかけての破片である。SA 2 から出土した外の土器片に比べて赤味の強い色調である。外・内面共に調整が丁寧できれいなナデが施されている。口唇部の中央部が窪んでいる。頸部の稜線は外・内面共に明瞭ではない。16・17は二重口縁ツボの口縁部である。16の口縁部に飾り波状紋が施されている。口縁部外面はナデの後施文されており、それ以外の部分の調整はナデが施されている。17の頸部下部には黒斑が見られる。調整は外・内面共にナデが施されているが、やや風化気味である。18・19・20は長頸ツボの頸部である。18は口唇部は失われているが、薄手で外・内面共に調整が丁寧できれいなナデが施されている。内面に指押さえが多く見られる。18は19・20に比べ口縁部の開きが少ない。19は大型の長頸ツボである。口縁部が頸部に比べ比較的大きく開く。調整は全体的に丁寧でナデが施されている。内面に指押さえが多く見られる。19は18・19・20の3点の中で最も丁寧に作られた土器である。20は内面に粘土の繊維目が見られる。21・22・23は高壺の脚部である。21の内面は非常に丁寧にミガキが施されている。外面はやや風化気味で調整が不明瞭であるが、下部に指押さえが見られる。スソ部側面の中央部がわずかに窪んでいる。22は内・外共に風化気味で調整が不明瞭である。23は上部に透かしを持つ。内・外共に風化気味で調整が不明瞭である。24・25・26共に小型のハチである。24・25は薄手でいびつな土器である。27は砂岩の砥石である。使用面は1面の可能性が高い。28は緑色岩類の磨製石鏃である。基部付近と先端部が欠損している。

#### SA 3 (第13図)

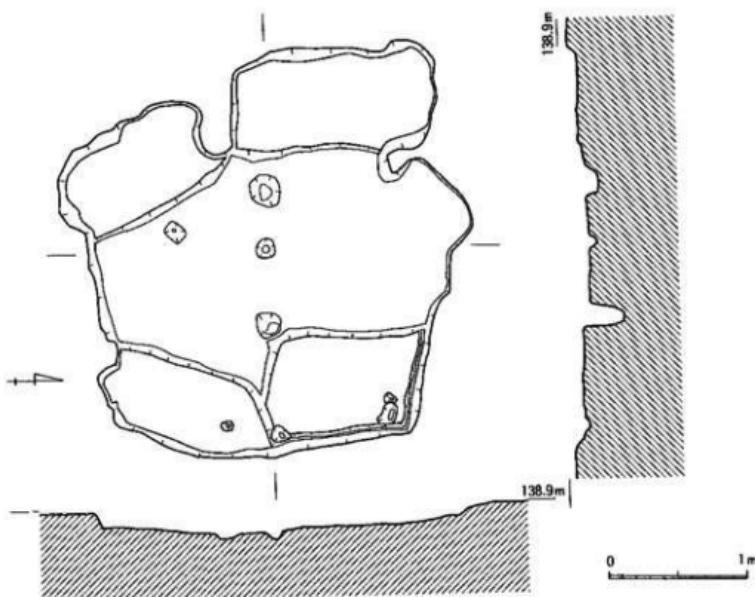
調査区の西よりのF-2・3・G-2・3グリッドに位置する。2個の突出壁と4個のベット状遺構を持つ。柱穴は中央部に3個、壁際に2個持つ。北東のベット状遺構部分に壁帶溝を有する。掘り込みは遺構確認面から約10cm~20cmである。遺構内から出土した遺物は少ない。

#### SA 3 出土遺物 (第12図29・40)

数少ない遺物である。カメの胸部上半部で貼り付け突帯を有する。突帯の頂部がわずかに窪む。40は凝灰質頁岩の剥片である。磨製石鏃の素材剥片で剥離による成形中に放棄されたものと考えられる。

#### SA 4 (第14図)

調査区の中央や東よりの部分のC-3グリッドに位置する。大型の住居跡のSA-5の北側で、SL-1の東側にある。SA-5からは最も近い部分で約20cm、SL-1からは最も近い部分で約50cmしか離れていない。方形で掘り込みの浅いタイプである。遺構確認面から床面までの深さが非常に浅いため住居跡の北西隅は削平によりプランの確認ができなかった。柱穴



第12図 SA 3 実測図

は中央に1個、壁際に3個確認された。この住居跡から出土した遺物もきわめて少ない。

#### S A 4 出土遺物（第12図30・31・32・41）

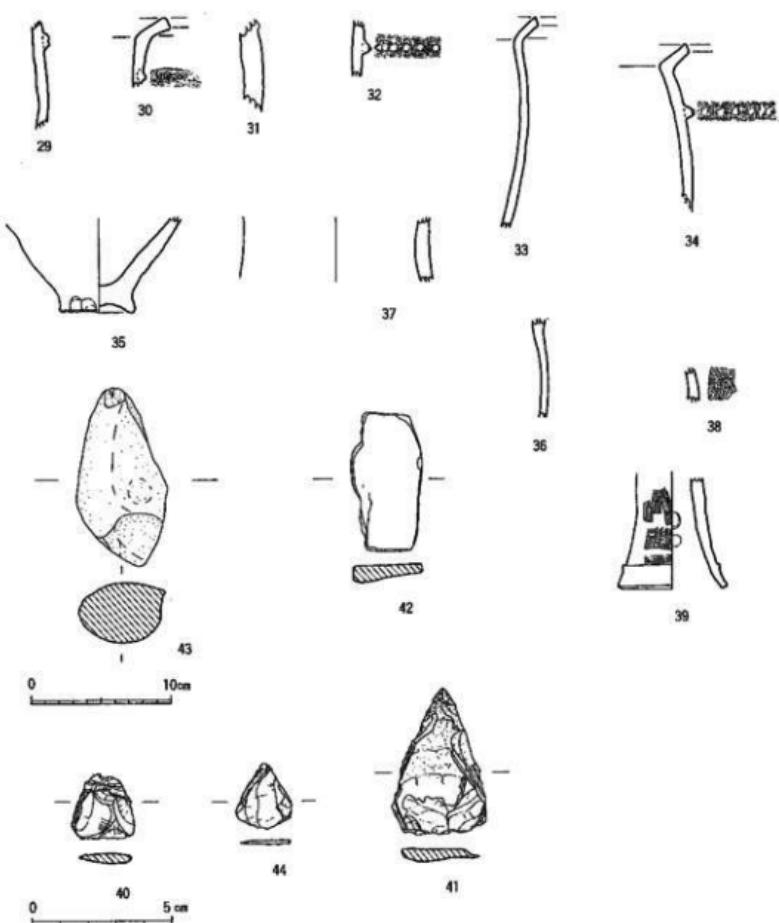
30はカメの口縁部である。胴部にキザミ目突帯を有するが、風化が著しくキザミが明瞭ではない。外面全体にススが付着している。31はカメの胴部である。上部に貼り付け突帯を有する。器壁がきわめて厚く色調も赤黒く外の土器と趣を全く異にしている。都城地方に特徴的に見られる土器である。32はカメの胴部片である。キザミ目突帯を有し、キザミ目は押圧による。41は凝灰質頁岩の剥片である。磨製石鎌の素材剥片である。

#### S A 5（第15図）

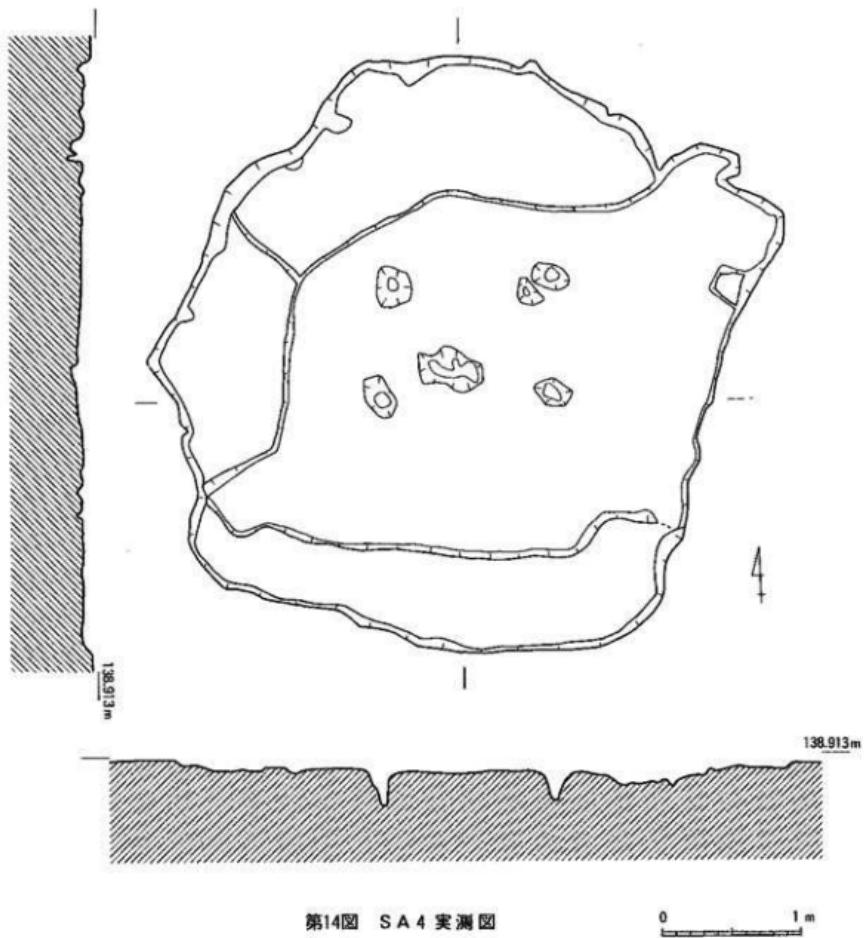
不定型のベット状遺構を持つ住居跡である。柱穴は中央に5個、壁際に1個見られる。住居跡の北東部分が張り出している。中央の土坑には焼土は見られなかった。外の部分にも焼土は見られなかった。この住居跡も遺構確認面からの深さはない。住居跡内出土の遺物は少ない。

#### S A 5 出土遺物（第12図33・35・37）

33はカメである。胴部の張りは弱く、頭部外面の稜線も明瞭ではない。外面にはススが多く付着する。口唇部の中央部がわずかに窪む。胴部上部は、木目の幅の広いハケメが頭著に見られる。35はカメの胴部下部から底部にかけての部分である。調整は稚で胴部下部にケズリによ



第13図 SA3～SA7出土遺物実測図

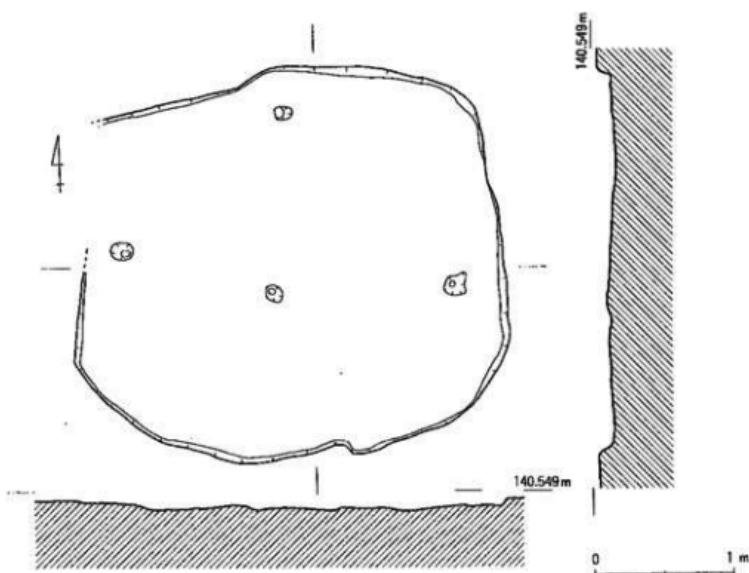


第14図 SA 4 実測図

る窪みがある。また、底部外面の指揮さえが多く見られる。外面にはススが付着している。37は器台である。器面は風化気味であるが、外面にはハケメが見られる。

#### S A 6 (第16・17図)

調査区の中央のD-2グリッドに位置し、SL-1の南側にあたる。SL-1との間隔は最も近い部分で約40cm離れている。埋土中より炭化した木材が出土しており、中心から放射状に出土したことから屋根材と考えられる。しかし、遺存状況が悪い部分が多いために屋根材として原型をとどめるものはない。この住居跡も遺構確認面からの掘込みは浅いため削平により住



第15図 SA 5 実測図

居跡の短辺側が検出できなかった。辛うじて下端の推定ラインが検出できたに留まった。柱穴は中央に2個、壁際に1個確認された。中央に浅いスリバチ状の土坑が認められた。中から焼土は確認されなかった。住居跡内の外の部分からも焼土は確認できなかった。

#### S A 6 出土遺物（第12図38・42）

S A 6からの出土遺物はきわめて少ないがその中に瀬戸内系の遺物がある。38がそれであるが、ツボの胴部片と考えられる。その小さな破片の外面には在地系の土器には見られないキザミメが見られる。42は凝灰質頁岩の砥石である。偏平な剥片を素材としており、側面も使用により摩滅している。

#### S A 7（第18図）

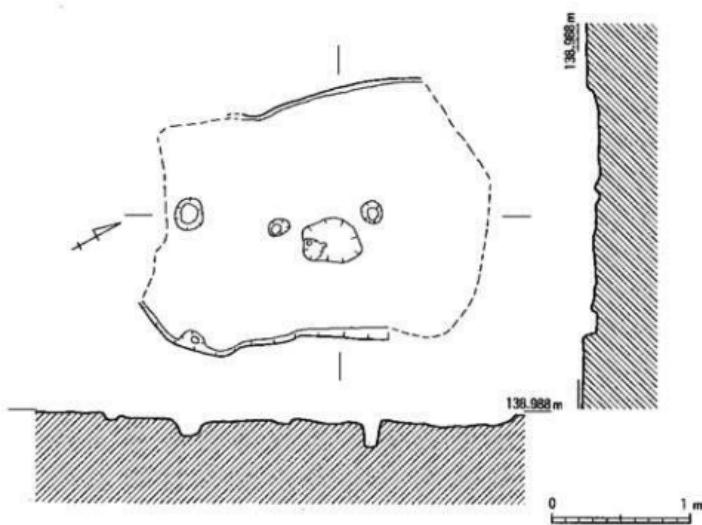
調査区の北の端に位置する。調査区の中で最も丸谷川に近く、その北側部分は丸谷川に崩落していると考えられる。残存部分を見ると平面プランはいびつな方形で小さな間仕切りを2個有している。柱穴は中央に4個確認された。壁際には1個確認された。住居跡内に擾乱が切っている。遺構確認面からの深さが浅く、出土遺物は少ない。

#### S A 7 出土遺物（第13図36・39・43・44）

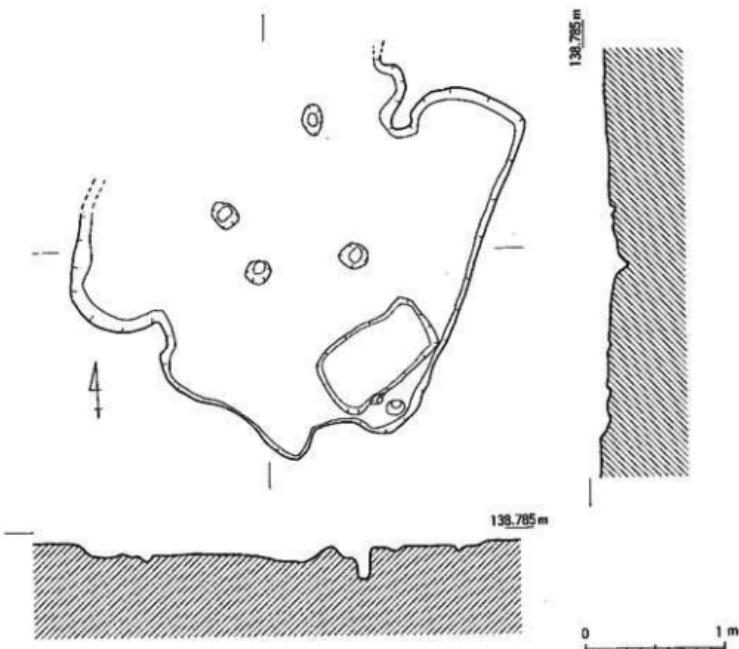
36はカメの胴部である。胴部の張りの弱い薄手のカメである。外面は丁寧に磨かれており、顔料を塗布したような仕上げになっている。内面は指押さえの痕が多くみられるが、上部にはハケメも見られる。39は小型の高壺の脚部である。外面にはハケメが見られる。43は砂岩の砥



第16図 SA 6 炭化材出土状況実測図



第17図 SA 6 実測図



第18図 SA7 実測図

石である。長楕円形の砂岩の転運を使用していたが、使用中に何らかの要因によって切損したものと考えられる。44は凝灰質頁岩の剥片である。磨製石鎌の素材剥片である。

#### S L 1 出土遺物（第19図）

45は中型のカメである。胴部にキザミメを持つ。キザミはヘラ状工具の押圧により施されている。口唇部中央がわずかに窪む。調整は丁寧で外面上部はナデ、下部はハケメが見られる。46は中型のカメである。胴部にキザミメを持つ。キザミはヘラ状工具の押圧により施されている。器壁はやや風化気味であるが、内・外面はナデにより調整されている。47はカメの胴部である。貼り付け突帯を有し、突帯の中央部がわずかに窪む。器壁は丁寧にナデが施されている。48・49はカメの底部である。48は上げ底で外面に4~6mm幅の工具痕が見られる。49はわずかに上げ底である。50はツボの口縁部である。頸部に貼り付け突帯を有する。頸部内面にヘラケズリの痕が見られる。外面は丁寧にナデで仕上げられている。51は大型のハチである。器高に対して口径が非常に大きい。内面にススが付着している。

#### S L 2 (第7図)

調査区の中央部D-3グリッド付近に位置し、SA1に切られている。周構内に柱穴を4個持つが、本遺跡では中世の柱穴も確認されているためこの周溝状遺構に伴うものかどうかは調

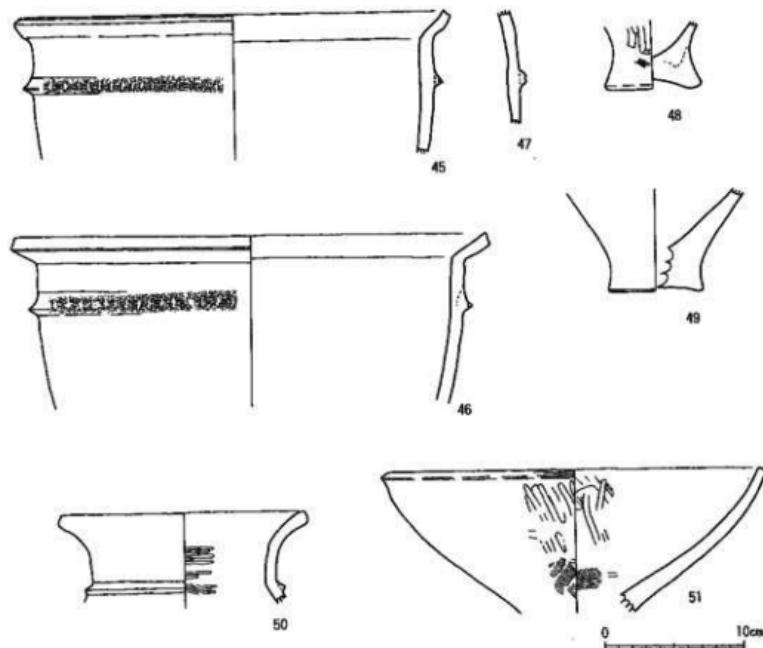
査時には確認が掴めなかった。しかし、この周溝状遺構が南北方向の棟の上屋を持つ可能性も否定できない。

#### S L 3 (第20図)

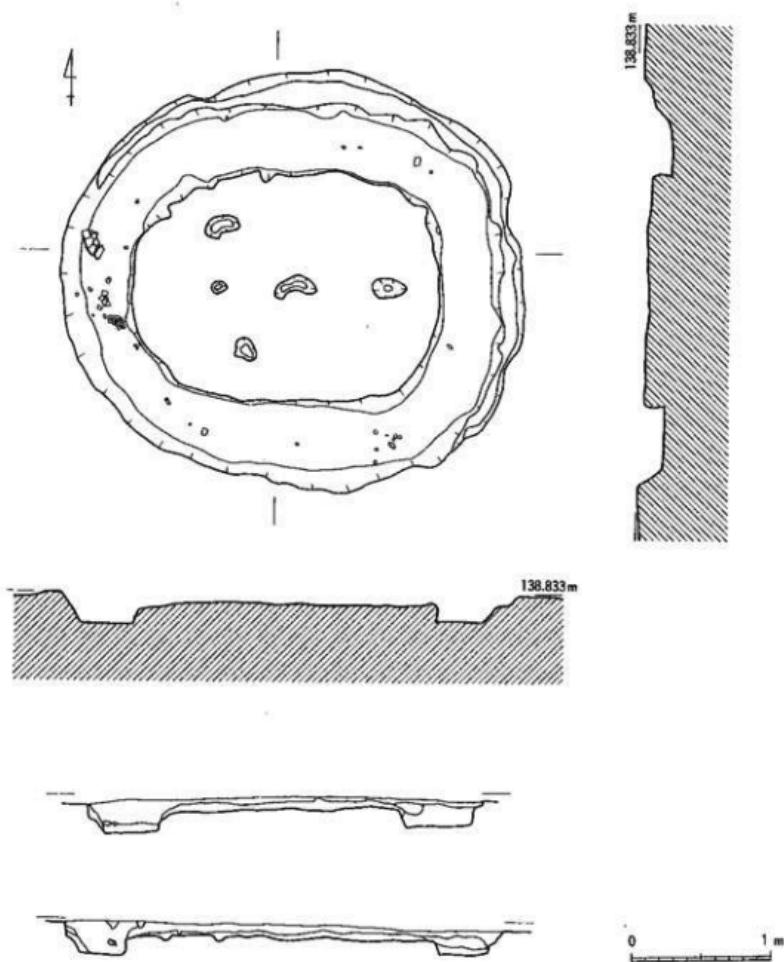
調査区中央部北より部分に位置し、S A - 1 に隣接している。周溝内に柱穴を 2 個持ち、東西方向の棟の上屋を持つ可能性が考えられる。周溝の北側から東側にかけての部分は乾燥すると崩れ易い土質のため崩壊したものと考えられる。

#### S L 3 出土遺物 (第21図)

52は口唇部が角張って、その中央部がやや窪む。外面にはスヌが付着している。胴部外面には下半部を中心としてハケメが見られる。53は平底で作りが比較的粗雑なカヌである。52と比較して型式が違う土器であるが、それが時期差であるのか単に精製、粗製の問題であるのかは現時点では不明である。54は52と同じタイプのカヌである。55は53に似たタイプの比較的作りの粗い土器である。胎土に大きな砂粒を多く含む。56は外面に線刻が見られる。2本の横方向

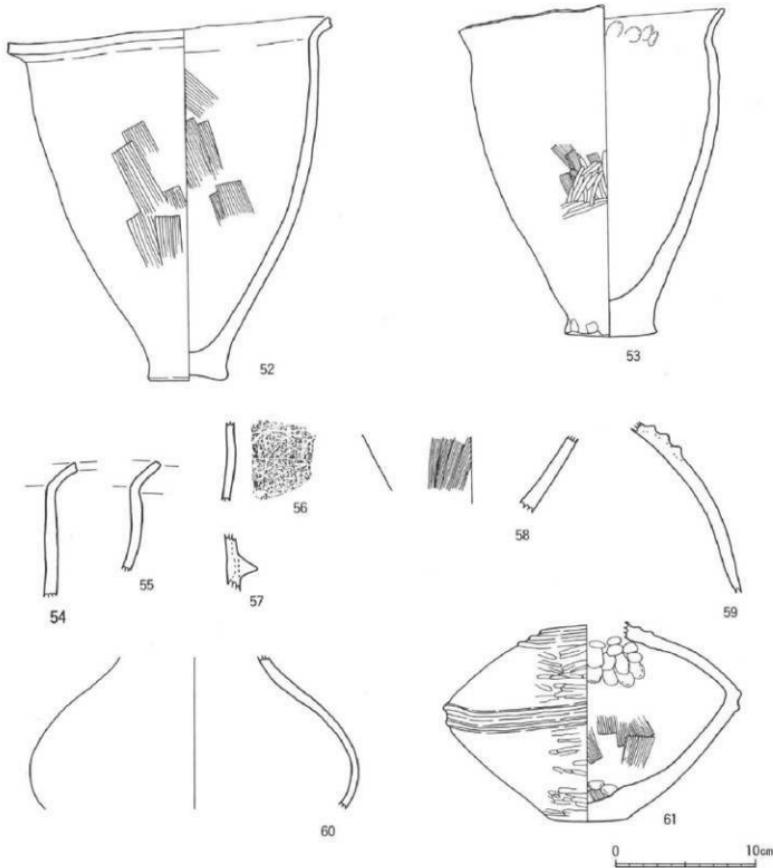


第19図 S L 1 出土遺物実測図



第20図 SL 3 実測図

の直線に上下に毛羽状に線が描き加えられている。57はカメの胴部片で高い貼り付け突帯を有する。58はカメの胴部下半部である。外面にハケメが顕著に見られる。59はツボの胴部上半である。上部に3本の貼り付け突帯がまわる。60は短頸ツボの胴部である。胴部中央部の張りが

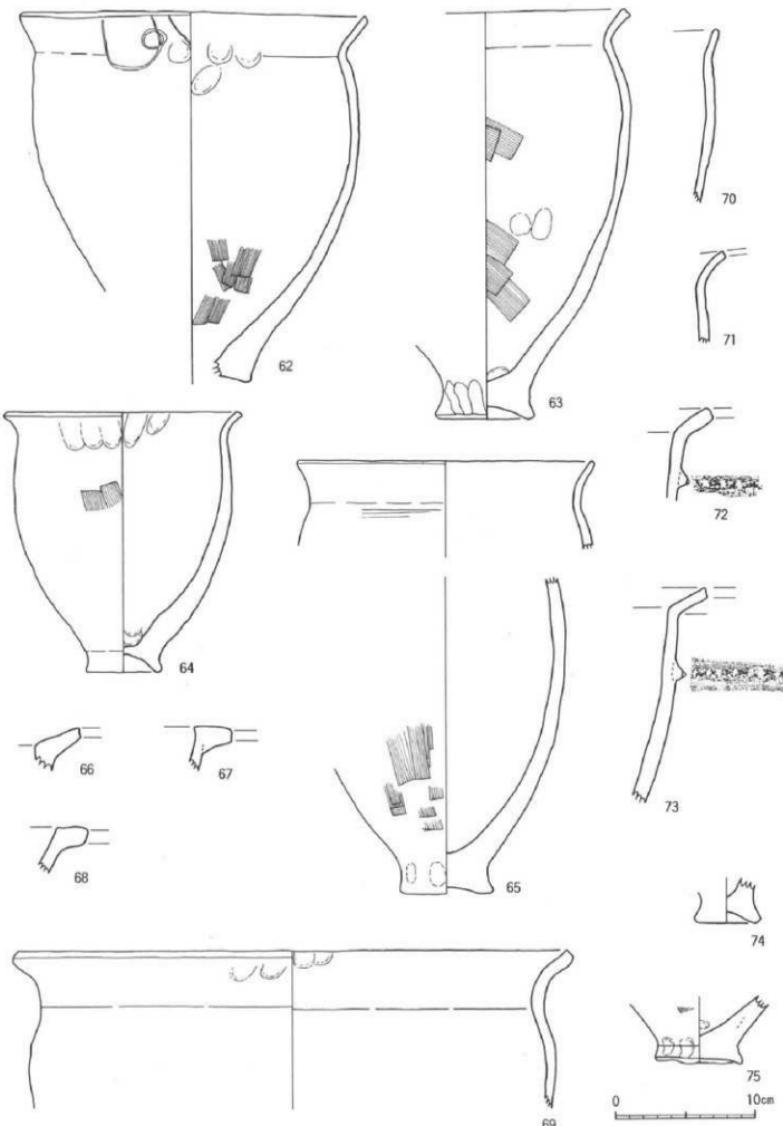


第21図 S L 3出土遺物実測図

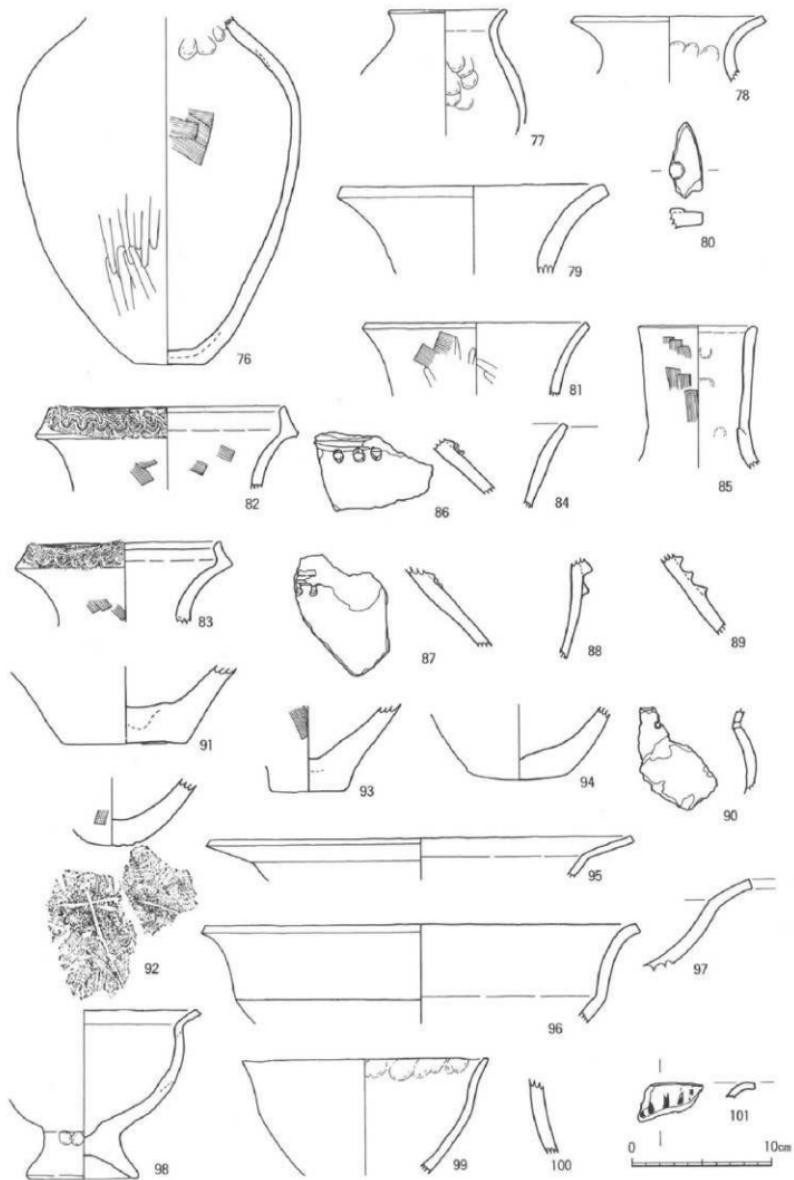
強い薄手のツボである。61は胴部が算盤玉状に張った長頸ツボの胴部である。上部と中央部に低い突帯が巡る。在地系の土器には見られない特徴を持っており、瀬戸内系土器の匂いのする土器である。

遺物包含層出土遺物（第22図）

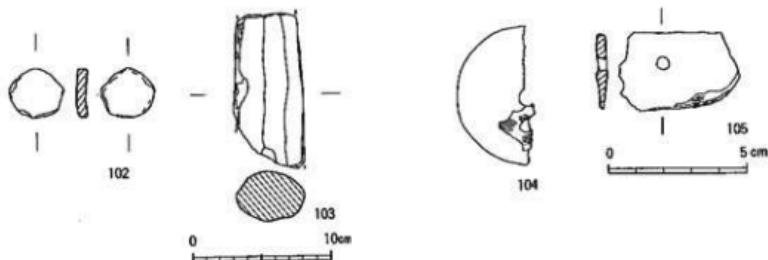
62は口縁部から頸部にかけて線刻が施されている。線刻は3個施されており、1個は口唇部



第22図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



第23図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



第24図 遺物包含層出土遺物実測図（3）

から頸部にかけて半長椭円形を描いている。長椭円形の右側の線上に直径約1.5cmの円がかかっている。その右側には口唇部から頸部にかけて斜め方向に線刻が入る。胴部外面上部にはスヌが付着しているものの丁寧な調製が残っているが、胴部下半部は火にあたったためか風化が激しい。器形はきわめていびつである。63はカメであるが、底部は上げ底状で外側にややつまみ出されている。口縁端部はやや丸みを持つ。64は63よりも上げ底で底部のつまみ出しも大きくなっている。口縁部の仕上げも丸みを持ったものになっており、63よりも新しい様相がみられる。65は胴部の上部が一部欠損して残っておらず、亞みが激しく図上で復元できなかった。やや上げ底で底部のつまみ出しもあまり顕著ではない。66・67・68はカメの口縁部である。68は第13図31と同じタイプのカメであると考えられる。都城地方の弥生時代後期に特徴的なカメである。69は本遺跡出土土器のなかでは大型のカメである。口唇部外面は丸く仕上げられている。頸部のくびれも胴部の張りも弱い。70・71もカメの口縁部から胴部にかけての部分である。どちらも69同様頸部のくびれも胴部の張りも弱い。72・73は胴部上部にキザミメ突帯を有する。キザミはヘラ状工具の押圧による。74は小型のカメの底部である。75もカメの底部であるが、わずかに底部の端をつまみ出して上げ底風にしている。76は頸部から口縁部を欠いたツボである。頸部内面には指押さえが見られ、胴部外面にはヘラ磨きが見られる。胴部の張りは弱い。77は小型のツボである。薄手で口唇部が丸みを帯びている。78はツボの口縁部である。口唇部は四角く仕上げられている。頸部が縦まり口縁部が朝顔状に開いているタイプのものであり、口縁部が屈曲していて開く角度が大きい。79は厚手で大型のツボの口縁部である。口縁部は長く屈曲が弱い。80はツボの口縁部の内面に直径約1.2cmの浮文を持つ。81は薄手ではあるが79と同タイプのツボの頸部である。口唇部は四角く仕上げられており調整は丁寧なナデである。82は二重口縁のツボの頸部から口縁部である。口縁部に櫛描き波状文を有する。頸部外面下部と内面にハケメが見られる。口縁下端部が四角く調整されている。83も82同様に二重口縁のツボの口縁部から頸部である。口縁部に櫛描き波状文を有する。83と異なる点は口縁下端部が四角く調整されておらず、口縁部と頸部の断面がなめらかな三角形状を呈する。84は長頸ツボの頸部から口縁部である。口唇部は四角く調整されている。85長頸ツボの頸部から口縁部である。口唇部は丸く調整されている。86・87は頸部に突帯を巡らし、その最下位に曲玉状の浮文を貼

第1表 出土器観察表(1)

種別	器種	出土 地点	法量 (cm)	調 整		色 調		胎 土	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面		
1 弥生	壺	SA1		ナデ 斜・横方向の ハケ目	ナデ 斜・横方向の ハケ目	灰黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (L5Y 8/3)	4ミリ以下の淡褐色、2ミリ以下の 黒・赤・褐・赤褐色の砂粒を含む。	偏掛状文 二重口縁
2 鎌形 土器	壺	SA1		ナデ	斜・横・横 方向のナデ ア	淡黄 (NOY 8/4) 灰 0Y 7/3	淡黄 (NOY 8/4) 灰 0Y 7/3	4ミリ以下の暗褐色、墨・灰色の砂粒、 2ミリ大の透明光沢粒を含む。	成川式か 内側に一部黒 斑
3 *	壺	SA1	6.4	ナデ 斜・横・前 後の上部あわ け	斜・横・前 後の上部あわ けナデ ア	灰白 (DGY 8/6) 7/4 8/4	灰白 (DGY 8/6) 7/4 8/4	4ミリ以下の褐色、3ミリ以下の暗褐色、 赤色の砂粒を多量に含む。2ミリ以下 の透明・半透明・半遮光の光沢粒を含む。	
4 *	鉢	SA1	28.9	斜・横・前 後の上部あわ けア	ナデ、ハケ目 ミガキ	淡黄 (NOY 8/4)	淡黄 (NOY 8/4)	4ミリ以下の褐色、赤褐色、墨・黑色の 砂粒、1-3ミリの透明光沢粒を含む。	
5 *	鉢	SA1	11.3	横ナデ 斜・横方向の ハケ目	横ナデ	黄 (NOY 8/6) 7SYR 7/6	黄 (NOY 8/6) 7SYR 7/6	4ミリ大の黄色、3リ大の赤褐色の砂粒 1-2ミリの白色・褐色・褐色の砂粒、1-2ミリ 以下の透明光沢粒を含む。	全体的に 風化気味
6 *	鉢	SA1	10.8	ナデ、ハケ目 ミガキ	ナデ ハケ目	黄 (2.5Y 8/3) 灰 0Y 7/4	黄 (2.5Y 8/3) 灰 0Y 7/4	4ミリ以下の褐色、5ミリ以下の暗褐色、 1-2ミリの砂粒、黒・透明・半透明 光沢粒を含む。	外側に一部スズ 内側に一部黒 斑
7 *	鉢	SA1		横ナデ 斜・横方向の ハケ目	横ナデ 斜・横方向の ハケ目	淡黄 (NOY 8/3) 7/4	淡黄 (NOY 8/3) 7/4	3ミリ以下の褐色、黑色の砂粒、1ミリ以 下の黒い透明の光沢粒を含む。	
8 *	鉢	SA1		ナデ	ナデ	淡黄 (SYR 7/6)	淡黄 (SYR 7/6)	2ミリ以下の褐色、黒・半透明の砂粒を含む。 1-2ミリの黒跡粒が多い。	風化のひ 調整不明瞭
12 *	壺	SA2	15.6 5.5 23.6	ナデ 斜・横方向の ハケ目	斜・横・横 方向のナデ ア	灰 (DGY 8/6) 7/3 8/6	灰 (DGY 8/6) 7/3 8/6	4ミリ以下の褐色、5ミリ以下の暗褐色、 0.5-2ミリの透明・半透明・黑色の 光沢粒を含む。	
13 *	壺	SA2	4.05	ナデ	ナデ	黄 (2.5YR 7/6)	黄 (2.5YR 7/6)	2ミリ以下の褐色、墨・灰色の砂粒を多く 含む。1ミリ以下の黒・透明の光沢粒を含む。	
14 *	壺	SA2	14.85 5.5 21.65	[輪廓部]ナデ 斜・横・前 後の上部あわ けア	ナデ	黄 (2.5YR 7/6) 5YR 7/6	黄 (2.5YR 7/6) 5YR 7/6	5ミリ以下の褐色、3ミリ以下の暗褐色、 黒・透明・半透明の光沢粒を含む。	底部に黒斑
15 *	壺	SA2	31.8	横ナデ (工具あり)	横ナデ	黄 (GYR 7/8 6/8, 6/6)	黄 (GYR 7/8 6/8, 6/6)	2ミリ以下の乳白色・黒・墨・褐色の砂粒。 半透明の光沢粒を含む。	
16 *	壺	SA2		横ナデ 斜・横方向の ナデ	横ナデ	黄 (2.5YH 7/6, 6/6)	黄 (2.5YH 7/6, 6/6)	3ミリ以下の褐色・黑色・半透明の砂粒を含 む。	偏掛状文 二重口縁 外側に黒斑付か ず
17 *	壺	SA2		横ナデ	横ナデ	淡黄 (2.5YR 8/6)	淡黄 (2.5YR 8/6)	4ミリ以下の褐色・黑色の砂粒を多く含 む。2ミリ以下の透明光沢粒を含む。	口部周囲に黒斑 か 内側に黒斑
18 *	壺	SA2		やや斜方向の ナデ	指押え、 指ナデ	淡黄 (NOY 8/4) 7SYR 7/6	淡黄 (NOY 8/4) 7SYR 7/6	2ミリ以下の褐色・黑色の砂粒。1.5-2 ミリ以下の透明・半透明・黑色の光沢粒を含む。	
19 *	壺	SA2	12	斜・横方向の ナデ	斜・横方向の ナデ	淡黄 (2.5YH 7/6, 6/6)	淡黄 (2.5YH 7/6, 6/6)	3ミリ以下の褐色・黑色・半透明的 砂粒を含む。	
20 *	壺	SA2	9.2	斜・横方向の ナデ	横ナデ	淡黄 (2.5YR 8/4) 灰白 (GYR 7/6)	淡黄 (2.5YR 8/4) 灰白 (GYR 7/6)	3ミリ以下の褐色・黑色・半透明的 砂粒。1ミリ以下の透明光沢粒を含む。	
21 *	高坏	SA2	20.8	ナデ 留押え	斜・横方向の ナデ	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	淡黄 (2.5YR 7/6) 7SYR 7/6	3ミリ以下の褐色・黑色・灰色の砂粒。3ミリ以 下の黒・透明の光沢粒を含む。	
22 *	高坏	SA2		斜・横方向の ナデ	ナデ	淡黄 (2.5YR 8/4)	淡黄 (2.5YR 8/4)	2ミリ以下の褐色・黑色・半透明的砂粒を 含む。	風化気味
23 *	高坏	SA2		ナデ、下部は 丁寧なナデ ナデ	ナデ、下部は 丁寧なナデ ナデ	淡黄 (2.5YR 7/6) 7SYR 7/6	淡黄 (2.5YR 8/4)	3ミリ以下の褐色の砂粒を含む。	穿孔
24 *	鉢	SA2	9.35	輪廓部-ナデ 斜・横・前 後の上部あわ けア	ナデ 斜・横方向の ハケ目	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	5ミリ大の黒色粒。3ミリ以下の褐色・黑色 の砂粒を含む。	
25 *	鉢	SA2	10.3 3.4 9.65	ナデ	斜・横方向の ハケ目	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	5ミリ大の黄褐色粒。2ミリ以下の褐色・黑色 の砂粒を含む。	内面下部に黒 斑
26 *	鉢	SA2	11.5 3.7 5.2	ナデ 留押え	ナデ 留押え	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	淡黄 (2.5YR 8/4) 7SYR 7/6	2ミリ以下の褐色・黑色の砂粒を含む。1- 2ミリの黒い微細な黑色の砂粒を含む。	貼付安否
29 *	壺	SA3		ナデ	ナデ	淡黄 (2.5YR 8/4)	淡黄 (2.5YR 8/4)	2ミリ以下の褐色・黑色の砂粒を含む。1- 2ミリの黒い微細な黑色の砂粒が 多い。	純日本古 器外側にスズ 付帯

第2表 出土土器観察表(2)

種類	器種	出土 地点	法式(cm)	測 量		色 調		胎 土	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面		
31 弥生	壺	SA4		ナデ	ナデ	黒褐色 (MYR 3/2) 黒褐色 (SYR 4/2)	にぼい黄 (MYR 4/0) 黒褐色 (SYR 4/2)	3ミリ以下の黒・乳白色の砂粒を少し 含む。2ミリ以上の黒い透明・半透明の砂粒 を多く含む。	貼付突起 外面にスス付着
32 *	壺	SA4		ナデ	ナデ ハケ目	黒 (SYR 7/4)	にぼい黄 (SYR 7/4)	3ミリ以下の黒・乳白色の砂粒を含む。 微細な砂粒が多く、透明・黒色の光沢粒を少し含む。	押圧による 組み目突起
33 *	壺	SA5		口部器・ナデ 側面一部の ハケ目	口部器・ナデ 側面一部の ハケ目	黒褐色 (MYR 4/0) 黒褐色 (SYR 4/2)	にぼい黄 (SYR 4/0) 黒褐色 (SYR 4/2)	3ミリ以下の赤褐・黒・乳白色の砂粒 を含む。	外腹一帯に スス付着 貼付突起
34 *	壺	SA7		横ナデ 瓶内側の ハケ目	ナデ	乳白色 (SYR 7/4) 黒褐色 (SYR 4/2)	黒褐色 (SYR 7/4) 黒褐色 (SYR 4/2)	3ミリ以下の赤褐・黒・乳色の砂粒 を含む。	外腹に炭化物 付着 内腹に黒斑
35 *	壺	SA5	5.2	ナデ 指突え	ナデ 指突え	黒 (SYR 7/6) 7/6-6/5 黒褐色 (SYR 3/1)	にぼい黄 (SYR 1/2) 黒褐色 (SYR 2/0)	4-5ミリの褐色粒、3ミリ以下の黒・灰・黃 色の砂粒を多く含む。	
36 *	壺	SA7		ミガキ 柄部を後づ た跡	ナデ	黒褐色 (SYR 5/4) 白 (SYR 7/3)	黒褐色 (SYR 5/4) 白 (SYR 7/3)	3ミリ以下の赤褐・黒・褐色の砂粒を 少し含む。	
37 *	器台	SA5		工具による 擦り内の ナデ	ナデ	黒 (SYR 7/4)	黒 (SYR 7/4) 黒褐色 (SYR 1/1)	3ミリ以下の褐色の砂粒が多い。7ミ リ以上の灰白色、1ミリ以下の微細な 灰・黑色・半透明の砂粒を含む。	風化気味
38 *	高坏	SA6		ナデ	やや深目的 ナデ	黒褐色 (SYR 4/5)	黒褐色 (SYR 4/5)	2ミリ以下の乳白色の粒を少し含む。	外腹に斜方向 のペラ状工具 による剥落
39 *	高坏	SA7	7.1	裏立向のハケ目 ナデ ナデ 指突え による方向	ナデ	黒褐色 (SYR 8/4) 黒褐色 (SYR 8/4)	黒褐色 (SYR 8/4) 黒褐色 (SYR 8/4)	2ミリ以下の灰褐・赤褐色の砂粒を含む。 1ミリ以下の微細な灰・黑色の砂粒を多 く含む。	
45 *	壺	SL1	30.2	横方向の ハケ目 横ナデ	斜-横方向の ハケ目 ナデ	黒褐色 (SYR 7/4) 黒褐色 (SYR 5/2)	にぼい黄 (SYR 7/4) 黒褐色 (SYR 5/2)	2ミリ以下の褐色、15ミリ以下の微細な 灰・黒・乳白色の砂粒、黑色の光沢粒を 含む。	削み口突起 外面にスス付着 内腹に黒斑
46 青 中末一 段	壺	SL1	33.4	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぼい黄 (SYR 7/4)	黒 (SYR 7/4)	2ミリ以下の全色光沢粒、乳白色、半透 明の砂粒、微細な乳白色の砂粒を含む。 先兆粒を多く含む。	貼付突起 外面にスス付着 黒化加熱
47 弥生	壺	SL1		斜-横方向の ナデ (一部工具による)	横ナデ	黒褐色 (SYR 5/6)	赤粒 (SYR 6/1)	2ミリ以下の全色光沢粒、乳白色、半透 明の砂粒、微細な乳白色の砂粒を含む。	貼付突起 外面にスス付着 内腹に黒斑
48 *	壺	SL1	6.9	横ナデのあとハ ナダ・横方 向のナデ	工場による ナダ・横方 向のナデ	にぼい黄 (SYR 3/4) 5/3-4/3	黒褐色 (2.5Y 3/1)	2ミリ以下の灰・褐・乳白色の砂粒を含む。	外腹 風化気味
49 *	壺	SL1	6.8	横・横 方 向のナデ	斜-横方向 のナデ	にぼい黄 (SYR 7/8) 黒褐色 (SYR 5/2)	黒褐色 (SYR 7/8) 黒褐色 (SYR 4/1)	2ミリ以下の灰白・灰・褐色、半透明の砂粒 を含む。	内腹に風化物 付着
50 *	壺	SL1	17.3	横ナデ	横ナデ ヘラミガキ	黒褐色 (SYR 8/4)	黒褐色 (SYR 8/4)	2ミリ以下の褐色の砂粒、15ミリ以下の 黑・褐色の砂粒、微細な光沢粒を含む。	貼付突起
51 *	鉢	SL1	26.6	横ナデ、斜方 向のナデ (内側・外側 のナデ)	横ナデ 横・斜方 向のナデ	黒褐色 (SYR 5/4) 黒褐色 (SYR 4/2) 黒褐色 (SYR 4/2)	黒褐色 (SYR 5/4) 黒褐色 (SYR 4/2) 黒褐色 (SYR 4/2)	2ミリ以下の灰白色粒、2ミリ以下の褐・黑 色・半透明の砂粒、黑色光沢粒を含む。 内腹に黒斑。	外腹に黒斑、 スス付着
52 *	壺	SL3	23.0	横・斜 方 向 のナデ	横ナデ、斜 方 向 のナデ	黒褐色 (SYR 7/8) 黒褐色 (SYR 5/2)	黒褐色 (SYR 7/8) 黒褐色 (SYR 5/2)	外腹にスス付着 内腹に黒斑附近に 風化物付着	
53 *	壺	SL3	18.9	新-斜方 向の ナデ	斜-横方向 のナデ (内側・外側 のナデ)	黒褐色 (SYR 7/8) 黒褐色 (SYR 5/4) 黒褐色 (SYR 5/2)	黒褐色 (SYR 7/8) 黒褐色 (SYR 5/4) 黒褐色 (SYR 5/2)	2ミリ以下の黒褐色・褐・黑色の砂粒、2ミリ 以下の透明・半透明光沢粒を含む。	外腹に黒斑か 黒化加熱
54 *	壺	SL SL3		横ナデ 横・横 方 向 のナデ	横ナデ 横・横 方 向 のナデ	黒褐色 (SYR 8/2)	黒褐色 (SYR 8/2)	15ミリ以下の半透明光沢粒を少し含 む。	外腹にスス付 着
55 *	壺	SL3		ナデ 横ナデ	ナデ	黒褐色 (SYR 8/2) 黒褐色 (SYR 8/1)	黒褐色 (SYR 8/2) 黒褐色 (SYR 8/1)	4ミリ以下の黒・褐・黑色の砂粒、2ミリ以 下的透明光沢粒を含む。	外腹に风化物 付着に沿
56 *	壺	SL3		ナデ	横ナデ	黒褐色 (SYR 6/6)	黒褐色 (SYR 6/6)	4ミリ以下の灰白・褐・黑色の砂粒を含む。 2ミリ以下の透明光沢粒を含む。	外腹に水の要 風化物付着
57 *	壺	SL		横ナデ	ナデ	にぼい黄 (SYR 6/4)	にぼい黄 (SYR 7/4)	2ミリ以下の灰白・褐・黑色の砂粒を 多く含む。	貼付突起 外面にスス付着
58 *	壺	SL3		横 方 向 のナデ	ナデ	にぼい黄 (SYR 7/3) 5/2-4/2	黒褐色 (SYR 7/4) 5/2-4/2	2ミリ以下の灰白・褐・黑色の砂粒を多く 含む。1ミリ以下の透明光沢粒を少し含 む。	外腹にスス付 着
59 *	壺	SL3		ナデ	ナデ 指突え	黒褐色 (SYR 7/6) 黒褐色 (SYR 8/0)	黒褐色 (SYR 7/6) 黒褐色 (SYR 8/0)	3ミリ以下の灰・褐・灰白・褐・黑色の砂粒を 多く含む。1ミリ以下の透明光沢粒を少し 含む。	貼付突起
60 *	壺	SL SL3		ナデ	ナデ	黒褐色 (2.5Y 8/3)	灰白 (2.5Y 8/3)	2ミリ以下の黒褐色の砂粒を多く含む。 1ミリ以下の黒褐色の砂粒を多く含む。	

第3表 出土土器観察表(3)

件	種別	器種	出土地点	法量(cm)	調 整			色 調	地 土	備考	
					外 面	内 面	外 面				
61	有蓋 釜	盃	SL3	5.6	横ナデ ヘラミガキ	赤褐色、掛ナデ 横筋のハケ日、 ヘラミガキ	白赤褐色 YR 7/4 11YR 7/1 10YR 7/2 10YR 7/4 10YR 7/5	黄緑色 6YR 6/2 10YR 6/2	3ミリ以下の赤褐色・褐・灰・灰白色の砂粒を含む。 鐵礦化、砂質が多い。	長圆形、色彩や 貼付突部、 外縁に凹痕	
62	弥生	甕		24.2	8.4	26.5	横ナデ 鉄押え、 丁寧なナデ	白赤褐色 7YR 7/1 7YR 7/2 10YR 7/4	4ミリ以下の褐・黑・灰褐色の砂粒、3ミリ以下の透明・半透明の光沢粒を含む。	縫隙、外縁にス ズベ音、風化気 味、内部に黒斑	
63	+	甕		23.2	7.2	29	横筋付沟付ナ 子口直身丸	工具による筋 横筋の内側にナ 子口直身丸	白褐色 7YR 7/3 7YR 7/4 10YR 7/5 10YR 7/6 10YR 7/7	4.5ミリ以下の暗褐色、4.5ミリ以下の半透明粒、3.5 ミリ以下の鉄・鐵錆斑、3.5ミリ以下の黑色光沢粒、 4ミリ以下の透明・半透明の光沢粒を含む。	外縁にスズベ音 内部に凹痕
64	+	甕		17.0	5.5	18.6	横筋付沟付ナ 子口直身丸	工具による筋 横筋の内側にナ 子口直身丸	白褐色 7YR 7/3 7YR 7/4 10YR 7/5 10YR 7/6 10YR 7/7	1ミリ以下の褐色の砂粒、2ミリ以下の褐色・灰褐色 ・乳白色の砂粒を多く含む。3ミリ以下の 透明の光沢粒を少し含む。	一部風化らしい 為、調査不明
65	+	甕		20.9	6.5		ナデ(横筋の上 のナデ)、鉄押 え、丁寧なナデ	ナデ	白褐色 10YR 7/2	5ミリ以下の褐色、3ミリ以下の褐色・透明 ・半透明光沢粒、乳白色粒を含む。	内部に黒塗
66	+	甕					横ナデ	横ナデ	明褐色 2.5YR 5/6	3ミリ以下の金色光沢粒、2.5ミリ以下の 茶色粒、3ミリ以下の半透明粒、乳白色粒を含む。	口沿部に凹痕
67	+	甕					横ナデ	横ナデ	淡褐色 5YR 8/4 浅褐色 10YR 8/4	3ミリ以下の褐色・灰褐色・乳白色の砂粒、2ミ リ以下の透明・黑色の砂粒を含む。	口沿部に凹痕 外縁にスズベ音
68	+	甕					横ナデ	横ナデ	墨褐色 YH 2/1 明褐色 SYR 7/0 SYR 5/6	3.5ミリ以下の褐色粒、2.5ミリ以下の金 色光沢粒、1.5ミリ以下の半透明粒を含む。	
69	+	甕		39.0			鉄・横方向の ナデ、 鉄押え、 丁寧なナデ	鉄・横方向の ナデ、 鉄押え、 丁寧なナデ	浅褐色 10YR 8/4 10YR 8/5	4ミリ以下の黒・褐色の砂粒、3ミリ以下の半 透明光沢粒、灰色粒、2ミリ以下の黑色 光沢粒を含む。	
70	+	甕					新方向のナデ (工具柄あり) 鉄押え	新方向のナデ 鉄押え	灰褐色 10YR 7/2 10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 7/5 10YR 7/6	4ミリ以下の褐色・灰・灰白色の砂粒を含 む。2.5ミリ以下の黑色・透明の光沢粒を 少し含む。	
71	+	甕					鉄・横方向の ナデ	新・鉄・横 方 向のナデ	淡褐色 10YR 8/4 (10YR 8/4)	3ミリ以下の褐色・灰白・黄色の砂粒を含む。	内部に風痕
72	+	甕					横ナデ ナデ	横ナデ	褐 2.5YR 6/6	3ミリ以下の灰褐色・乳白・灰色の砂粒を多 く含む。黑色・透明・半透明の光沢粒を含 む。	網目状突起
73	+	甕					横ナデ、 鉄・横・横方 向のハケ日	横ナデ、 鉄・横・横方 向のハケ日、 ナデ	白褐色 (7.5YR 7/4) (7.5YR 7/5)	5ミリ以下の茶褐色・黑色粒、3ミリ以下の半 透明・灰色・褐色・白色光沢粒、白色粒を含む。	網目状突起
74	+	甕		4.5			ナデ	ナデ	灰褐色 T 1/2 T 1/3 (7.5YR 6/4) (7.5YR 7/4)	2.5ミリ以下の褐色・半透明光沢粒、2.5ミリ以下の 灰色・褐色・黑色光沢粒を含む。	内部に風痕 跡の可能性あり
75	有 名 文 字 木	甕		6.1			ナデ(部分的 に工具柄あり) 鉄押え	ナデ	灰白 5.5YR 6/2 5.5YR 6/3 5.5YR 6/4 5.5YR 6/5 5.5YR 6/6	4ミリ以下の褐色・黑色粒、2.5ミリ以下の透明 ・半透明等光沢粒・乳白色粒を含む。	内部に風痕
76	弥生	甕		5.0			鉄・横方向の工 具柄あり+2ミ リのナデ、ナデ	鉄・横方向の工 具柄あり+2ミ リのナデ、 鉄押え	灰褐色 7.5YR 4/3 明褐色 10YR 7/1 10YR 7/2 10YR 7/3 10YR 7/4	1.5ミリ大の褐色の砂粒、3.5ミリ以下の 灰・褐色の砂粒、黑色・透明・半透明の 光沢粒を含む。	外部に風痕 風化氣味
77	+	甕		8.2			1面彫りナデ 鉄押え、不 明	1面彫りナデ 鉄押え、不明	灰褐色 (5.5YR 7/3) (5.5YR 7/4)	5.5ミリ以下の茶褐色・黑色粒、2.5ミリ以下の 灰・褐色の砂粒、黑色・透明・半透明的 光沢粒を含む。	外面は風化 化的、調査不明
78	+	甕		13.4			鉄・横 方 向のナデ ナデ	鉄・横・横方 向のナデ ナデ	浅褐色 (10YR 8/4) (10YR 8/5) (10YR 8/6) (10YR 8/7)	4.5ミリ以下の褐色・黑・灰・灰白色的砂粒 を含む。	
79	+	甕		18.0			横ナデ ナデ	ナデ	浅褐色 10YR 8/1 10YR 8/2 10YR 8/3 10YR 8/4 10YR 8/5	3ミリ以下の褐色・黑・灰・灰白色的砂粒 を多く含む。	
80	+	甕					横ナデ	風化の為、 調整不良	褐 7.5YR 7/5 (7.5YR 7/6)	2.5ミリ以下の褐色・黑色の砂粒、2.5ミリ以下の 黑色・透明・半透明の光沢粒を多く含む。	円形浮文
81	+	甕					ナデ、 2ミリの後 ミガキ	鉄力内のナデ 2ミリの後 ミガキ	褐 7.5YR 7/6 (5.5YR 6/5)	3ミリ以下の褐色・黑色の砂粒、2.5ミリ以下の 黑色・透明・半透明の光沢粒を含む。	褐色液状 二重口縁
82	+	甕		16.6			横ナデ 鉄・横 方 向のハケ日	ナデ、横ナデ、 鉄・横方 向のハケ日	灰褐色 2.5YR 8/4 8/5 8/6 8/7	4ミリ以下の褐色・黑色・赤褐色の砂粒、2.5ミリ以下の 黑色・透明・半透明の光沢粒を含む。	
83	+	甕		13.7			横ナデ 鉄・横 方 向のハケ日	横ナデ ナデ	浅褐色 (10YR 8/4) (10YR 8/5)	1.5ミリ以下の灰褐色・褐色・黑色の砂粒、1.5ミリ以下の 褐色・透明・半透明の光沢粒を含む。	褐色液状 二重L1縁
84	+	甕					横ナデ 鉄・横方 向のハケ日	横ナデ ナデ	浅褐色 (10YR 8/4) (10YR 8/5)	3.5ミリ以下の灰褐色・褐色・黑色の砂粒、1.5ミリ以下の 褐色・透明・半透明の光沢粒を含む。	良率高
85	+	甕		7.9			横ナデ 鉄・横方 向のハケ日	ナデ	肉桂褐色 10YR 4/2 10YR 4/3 10YR 4/4	3ミリ以下の褐色・灰・黑・黑色の砂粒を含む。	良率高

第4表 出土土器観察表(4)

番号	種別	出土地点	法量(cm)	調 整				色 調		粘 土	備考
				外 面	内 表	外 面	内 表	外 面	内 表		
86 弥生	壺			丁寧な横ナデ	横 方向の 指 ナデ	指	0.5YR 6/6	指	0.5YR 5/6	0.5~6ミリ大の乳白色粒、2ミリ以下 の赤褐色粒、3ミリ大の黒色光沢粒 を含む。	附付帶、附付帶 の上にヘラ 状による削 除
87 *	壺			横ナデ、丁寧な 横ナデ、一部ヘ リガキ	横 方向の 指 ナデ	指	0.5YR 7/6	指	0.5YR 5/6	3ミリ以下の乳白色・半透明の砂粒、 微細な光沢粒を含む。	附付帶、附付帶 の上にヘラ 状による削 除
88 *	壺			横ナデ	横ナデ	指	0.5YR 6/6	指	0.5YR 7/6	4ミリ大の灰白粒、0.5~4ミリ大の乳白色 粒、2ミリ以下の赤褐色粒、透明光沢粒 を含む。	附付帯
89 *	壺			横ナデ	横ナデ、指ナデ、 斜方向のヘラ状 上丸ナデ	指	0.5YR 6/6	指	0.5YR 7/6	0.5~4ミリ大の乳白色粒、1.5~4 ミリ大の兩面粒、微細な砂粒を含む。	附付帯
90 *	壺			横ナデ ナデ	横ナデ	指	0.5YR 7/6	指	0.5YR 5/6	4ミリ以下の赤褐色粒、3ミリ以下 の灰白色粒、2ミリ以下の透明・黑色等 光沢粒、乳白色粒を含む。	孔
91 *	壺		8.6	ナデ	ナデ	浅青粒 0.5YR 6/6	青 0.5YR 6/1	4ミリ以下の赤褐色粒、3ミリ以下 の灰白色粒、2ミリ以下の透明・黑色等 光沢粒、乳白色粒を含む。	風化氣味		
92 *	壺			ナデの上 一部ハケ目	ナデ	にあ・側面 0.5YR 6/3	浅青粒 0.5YR 8/3	5.5ミリ以下の褐色、3ミリ以下の乳白 色粒、2.5ミリ以下の半透明・黑色等 光沢粒を含む。	底部にヘラ 記号		
93 *	壺		5.3	ハケ目 ナデ	ナデ	にあ・側面 0.5YR 7/3	灰 0.5YR 8/3	5.5ミリ以下の褐色、4ミリ以下の灰白 色粒、3.5ミリ以下の乳白色粒、黑色光沢 粒を含む。	内面に黒斑		
94 *	壺		7.0	ハケ目 ナデ	ハケ目 ナデ	浅青粒 0.5YR 8/3	灰 0.5YR 8/3	5ミリ以下の赤褐色粒、3ミリ以下の赤褐 色粒、半透明・黑色光沢粒を含む。			
95 *	高坏	30.0		横ナデ	横ナデ	浅青粒 0.5YR 8/4	浅青粒 0.5YR 8/4	5ミリ大の灰白色粒、4ミリ以下の灰 褐色・黑色の砂粒、3ミリ以下の透明・黑色等 光沢粒を含む。	内面に黒斑		
96 *	鉢	30.7		ナデ 横ナデ	ミガキ	浅青粒 0.5YR 8/4 7.5YR 8/3	浅青粒 0.5YR 7/4 7.5YR 8/3	2.5ミリ以下の灰・褐色・灰・黑色の砂粒 を多く含む。1.5ミリ以下の透明・黑色光沢 粒が多。	一般風化著し いのみ、調査不 明		
97 *	鉢			横ナデ	横ナデ	指	0.5YR 7/6	浅青粒 0.5YR 8/3 8/4	4ミリ以下の灰・褐色の砂粒、2.5ミリ 以下の乳白・灰色の砂粒、透明・黑色光沢 粒を含む。	風化氣味	
98 *	鉢	7.8 12.1		ナデ 擦え	ナデ ヘラガキ	浅青粒 8/3 黑青粒 7/3	灰 7.5YR 8/4	0.5~4ミリ大の灰・褐・黑色の砂粒を多く 含む。2.5ミリ以下の透明・半透明・黑色光 沢粒を含む。	附付さ鉢 内面に黒斑 風化氣味		
99 *	鉢	16.8		ナデ	ナデ 指擦え	浅青 2.5YR 8/4	浅青 2.5YR 8/3	3ミリ以下の灰・褐・黑・乳白色的砂粒 を含む。	鉢内・部褐色 に変色		
100 *	器台			確方向の ハケ目	ナデ	青青粒 0.5YR 7/6 黑 2.5YR 4/6	明青粒 0.5YR 6/6	3ミリ以下の灰・褐色の砂粒、1.5ミリ 以下の黒褐色の光沢粒を含む。鐵褐色の砂粒 が多い。	二条の浅く細 い縦線		
101 *	壺			ナデ 横ナデ	ナデ	指 0.5YR 7/6	指 0.5YR 7/6	3ミリ大のいわ敷物粒、2.5ミリ以下の褐色 粒・半透明・黑色光沢粒等を多く含む。	丹塗り		

第5表 土器片加工円盤計測表

番号	種別	出土地点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	調 整		色 調		粘 土	備考
							外 面	内 表	外 面	内 表		
102 弥生			3.5	3.9	0.65	10.8	風化の為、 表面不明	ナデ	指 0.5YR 7/6	明青粒 0.5YR 6/6	3ミリ以下の褐色、2.5ミリ以下の灰白色粒、 2.5ミリ以下の乳白色粒、1.5ミリ以下の黑 色・半透明・黑色光沢粒等を多く含む。	

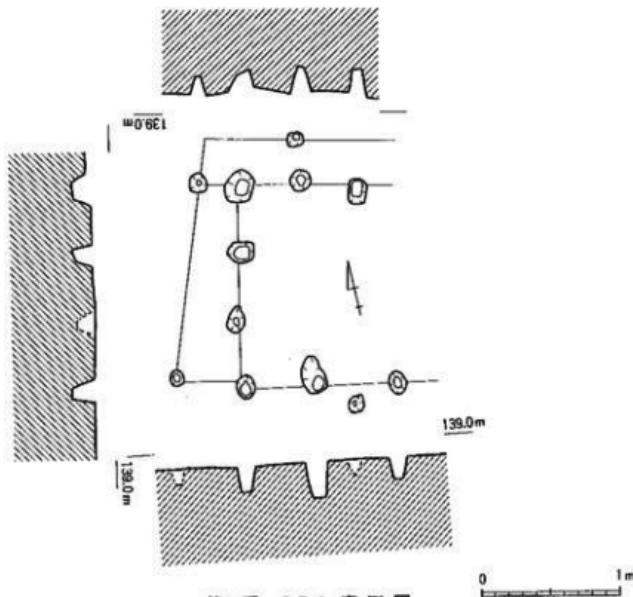
第6表 遺跡出土石器観察表

番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
9	SA1	砥石	22.1	13.9	4.35	2220.0	砂岩	
10	SA1 SA6	石包丁	5.3	9.1	0.6	43.3	凝灰質頁岩	
11	SA1	石鑿	1.95	2.7	0.4	2.6	凝灰質頁岩	
27	SA2	砥石	18.3	8.5	5.4	1290.0	砂岩	
28	SA2	石鑿	3.4	2.2	0.2	2.7	凝灰質頁岩	
40	SA3	剥片	2.3	2.2	0.35	2.3	凝灰質頁岩	石鑿の素材剥片
41	SA4	剥片	5.2	3.4	0.5	7.9	凝灰質頁岩	タ
42	SA6	砥石	10.0	5.1	1.3	91.0	凝灰質頁岩	
43	SA7	砥石	12.75	6.5	4.29	413.5	砂岩	
44	SA7	剥片	2.35	2.0	0.15	0.8	凝灰質頁岩	石鑿の素材剥片
103		砥石	11.0	5.0	3.6	277.9	砂岩	
104		紡錘車	5.0	2.85	0.5	6.3	凝灰質頁岩	
105		石包丁片	2.8	4.3	0.4	6.6	凝灰質頁岩	

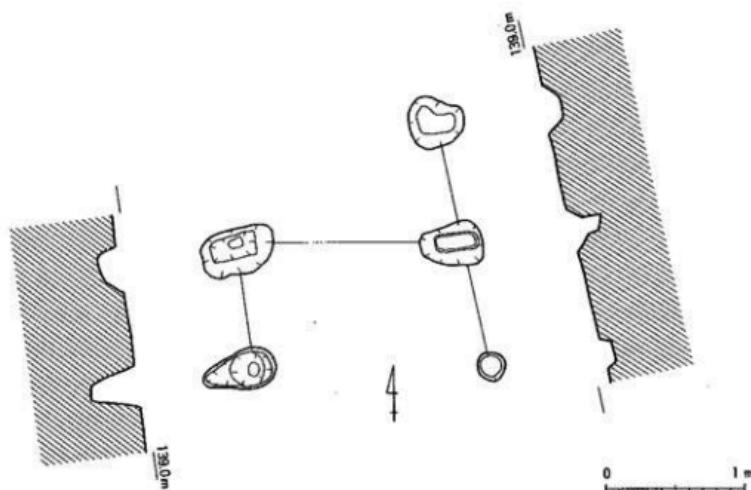
第7表 積穴住居観察表

遺構番号	平面形	棟方位	規模(cm)			床面積(m <sup>2</sup> )	柱穴数	柱穴状態(cm)		備考
			長軸	短軸	深さ			平均径	平均深	
SA1	方形	N36° E	570	540	13.7	23.3	10	42~52	28.7	
SA2	円形	N66° E	—	—	9.4	40.3	12	36~43	22.5	突出盤ベッド状遺構を持つ
SA3	不定形	N84° W	577	515	13.3	23.7	6	29~35	16.8	突出盤ベッド状遺構を持つ
SA4	方形	N82° W	600	553	16.1	29.0	4	24~31	12.6	
SA5	不定形	N87° W	850	775	7.9	52.9	5	38~56	47.9	ベッド状遺構を持つ
SA6	—	N19° E	470	330	13.3	15.1	2	31~36	29.8	削平により、平面形未確認
SA7	不定形	N84° E	558	545	12.1	24.3	5	30~38	26.2	削平により、平面形未確認

り付けている。大分県に多くみられる土器で安国寺式と呼ばれるものである。88・89は胴部に貼り付け突帯を巡らすカメの胴部である。88は2条、89は3条の突帯が見られるが、それぞれこれ以上の突帯が巡っていた可能性も否定できない。90は頸部に穿孔のある小型のツボである。この穿孔は焼成前に開けられたものと考えられる。91は本遺跡では大型のツボの底部である。平底で厚みがある。92は小型のツボの底部である。底部外側にヘラ状工具により十字に線刻が施されている。線刻は勢いのある線で描かれており、胴部下部にまで延びている。93はツボの底部である。外面に間隔の広いハケメが見られる。94はツボの底部である。平底であるが底部外側はやや外側に丸みを帯びているので、安定が悪かったと考えられる。95は高壊の壊部である。薄手で口唇部が四角く調整されている。96は大型の鉢である。口唇部は四角く調整されており、口縁部は緩やかに外反する。胴部中央が屈曲するため外面に稜線を持つ。内面の稜線は不明瞭である。97も鉢である。こちらは口縁部が開く器形のため胴部の屈曲による稜線は内面側に明瞭に見られる。98は脚台付き鉢である。遺存状態が良かったため概報にも掲載した資料である。本遺跡では脚台付きの遺物はこの1点だけである。口唇部は四角く平坦に調整されている。胴部の張りはあまり強くないが、脚台の脚部は比較的外側に延びている。99は鉢である。胴部の張りは弱く薄手で口縁部の調整が粗い。頸部の屈曲もわずかである。100は器台である。外面には全体的に縱方向のハケメが見られるが、下端部にはヘラ状工具による横方向の沈線が3本見られる。101は小型のツボの口縁部である。口唇部は四角く平坦に調整されている。口唇



第25図 S B 1 実測図

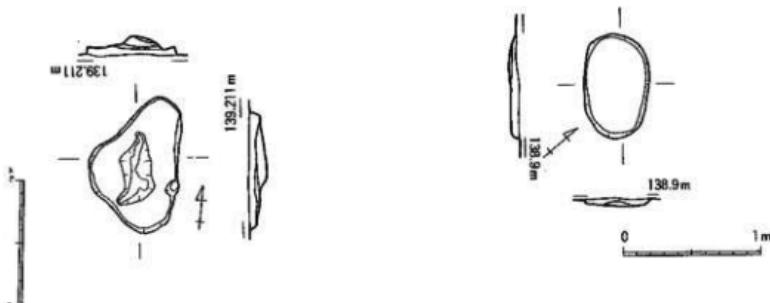


第26図 SB2 実測図

第8表 据立柱建物観察表

遺構 番号	規模 (間)	方向	桁 行		梁 行		方位	床面積	柱 穴 状 態			備 考
			実長(cm)	柱間(cm)	実長(cm)	柱間(cm)			柱数(個)	pit径(cm)	pit深(cm)	
SB1	-	E~W	-	96	292	98	N77.5° W	-	11	26~36	14~52	二面庇
SB2	-	S~N	-	181	317	317	N12° W	-	5	60~86	16~66	

部と口縁部の内・外面に赤色顔料が塗布されている。102は土器片を円盤状に加工したものである。薄手の土器を素材としており用途は不明である。103は砂岩の砥石である。表側は低石としての使用痕が明瞭であるが、裏側は敲石としての使用痕が見られる。104は薄手の紡錘車と考えられる。石材は凝灰質頁岩である。表・裏両面に研磨時の擦痕が見られることから使用時も厚さ約5mmであったと考えられる。105は石包丁である。最大長2.8cmしかなく、横長の形を呈する。石材は凝灰質頁岩である。表・裏両面ともに節理が多く見られ、使用時の表面は上下両端にわずかに残存するだけである。



第27図 時期不明土坑実測図

##### 第5節 中世の遺構

中大五郎第1遺跡では2軒の掘立柱建物が確認されているが、いずれも完全な形ではない。それに伴う遺物は無い。

##### S B 1 (第25図)

調査区の中央部E-3グリッド付近に位置する。棟方向は東西で北と西側に庇を持つ。

##### S B 2 (第26図)

調査区の中央部南側に位置する。棟方向は南北である。柱穴の遺存状態が悪いため建物の規模等が不明である。柱穴の平面形が方形であることや中大五郎第2遺跡で掘立柱建物が検出されていることなどから弥生時代の柱穴である可能性も否定できない。

##### 第6節 時期不明の遺構 (第27図)

中大五郎第1遺跡では、2基の時期不明土坑が検出された。この土坑は調査区中央部の遺構の集中する場所に位置しているが、遺構確認面から遺構の底までの深さが浅く、遺構内からの出土遺物も無かったので遺構の営まれた時期を決定することができなかった。

## 第7節 まとめ

中大五郎第1遺跡は前記したとおり弥生時代を中心とする遺跡である。これより当遺跡から出土した弥生土器について若干の考察を加える。

・弥生土器はカメ・ツボ・高坏・器台・鉢が出土しており、このうち比較的個体数が有り、器形の分かるものも多いカメについてタイプ分けしたい。カメ以外の器種は出土数が少なく分類の資料とならないためである。

タイプI：胸部に突帯が巡るもの。

a：突帯にキザミ目を持つもの。

b：突帯にキザミ目を持たないもの。

タイプII：胸部に突帯が巡らないものの。

a：口唇部が四角く調整されており、その中央部がわずかに窪むもの。底部は平底かやや上げ底になる。器形の成形及び器壁の調整が丁寧なものが多い。

b：口唇部が丸く仕上げられており、底部は上げ底になり、外方につまみ出される。器形の成形及び器壁の調整は粗雑なものが多い。

これらの遺物の時期設定であるが、石川悦雄氏<sup>10</sup>、吉本正典氏<sup>11</sup>らの研究により弥生時代後期に属するものと考えられる。タイプII bはタイプII aよりも後出するものである。したがって大まかな時期を区切るとするとタイプII aは弥生時代後期前半、タイプII bは弥生時代後期後半に比定できるであろう。

この結果から、各遺構の時期差について考えてみたい。SA1は第8図1・2を見る限りでは後期後半の時期が比定されるだろう。SA2は第10図15は古い様相を呈しているが、12・14・16は新しい様相を呈している。これを1軒の家の中に古いものと新しいものが共存する状態であるとすれば新しい時期、後期後半が考えられる。SA2の平面形について考えたとき、日向地方に特徴的な間仕切住居であるが、間仕切り自体が小型化している。このことからも後期後半の時期が考えられる。SA3～SA7は出土遺物が極端に少ないので時期決定が困難である。SL1は第19図48・49等より後期前半の可能性が考えられる。SL3は遺物で時期を考える上で若干の問題がある。第21図52のカメは後期前半の特徴を良く表した遺物であるがそれと共に伴する53のカメは全体的な器形の成形の具合や調整方法などを観察すると52に比べて非常に雑である。これだけを見ると後期前半の時期が考えられる52よりも新しい時期が考えられるが底部が平底であることから、精製の土器である52と粗製の土器である53が時期を同じくして作成され使用された可能性も考えられる。その判断については資料数の少ない現段階においては不可能である。後世の研究者に判断を委ねたい。

以上のことから、SA1・SA2とSL1・SL3の間には時間差が考えられる。これはSA1がSL3と近接していることからも判断できる。この状態でこの2基の遺構は同時に存在したとは考えられないからである。このように遺構の分布状況からSA4とSA5、SA6とSL1は同時に存在しなかった可能性がきわめて高いと考えられる。

中大五郎第1遺跡は遺構確認面が御池ボラを多く含む層の上面であるために弥生時代の遺構

の深さが5~15cm程度ときわめて浅いので遺構内出土遺物が非常に少ない。この少ない遺物に考察を加えて時期決定の一助とするのはやや危険かもしれないが、遺構内から出土した遺物についてはより床面に近い遺物である割合が多いというメリットも否定できないものである。

以上のような状況により中大五郎第1遺跡の位置付けは今後の研究に委ねたい。

中大五郎第1遺跡は黒色土中に中世の文化層が希薄ではあるが遺存していたと考えられる。試掘調査でその存在が把握されなかつたため、また期間的・予算的余裕も無かつたため調査することができなかった。このような状況に対してどう対処して行くか今後の課題である。

最後に報告書作成に当たり宮崎県埋蔵文化財センターの整理作業員のみなさんに大変お世話になった。また、宮崎県文化課石川悦雄氏、同・谷口武典氏、同・吉本正典氏には多大なるご教示を賜った。ここに記して謝したい。

#### (註)

- 1) 吉本正典「日向の庄内式併行期の土器」『考古学ジャーナル』363 1993
- 2) 山中悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案」『研究紀要』No.8 宮崎県総合博物館  
1983
- 石川悦雄「日向における外葉系の土器の伝播とその地域性（1）－瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開－」『研究紀要』No.9 宮崎県総合博物館 1984

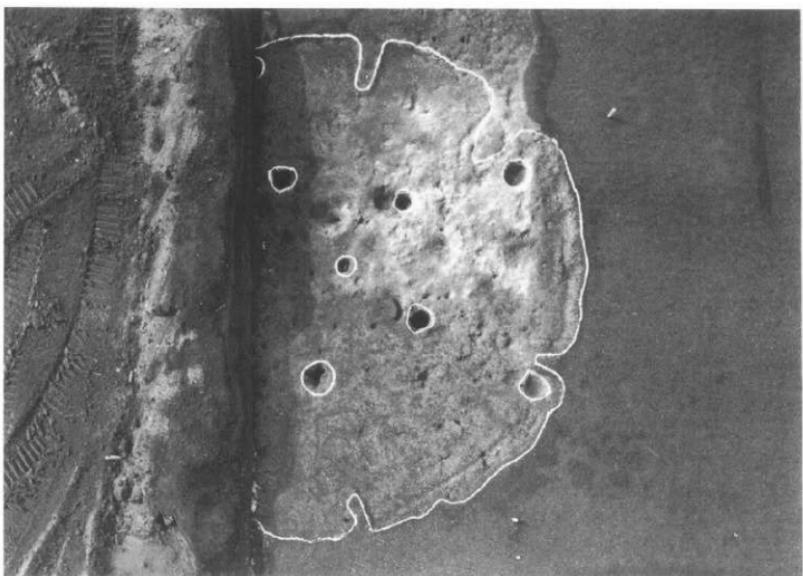
#### 参考文献

- 1) 山中悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案」『研究紀要』No.8 宮崎県総合博物館  
1983
- 2) 石川悦雄「日向における外葉系の土器の伝播とその地域性（1）－瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開－」『研究紀要』No.9 宮崎県総合博物館 1984
- 3) 石川悦雄「新田原遺跡」「新田原遺跡 瀬戸内遺跡 藏園地下式横穴墓」宮崎県兒湯郡新富町文化財調査報告書第4集 新富町教育委員会 1986
- 4) 苗付和樹「熊野原遺跡A・B地区の調査」「熊野原遺跡A・B地区の調査 前原西遺跡 陣ノ内遺跡 前原南遺跡 前原北遺跡 今江（仮称）跡 車坂城西ノ城跡」宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第4集 宮崎県教育委員会 1988
- 5) 谷口武典・津隈久美子「下那珂貝塚」「埋蔵文化財調査研究報告II」宮崎県総合博物館  
1988
- 6) 吉本正典「日向の庄内式併行期の土器」『考古学ジャーナル』363 ニューサイエンス社  
1993
- 7) 松林豈樹「学頭遺跡」「学頭遺跡・八見遺跡」県道高岡・都司分線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 宮崎県教育委員会 1995
- 8) 東憲章「丸谷地区遺跡群 上大五郎遺跡」「丸谷地区県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」都城市文化財調査報告書31集 都城市教育委員会 1995

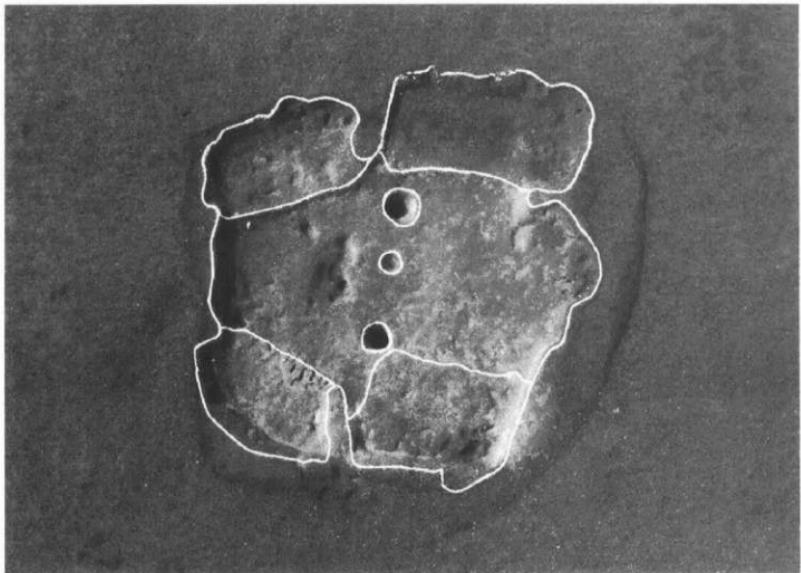
図 版



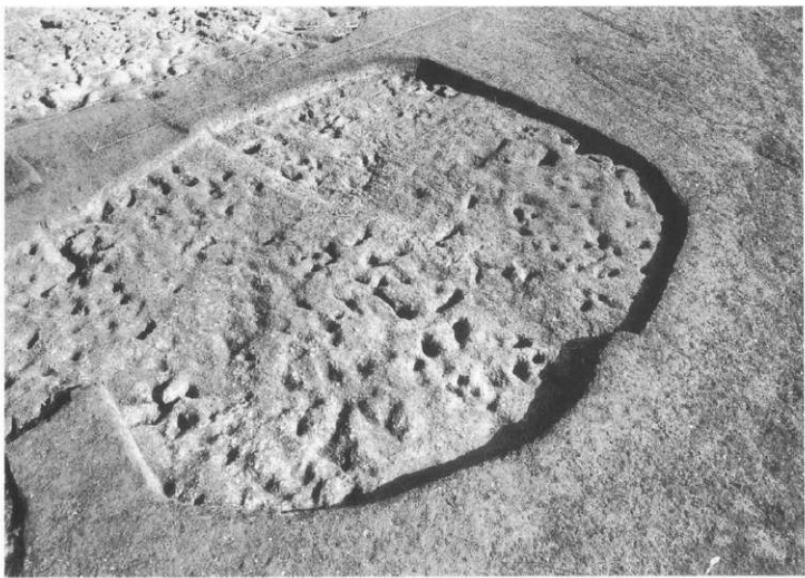
S A 1



S A 2



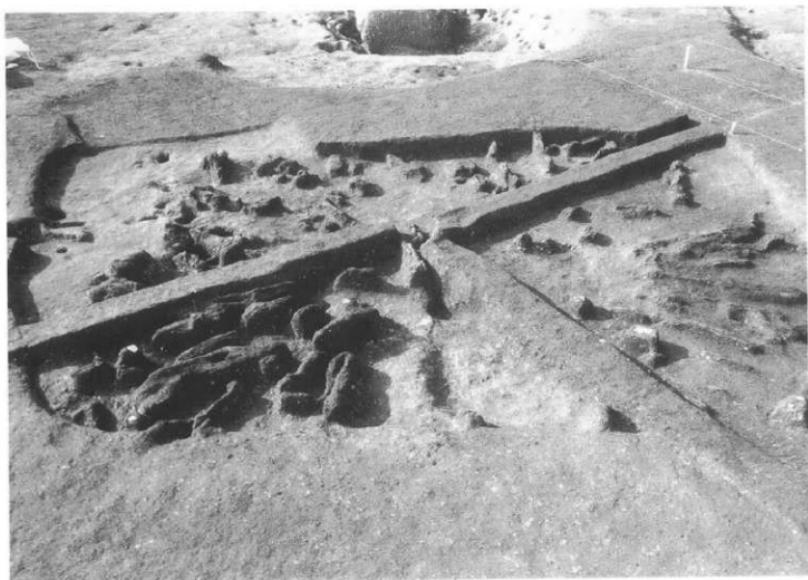
S A 3



S A 4

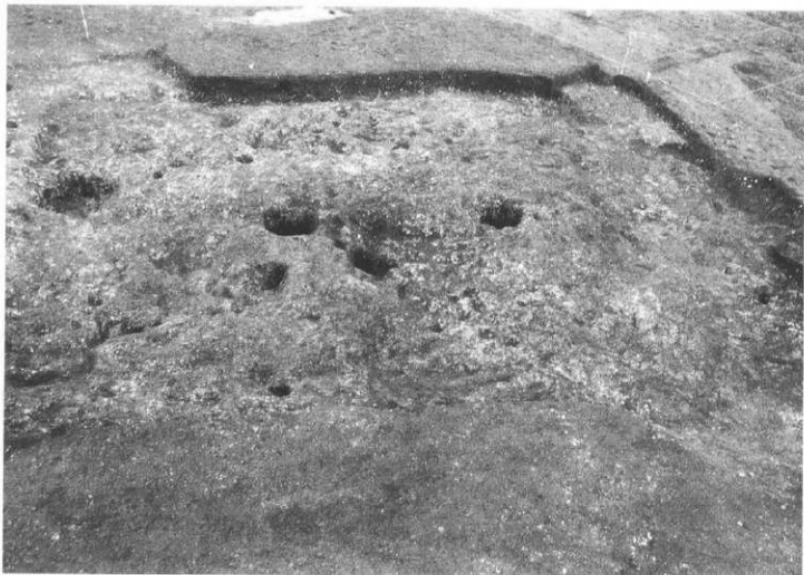


S A 5



S A 6 炭化材出土状况

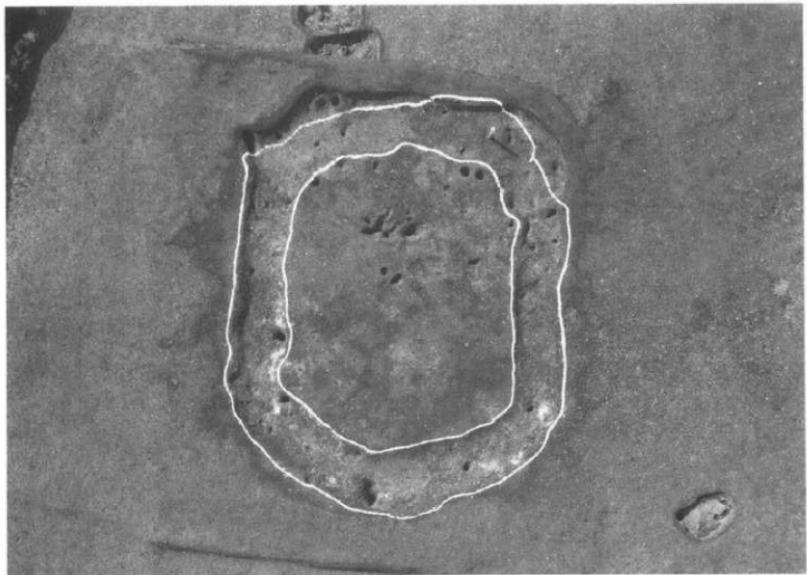
図版4



S A 6



S A 4 · S A 5 · S A 7 付近



S L 1

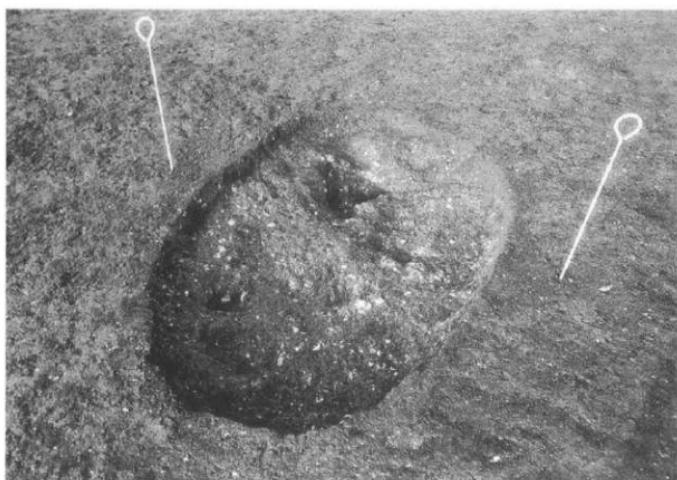


SA1・SL2・SA4・SA6・SL3・SB1付近

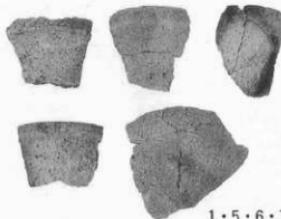
図版 6



S A 6・S B 2付近



S C 2



4



9



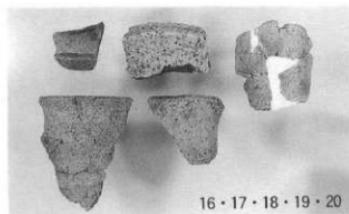
14



10・11



15



16・17・18・19・20



21



22



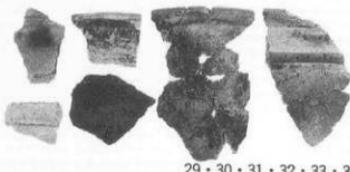
24・25・26



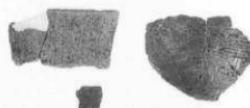
23

中大五郎第1遺跡出土遺物(1)

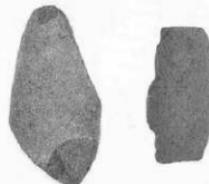
図版 8



35



36 • 37 • 38



43 • 42



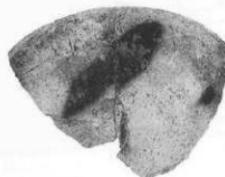
40 • 44 • 41



45 • 46 • 47 • 50



48 • 49



51



52



54 • 55 • 56 • 57 •

58 • 59 • 60



53

中大五郎第1遺跡出土遺物(2)



58



61



62



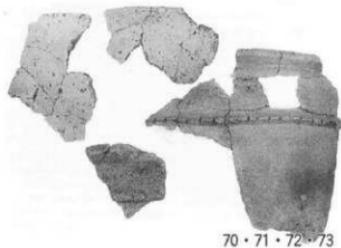
69



62



66・67・68



70・71・72・73



76



79・81・84・82・80



83



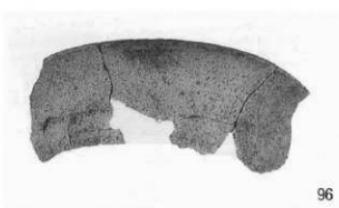
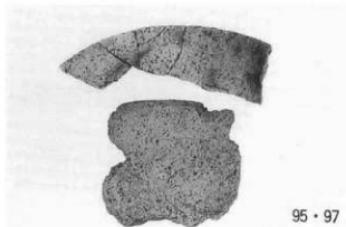
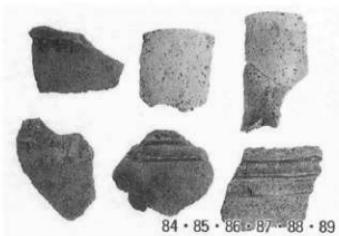
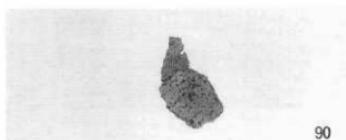
74



92

中大五郎第1遺跡出土遺物(3)

図版10



中大五郎第1遺跡出土遺物(4)

NAKADAIGOROU DAI 2  
中大五郎第2遺跡

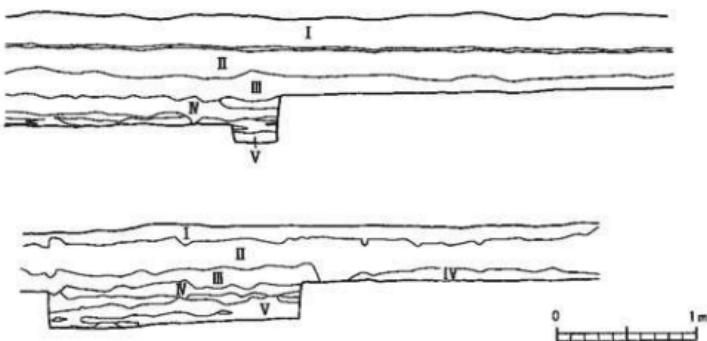
## 第3章 中大五郎第2遺跡の調査

### 第1節 調査区の設定と概要

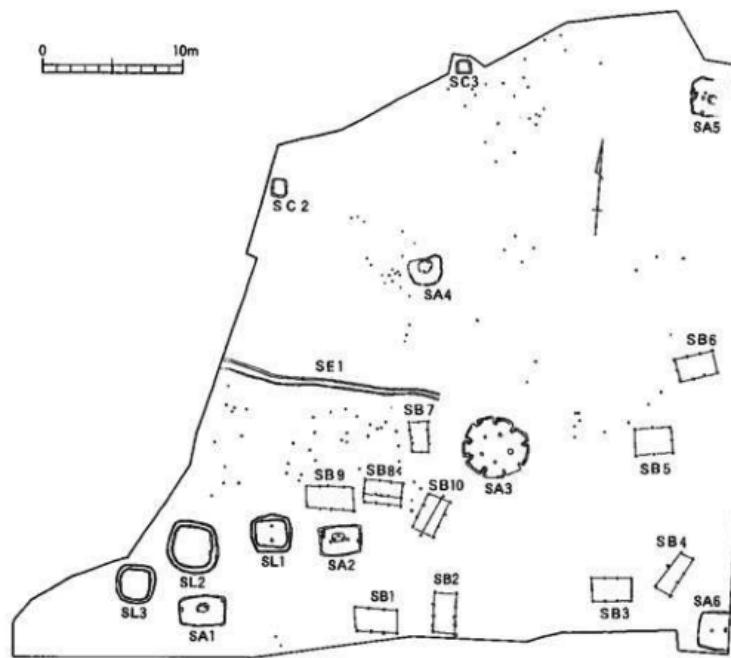
中大五郎第2遺跡は、第1遺跡の西側約50mの所に位置し、平成3年10月22日から平成4年2月2日まで調査を行なった。第2遺跡の調査面積は6000m<sup>2</sup>で調査期間の関係から、御池ボラ直上まで重機で剥いで調査を行なった。調査方法はグリッド法で行ない、10mのメッシュに区画した。その結果検出された遺構は、弥生時代の竪穴住居跡6軒・周溝状遺構3基・棟持ち型掘立柱建物1軒・土坑1基等である。弥生時代の竪穴住居は方形プランが主体であるがSA3は、円形の花弁状住居で掘り込みは他の遺構に比べ浅かった。SA5は、半分しか検出できていないが方形の花弁状住居と思われる。中近世の遺構は、掘立柱建物1軒・土坑1基などである。SC2は、SB8の敷地内にあり北方に土師器の碗が並べられていることから土墳墓と考えられる。また、SB1～SB7・SB9は、時期を確定できる遺物等が検出できていないことから時期不明とした。遺物は、全体的に広がってはいなくて遺構毎に集中部がみられた。

### 第2節 層序

本遺跡の基本層序は、I層が耕作土で乾燥すると白っぽくなる。I層の厚さは、平均40cm程度である。II層が黒色土層で御池ボラが少量交じり粒が細かくパサパサしている。II層の厚さは平均30cm程度で遺物包含層である。III層が黒褐色土層で御池ボラの含有率が高く粒が多少粗くなっている。III層の厚さは40cm程度である。この層になると遺物の破片も大きいものがみられるようになる。IV層は褐色土層でボラの含有率が非常に高くなっている。IV層の厚さは20cm程度である。中大五郎第2遺跡の掘立柱建物以外の遺構はほとんどこの面で検出している。V層は御池ボラ層である。



第28図 中大五郎 第2遺跡土層図



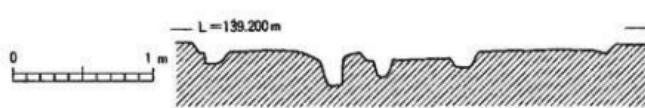
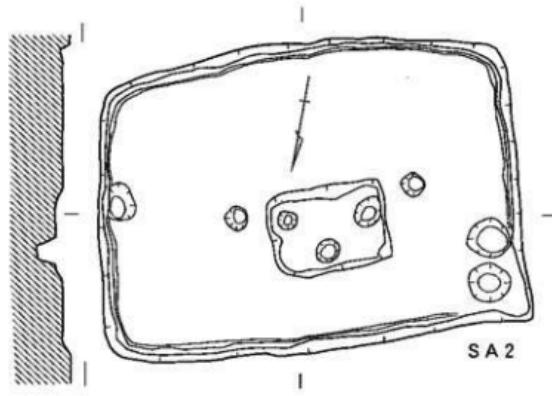
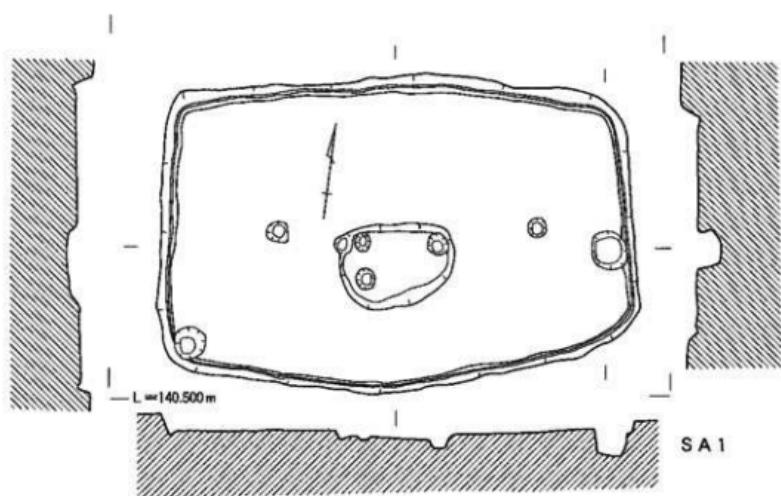
第29図 中大五郎第2遺跡遺構分布図

### 第3節 弥生時代の遺構と遺物

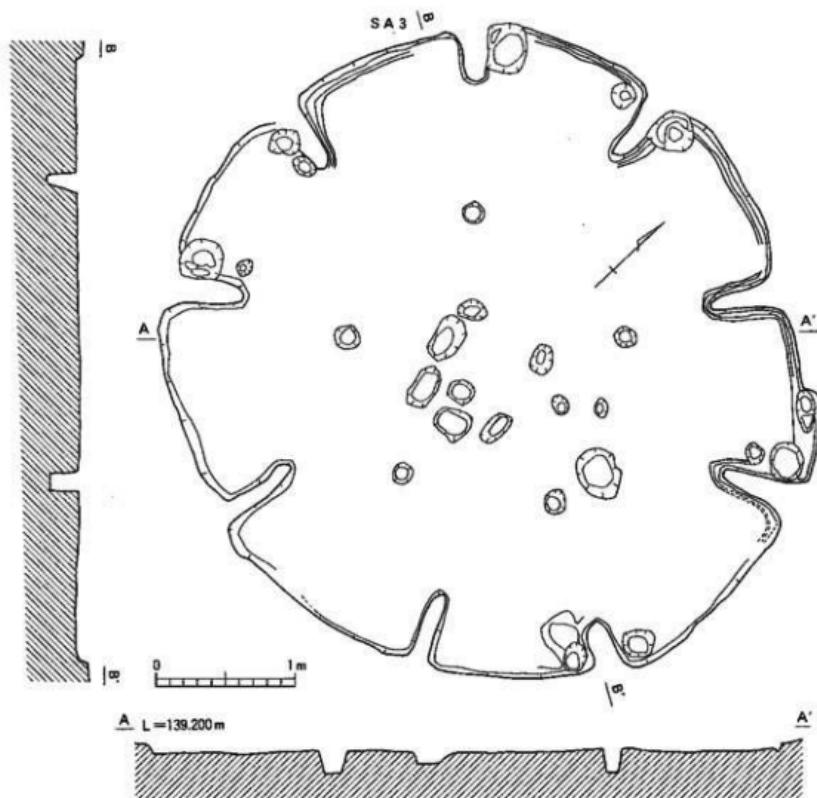
#### 1. 壁穴住居跡

##### S A 1

S A 1 は、長軸6.8m×短軸4.5m・深さ28cmの長方形型の方形プランで主柱穴は、2本柱である。P 1 は、長軸35cm×短軸34cm・深さ40cmで P 2 は、長軸30cm×短軸26cm・深さ37cmである。また、住居跡内土坑が5基あり、順に土 1 は、長軸46cm×短軸44cmで深さ34cmである。土 2 は、長軸25cm×短軸20cmで深さ6cmである。土 3 は、長軸30cm×短軸28cmで深さ37cmである。土 4 は、長軸32cm×短軸24cmで深さ15cmである。土 5 は、長軸52cm×短軸46cmで深さ31cmである。その外に壁面に壁帶溝がみられ幅12cm深さ35cmである。



第30図 中大五郎第2遺跡 S A 1・S A 2 実測図



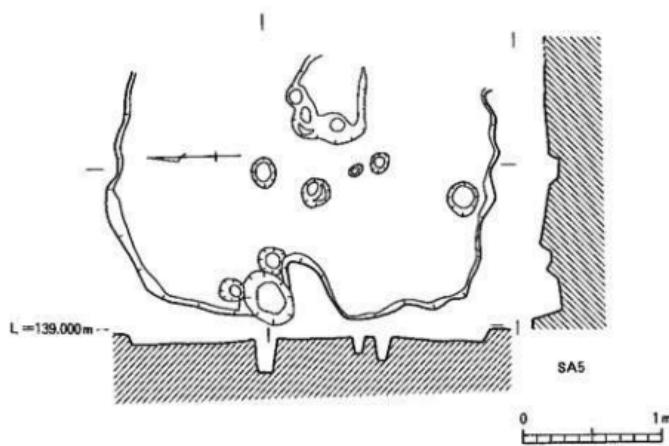
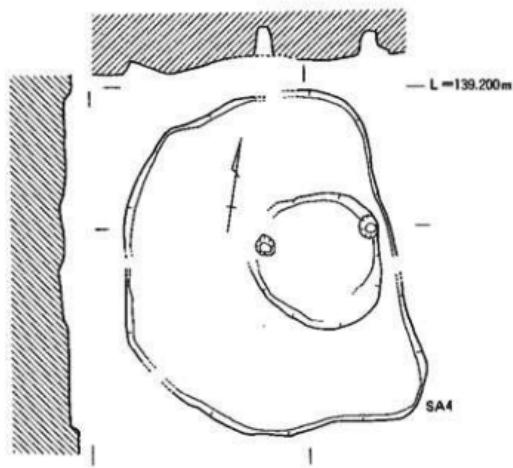
第31図 中大五郎第2遺跡SA 3実測図

### SA 2

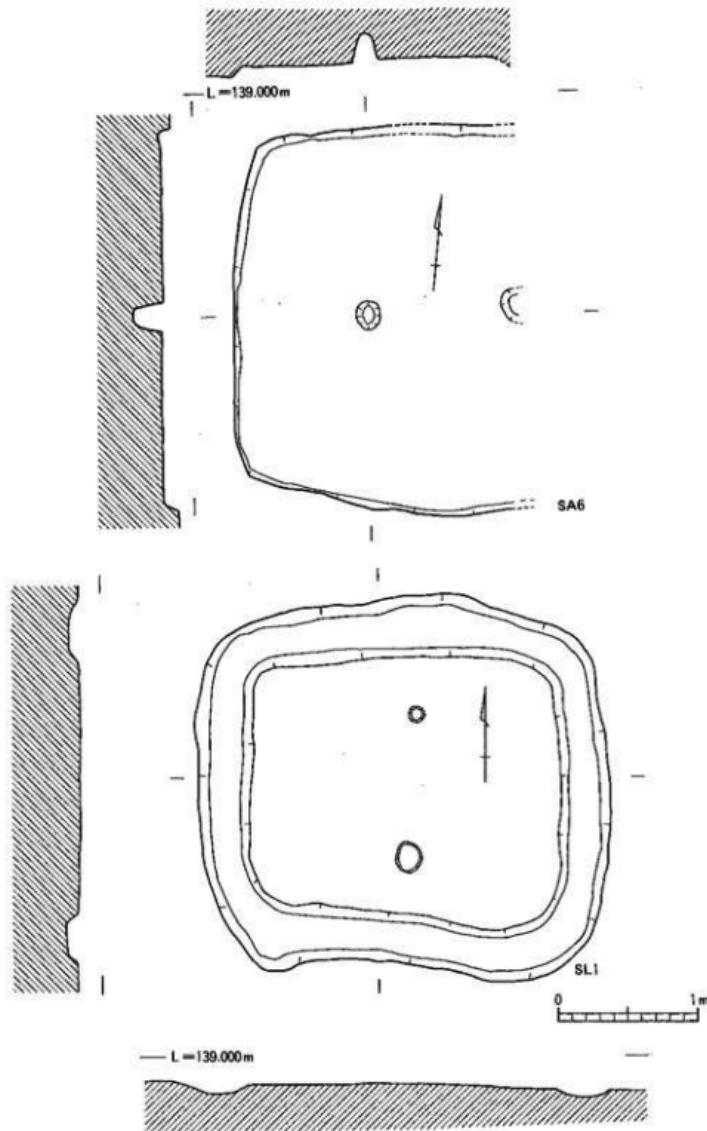
SA 2は、長軸6.0m×短軸4.5m・深さ12.5cmの長方形プランで主柱穴は、2本柱である。P 1は、長軸21cm×短軸19cm・深さ51cmである。P 2は、長軸31cm×短軸29cmで深さは58cmである。住居跡内に土坑が6基ある。順に土1は、長軸50cm×短軸37cm・深さ18cmである。土2は、長軸53.5cm×短軸53cmで深さ19.5cmである。土3は、長軸39cm×短軸35cm・深さ15.5cmである。土4は、長軸32cm×短軸30cm・深さ27cmである。土5は、長軸55cm×短軸53cm・深さ28cmである。土6は、長軸57cm×短軸52cm・深さ28cmである。その外に幅10cmで深さ3cmの浅い壁溝もみられる。

### SA 3

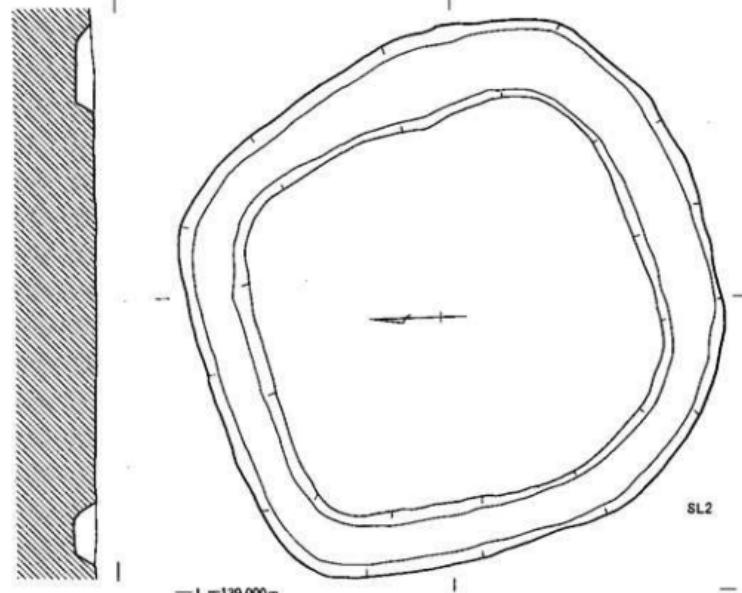
SA 3は、長軸9.3m・短軸9m・深さ16cmの本遺跡唯一の円形花弁状住居跡である。検出面



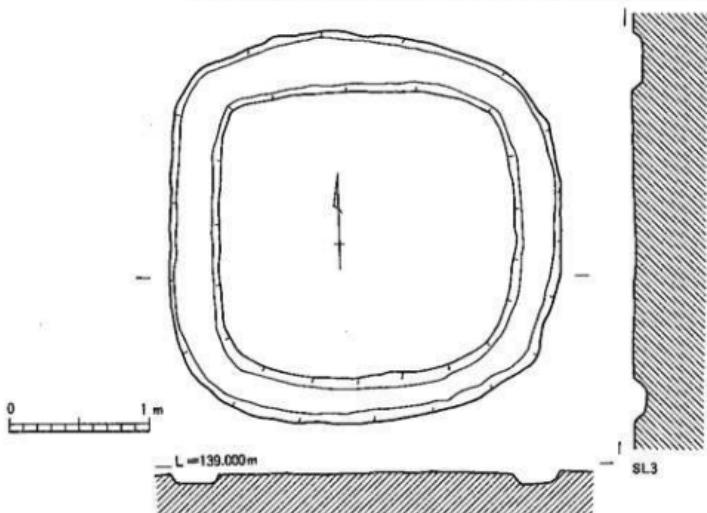
第32図 中大五郎第2遺跡 S A 4・S A 5 実測図



第33図 中大五郎第2遺跡 S A 6・S L 1 実測図



$L = 139.000\text{m}$



0 1 m

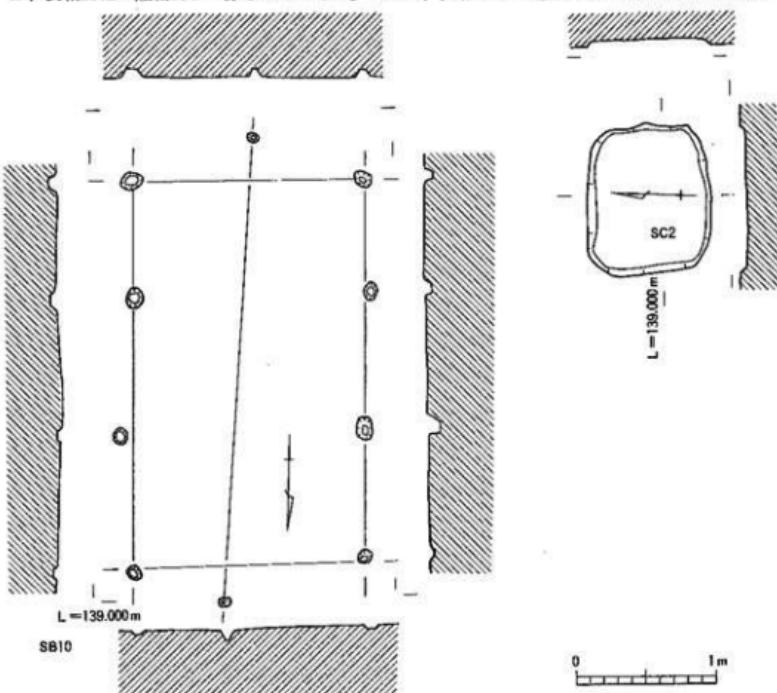
$L = 139.000\text{m}$

第34図 中大五郎第2遺跡 S L 2・S L 3 実測図

は黒色土の除去の段階では検出できず、御池ボラの強くなる基本土壙の第Ⅲ層から検出できた。主柱穴は、5本柱で、P1は、長軸33cm×短軸31cm・深さ42.5cmである。P2は、長軸30cm×短軸28cm・深さは43.5cmである。P3は、長軸33cm×短軸30cm・深さは36.5cmである。P4は、長軸36cm×短軸34cm・深さは39cmである。P5は、長軸31cm×短軸27cm・深さ40.5cmである。この住居跡も住居跡内土壙をもっているが、住居の花卉の突出部分に全部で9基あった。土1は、長軸45cm×短軸44cm・深さ24.5cmである。土2は、長軸53.5cm×短軸52cm・深さ19.5cmである。土3は、長軸44cm×短軸38cm・深さ20.5cmである。土4は、長軸55cm×短軸53cm・深さ23cmである。土5は、長軸66cm×短軸53cm・深さ40.5cmである。土6は、長軸39cm×短軸36cm・深さ21.5cmである。土7は、長軸60cm×短軸56cm・深さ30.5cmである。土8は、長軸47cm×短軸34cm・深さ18cmである。土9は、長軸44cm×短軸40cm・深さ16cmである。その外に幅13cmで深さ5cmの浅い壁帶溝もみられる。

#### S A 4

S A 4は、長軸4.85m×短軸3.87m・深さ22cmの不整形プランで主柱穴は2本柱である。P1は、長軸26cm×短軸25cm・深さ44cmである。P2は、長軸30cm×短軸26cm・深さ41cmである。



第35図 中大五郎第2遺跡 S B10・S C 2実測図

他に中央土坑がみられる。この土坑は、長径1.96m×短径1.9m・深さ10cmとわりと浅い。壁帶溝等は検出されなかった。

#### S A 5

S A 5は、長軸5.45m×短軸3.80m・深さ13cmの方形の花弁状住居跡で主柱穴は、1本しか確認できなかった。P 1は、長軸39cm×短軸37cm・深さ31cmである。また、住居跡内土坑を4基確認した。土1は、長軸77cm×短軸67cm・深さ44cmである。土2は、長軸47cm×短軸44cm・深さ18cmである。土3は、長軸29cm×短軸27cm・深さ14.5cmである。土4は、長軸38cm×短軸36cm・深さ14cmである。他に長軸1.4m×短軸1.21m・深さ12cmの中央土坑がある。壁帶溝等は検出できていない。

#### S A 6

S A 6は、長軸5.5m×短軸4mの隅丸方形プランで、調査区外にかかる部分があるために一部分しかできなかった。主柱穴は2本柱で、P 1は、長軸41cm×短軸33cmで深さは42cmである。P 2は、長軸40cm×短軸33cmで深さは9cmある。ほかに幅12cmで深さ6cmの壁帶溝がある。

### 2. 周溝状遺構

#### S L 1

S L 1は、長軸5.85m×短軸5.28mの方形プランで、周溝は、幅が70cmで深さは51cmである。周溝に囲まれたところに2つの柱穴部分があるが掘り込み等は、検出できなかった。したがって、周溝墓ではないと思われる。出土土器が他の周溝状遺構より多く、その多くは周溝の東側部分に集中していた。

#### S L 2

S L 2は、長軸7.70m×短軸7.60mの方形プランで周溝は幅130cm・深さ18.9cmである。S L 2は遺構の東側部分に遺物が集中してみられ二重口縁の櫛描波状紋や高环・甕等が出土している。

#### S L 3

S L 3は、長軸5.55m×短軸5.60mの方形プランで周溝は、幅66cmで深さは12.4cmである。他の2基に比べ遺物の数が少なかった。

### 3. 棟持ち型掘立柱建物

#### S B 10

S B 10は、棟持ち型の掘立柱建物でP 1が直径23cmで深さ6cmである。P 2は、長軸32cm・短軸30cmで深さ15cmである。P 3は、長軸30cm・短軸26cmで深さ10cmである。P 4は、長軸29cm・短軸28cmで深さ13cmである。P 5は、長軸16cm・短軸15cmで深さ10cmである。P 6は、長軸33cm・短軸31cmで深さ10.5cmである。P 7は、長軸32cm・短軸29cmで深さ10.5cmである。P 8は、直径26cmで深さが12cmである。

#### S C 2

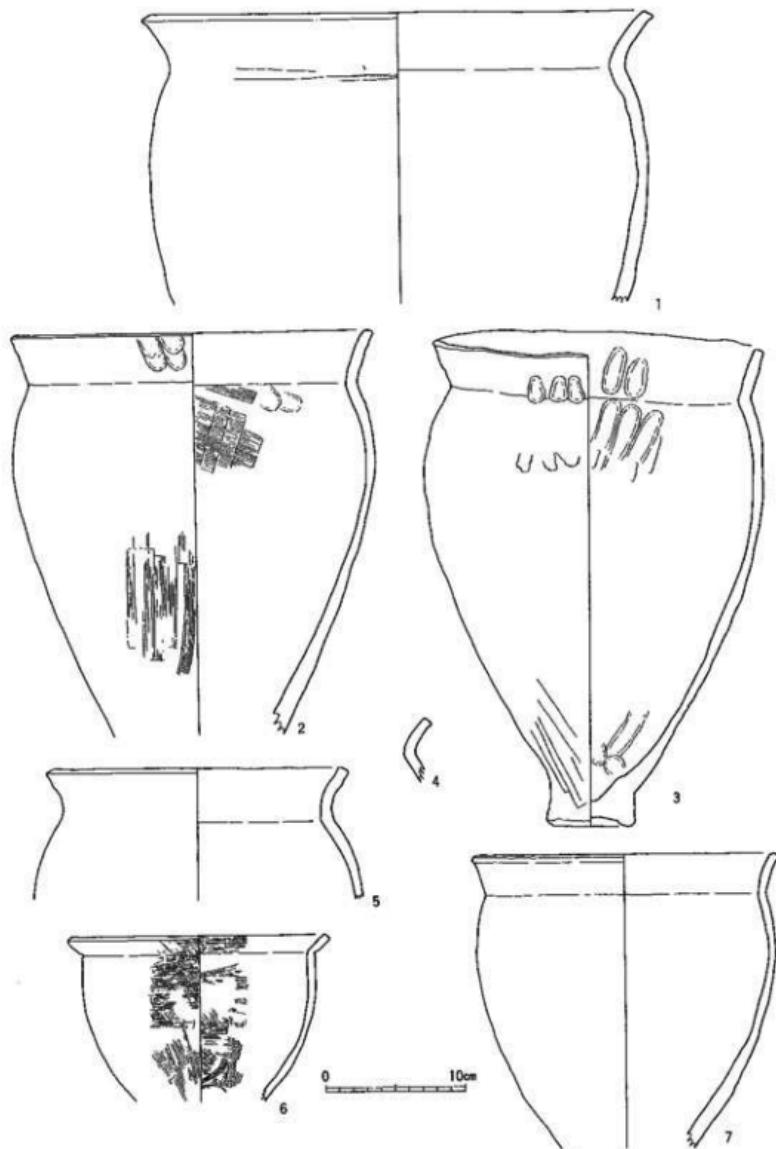
S C 2は、方形のプランでとても浅く深さは、10cm程度である。

#### 4. 弥生時代の遺物

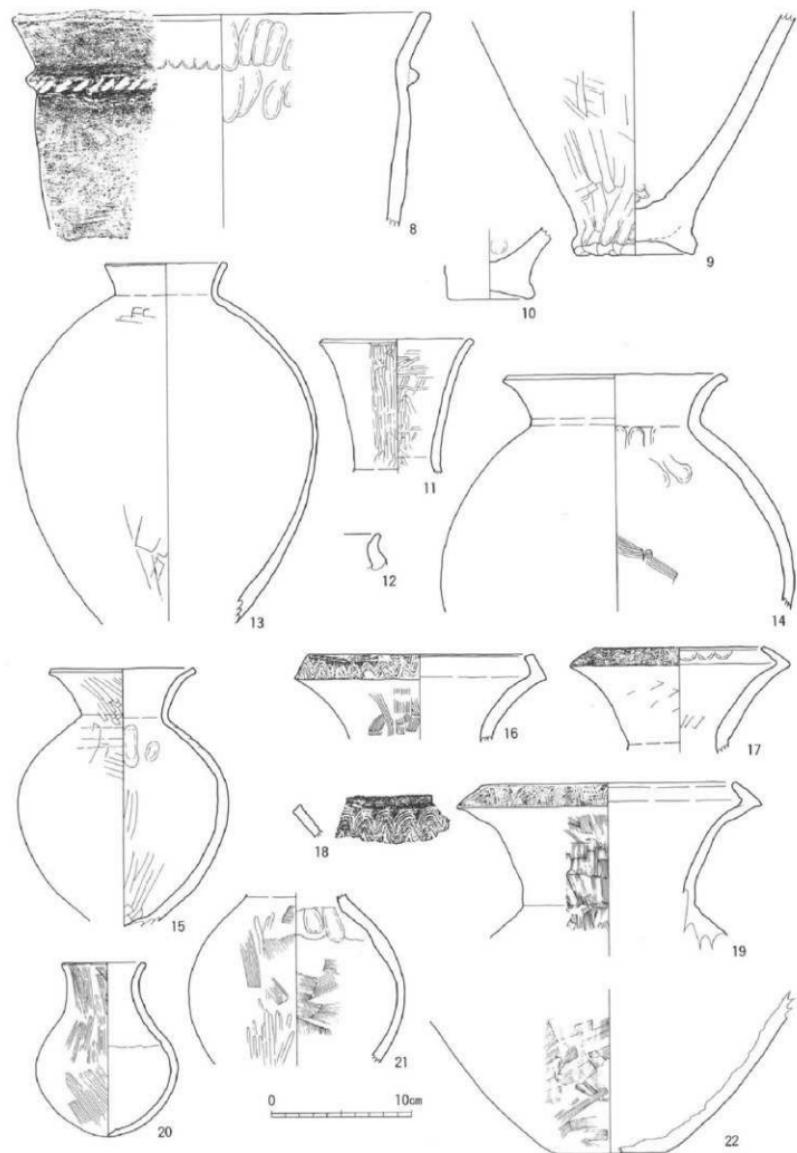
##### S A 1 出土の遺物

###### 甕 (1~10)

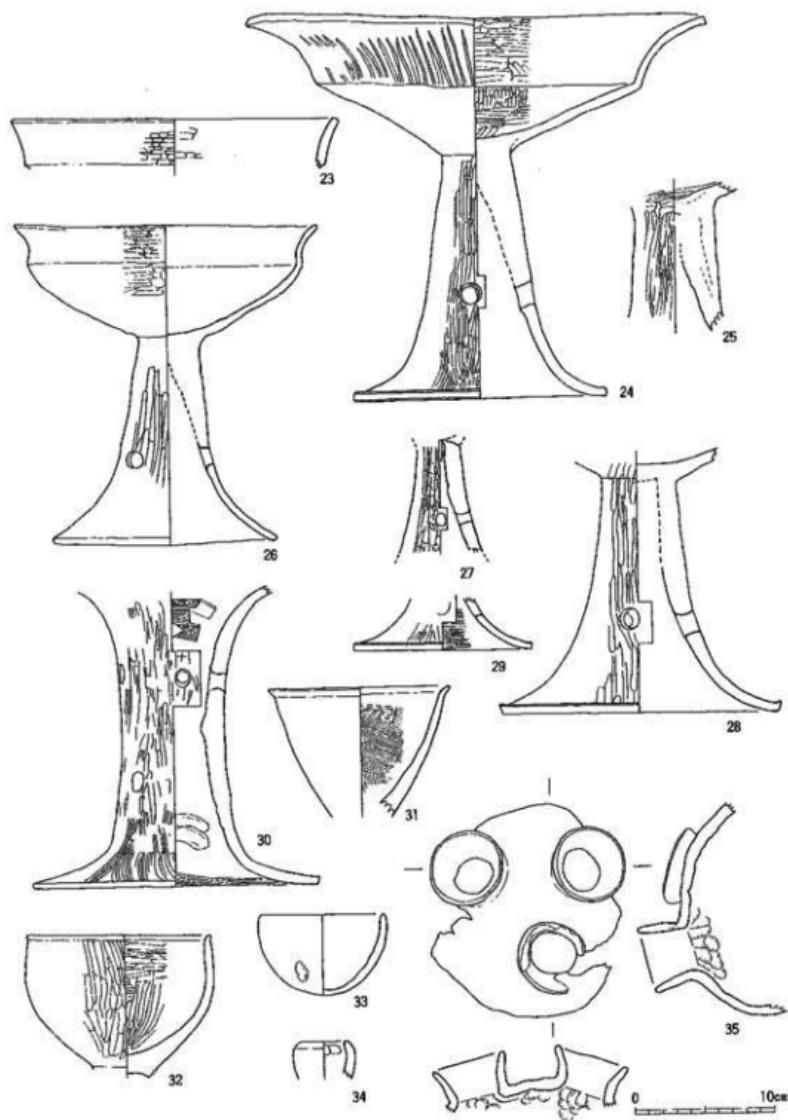
1は口径が35.5cmで、口縁部が短く緩やかに外反し口唇部は下方に摘み出している。外面は、ナデと横ナデ調整が施しており、内面はナデ調整である。色調は、黄橙である。胎土は、4mmの大の褐色粒で3mm以下の灰・黒・乳白色・半透明の砂粒を含んでいる。また、外面に煤が付着している。2は、口縁部が直線的に斜め方向に外反し、口唇部は平坦気味にしあげているものである。口径は、24.8cmである。外面は横ナデ・ナデ・指押さえ・縱方向のハケ目の調整がみられ、内面に縱・横方向のナデ・指押さえ・斜め方向のハケ目がみられる。外面の色調は浅黄橙とにぶい黄橙とにぶい橙である。内面にはぶい黄橙と褐色灰である。胎土は、5mm以下の黄色粒・4.5mm以下の褐色粒・3mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の半透明の黒色等光沢粒・乳白色の粒を含んでいる。外面に煤が付着して内面に炭化物が付着している。3は、完形品で口縁部から口唇部にかけては、2に近いもので口径は、22.8cm・器高35.6cmで、調整は、外面に横ナデやナデが施され、内面にナデや指ナデが施されている。色調は外面がにぶい橙やにぶい褐である。内面が浅黄橙と灰黄褐である。6mm以下の褐色粒・4mm以下の赤褐色・白色・半透明光沢粒・3.5mm以下の黒色光沢粒・3mm以下の黄色粒を含む。なお底部は、上げ底である。4は、口縁部の形状は1に近い。外面はナデ調整で内面は横ナデ調整である。色調は内外面とも橙である。胎土は、3mm以下の灰色・赤褐色粒・0.5mm以下の半透明光沢粒・淡黄色粒を含んでいる。5は、甕で口径は、20.3cmである。調整は外面にナデ調整で内面に横ナデ調整がみられる。色調は、外面にはぶい橙で内面にはぶい黄橙である。胎土は3mm以下の赤褐色・黒・灰白色の砂粒を含む。6は、甕で口径は18.2cmで調整は外面に横ナデ・斜め方向のハケ目・斜め方向のハケ目の後横方向のハケ目を施している。内面が横・斜め方向のハケ目が施してある。色調は外面が赤橙で内面は橙である。胎土は5mmの大の灰褐・茶色粒・1.5mm以下の乳白色・茶色の砂粒・3mmの大の半透明の光沢粒を含んでいる。また、外面に一部煤がついている。7は、甕で口径は21.2cmで調整は、横・斜め方向のナデで内面に横・縱・斜め方向のナデがみられる。色調は内外面とも橙で胎土は4~7mmの暗褐色粒・3mm以下の灰色・黒・暗褐色・半透明の光沢粒を含んでいる。8は甕の口縁部から胴部で頸部に刻目突帯を持っている。口径は28.8cmで外面の調整は横ナデと縱・横方向の指ナデを施している。内面は斜め・横方向の指ナデと指押さえの後、斜め方向の指ナデが施されている。色調は外面が浅黄橙で内面が淡橙である。7~4mmの灰・褐色粒を多く含み、3mm以下の灰白・灰・褐色・半透明の砂粒、黒い光沢粒も含んでいる。9は、上げ底の底部で底径は8.5cmで調整は外面が斜め方向のナデの後縱方向の工具ナデと指ナデとナデが施してある。内面は斜め・横方向の指ナデと指押さえの後斜め方向の指ナデが施してある。色調は、外面が橙と浅黄橙で内面が浅黄橙である。4mmの大の灰白色粒・3mm以下の褐・灰白・黒・赤褐色の砂粒、黒色の光沢粒を含む。10は、甕の底部で底径は6.05cmである。調整は外面に縱方向のナデが施され内面はナデと指押さえが施してある。色調は内外面とも浅黄橙である。4mmの大の褐灰・褐色粒・3mm以下の茶・灰白・灰色・半透明の砂粒・透明の光沢粒を



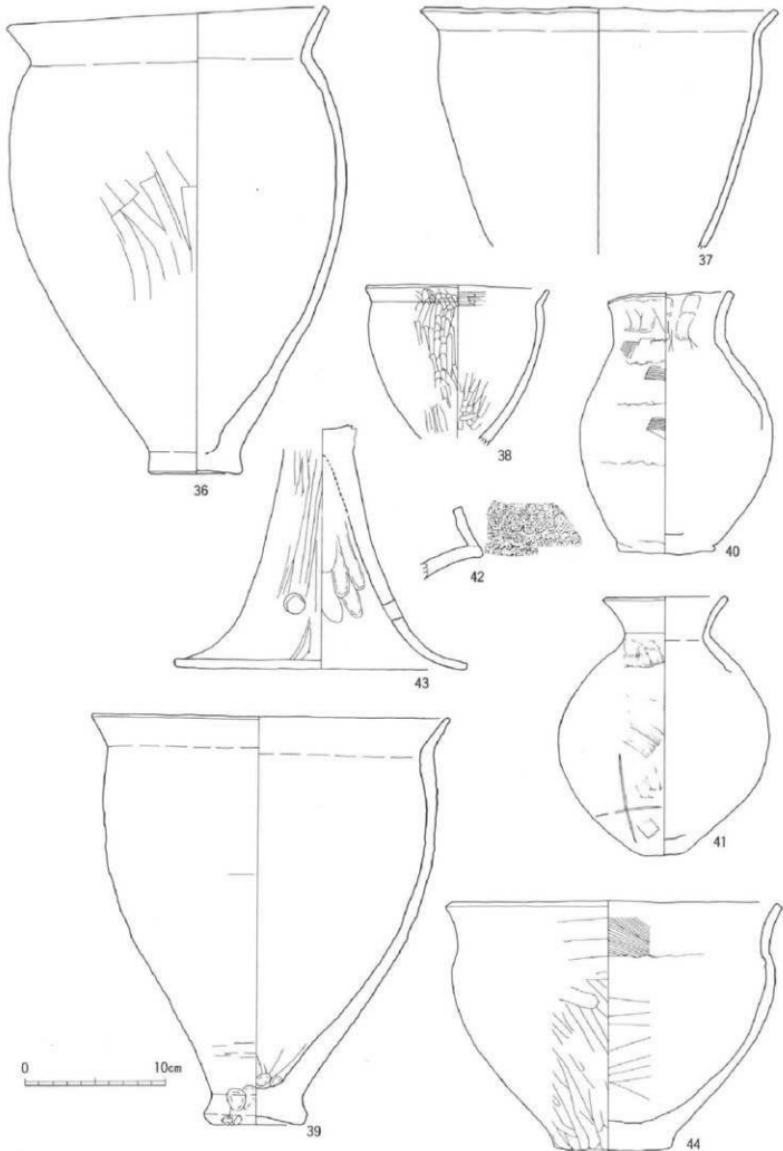
第36図 中大五郎第2遺跡 S A 1 出土土器実測図(1)



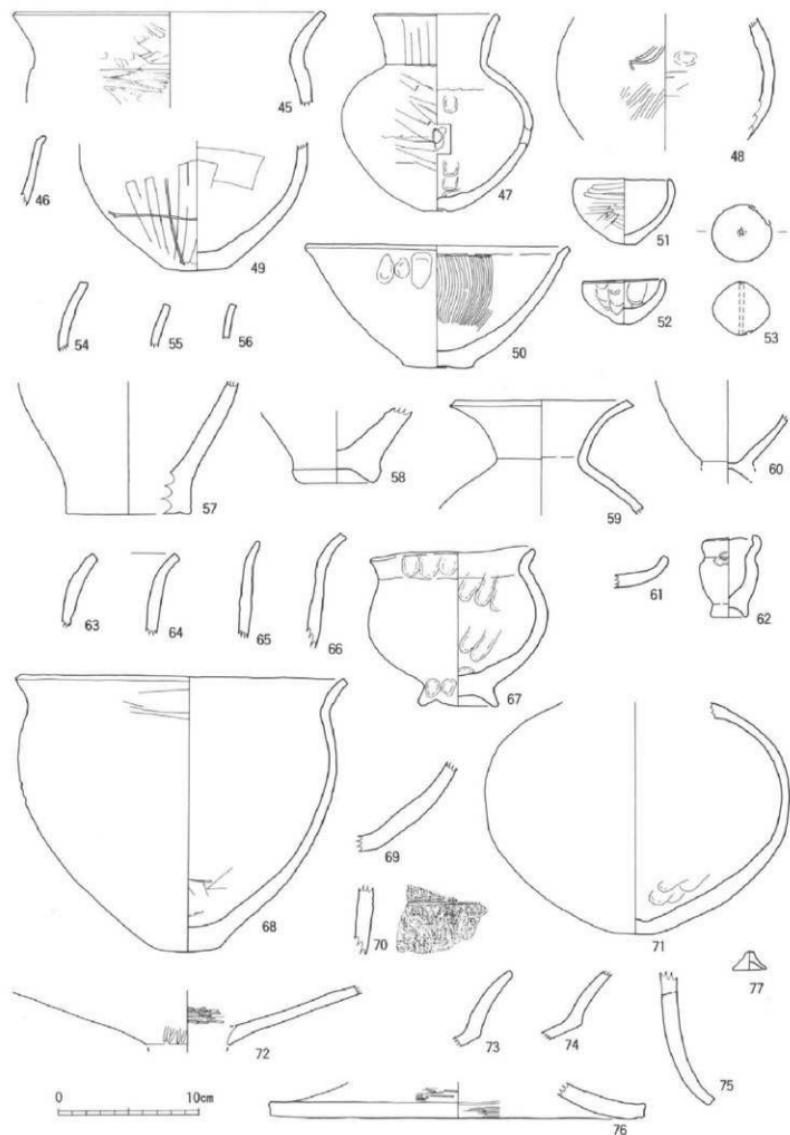
第37図 中大五郎第2遺跡 S.A.1 出土土器実測図(2)



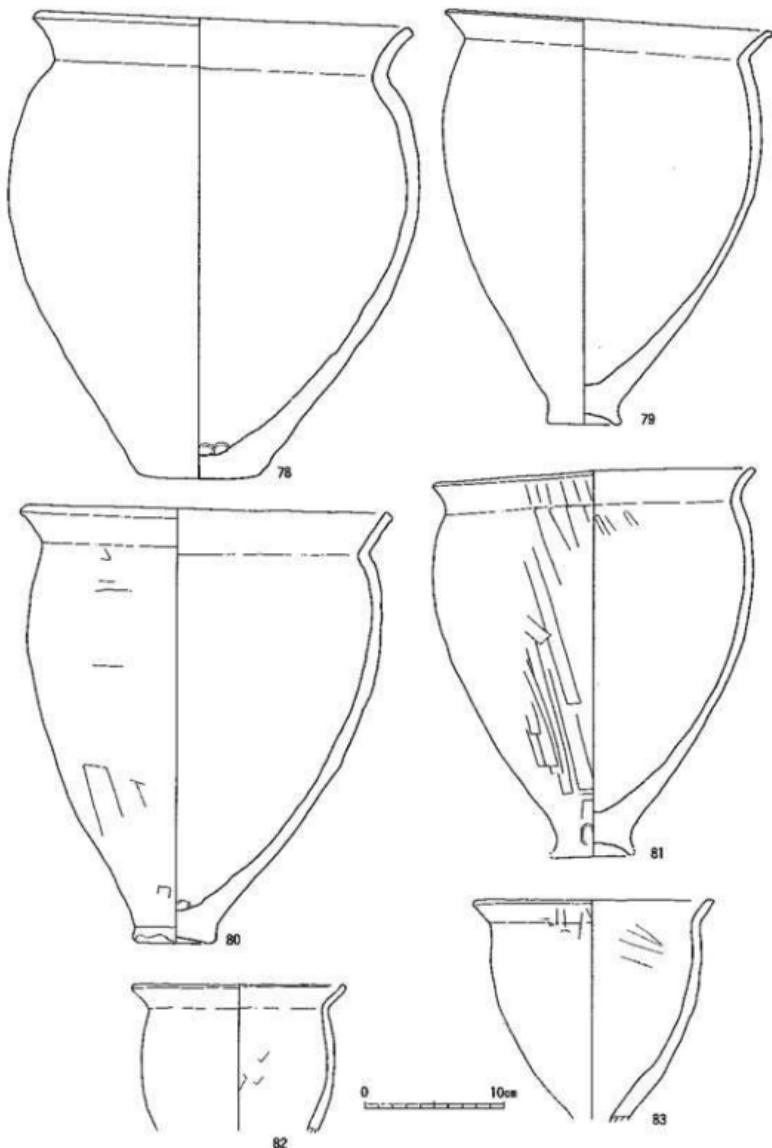
第38図 中大五郎第2遺跡 S A 1 出土遺物実測図 (3)



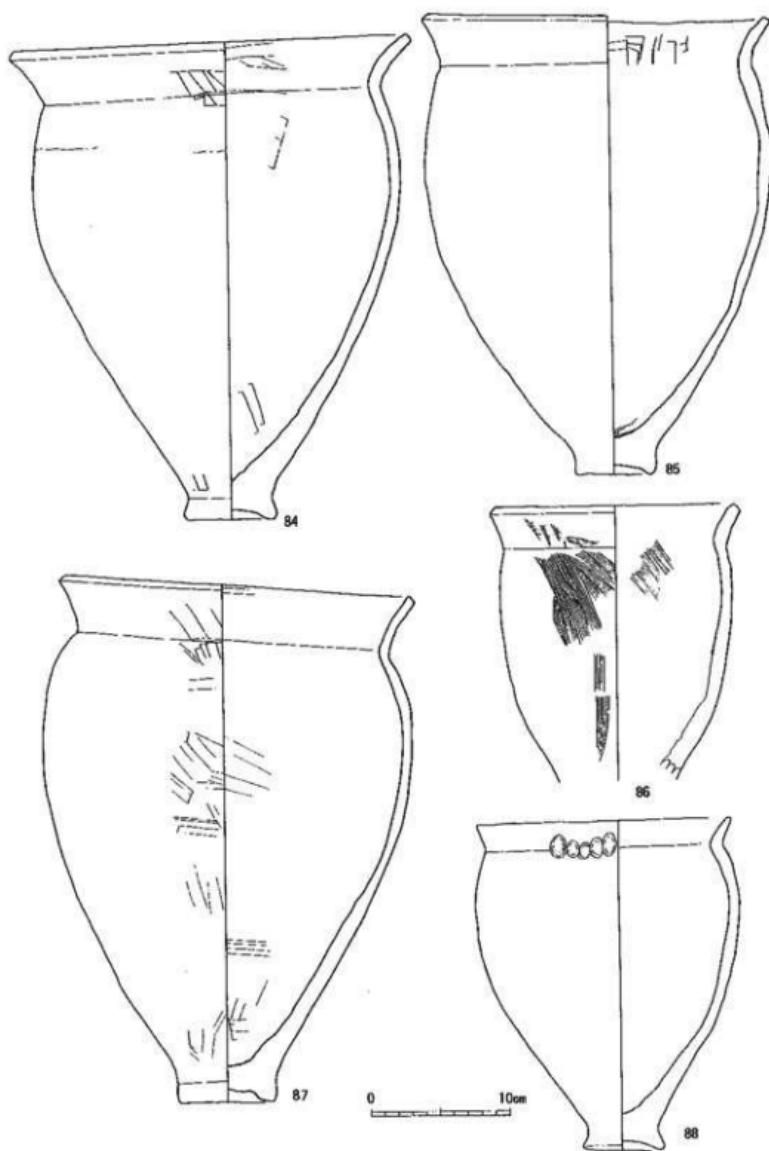
第39図 中大五郎第2遺跡 S A 2出土土器実測図



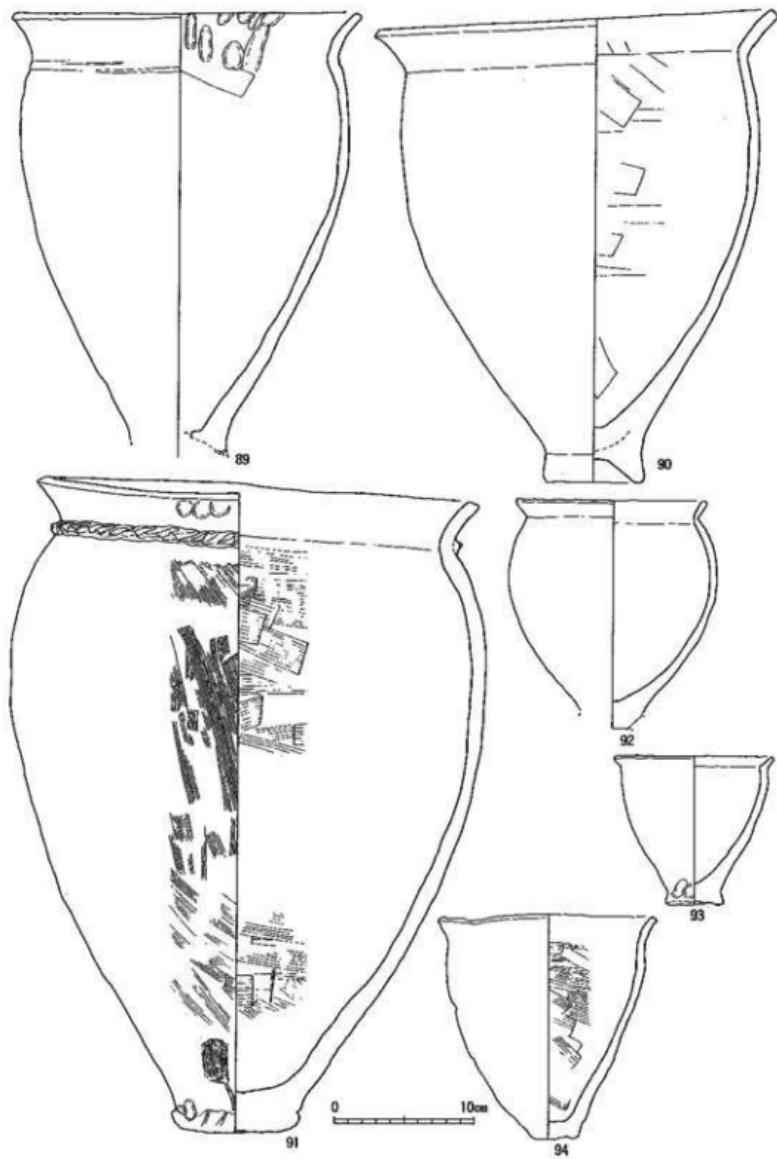
第40図 中大五郎第2遺跡 S A 2～S A 6 出土土器実測図



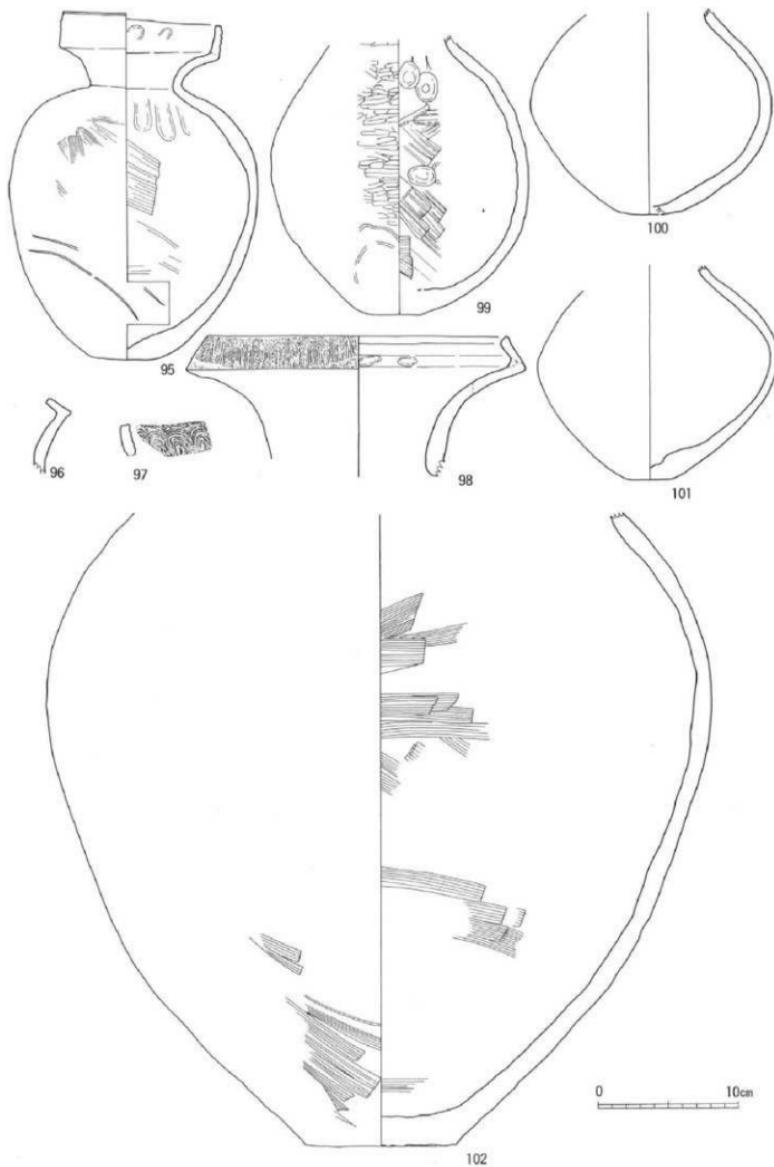
第41図 中大五郎第2遺跡S L 1 出土土器実測図(1)



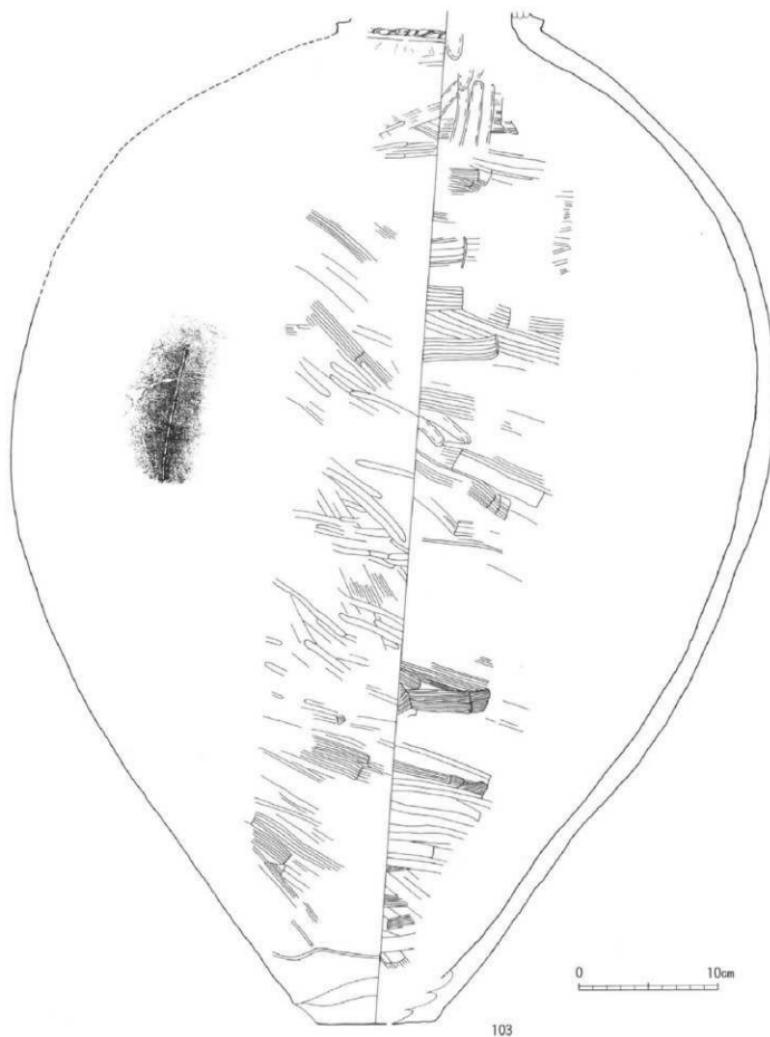
第42図 中大五郎第2遺跡 S L 1 出土土器実測図 (2)



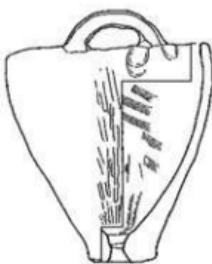
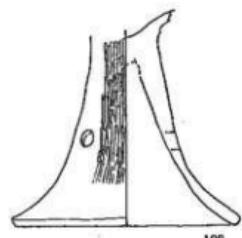
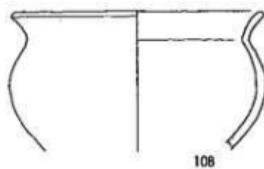
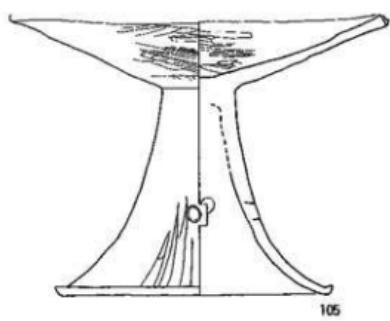
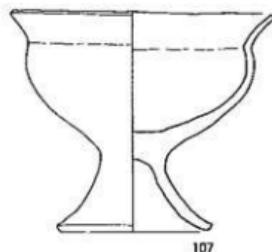
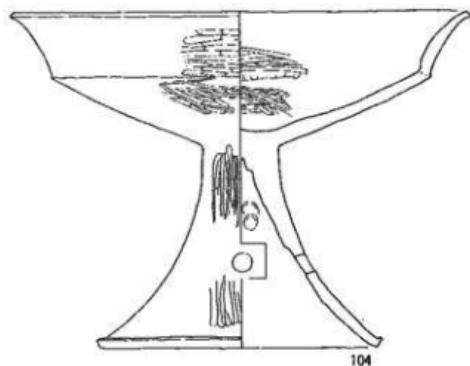
第43図 中大五郎第2遺跡 S L 1 出土土器実測図 (3)



第44図 中大五郎第2遺跡 S L 1 出土土器実測図 (4)



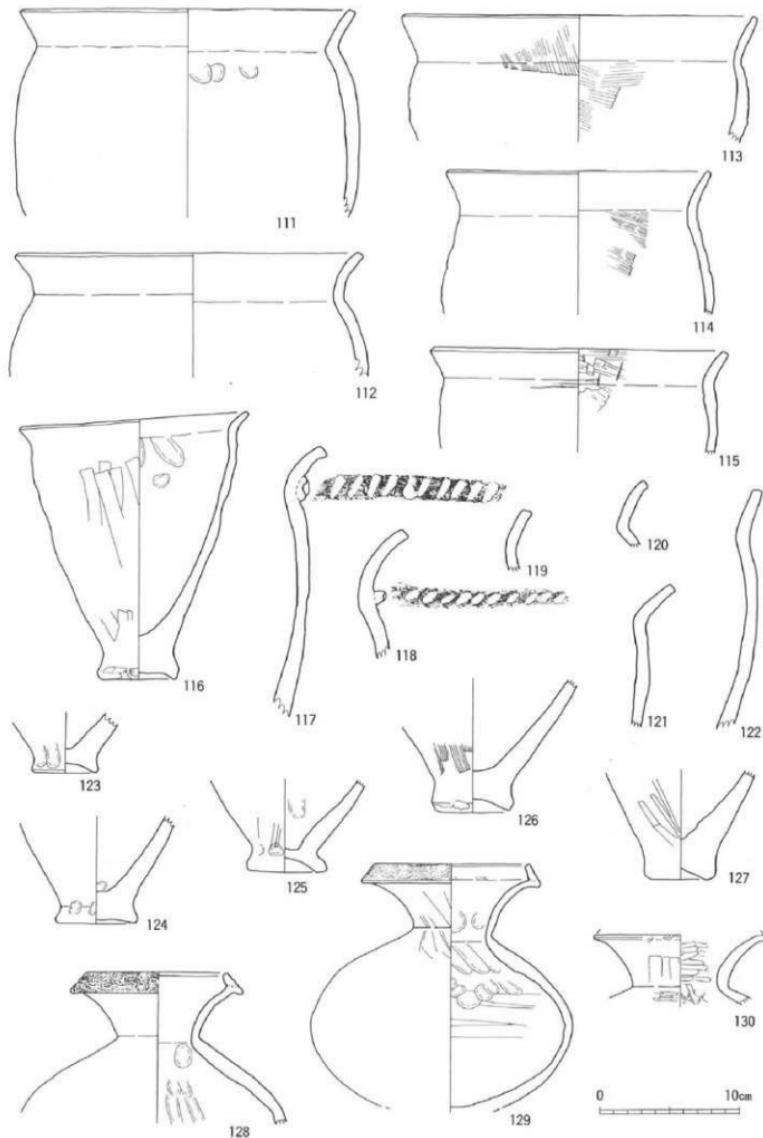
第45図 中大五郎第2遺跡 S L 1 出土土器実測図 (5)



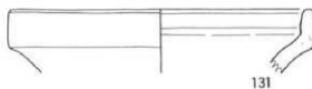
0 10cm



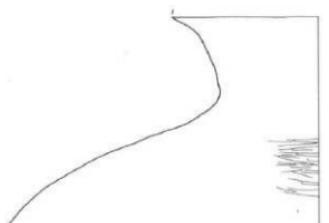
第46図 中大五郎第2遺跡 S L 1 出土土器実測図 (6)



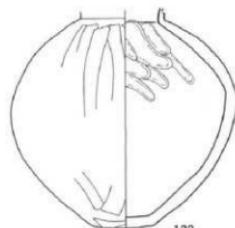
第47図 中大五郎第2遺跡 S L 2 出土土器実測図 (1)



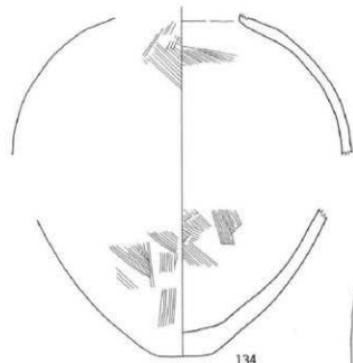
131



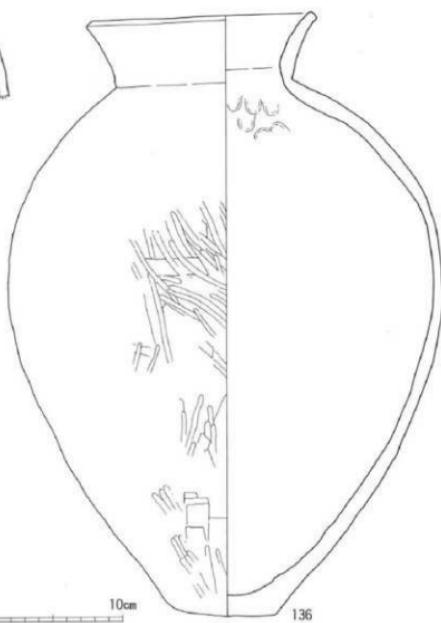
132



133

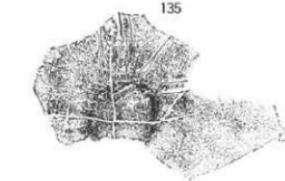


134

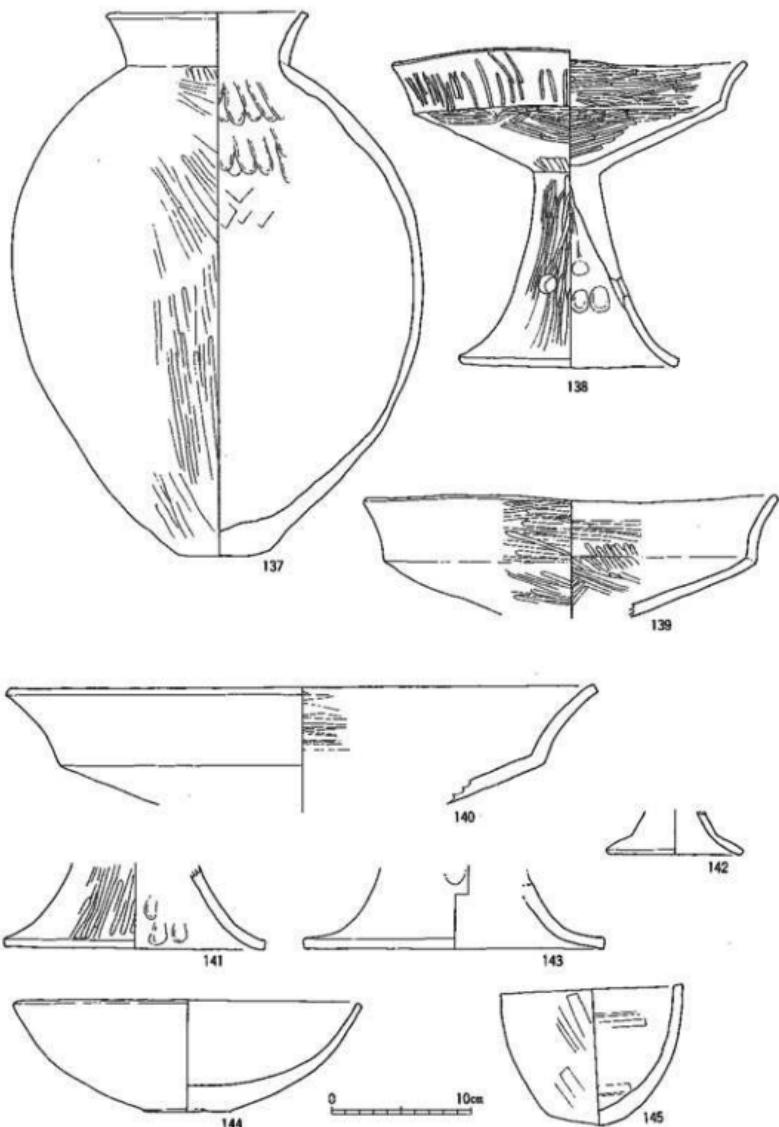


136

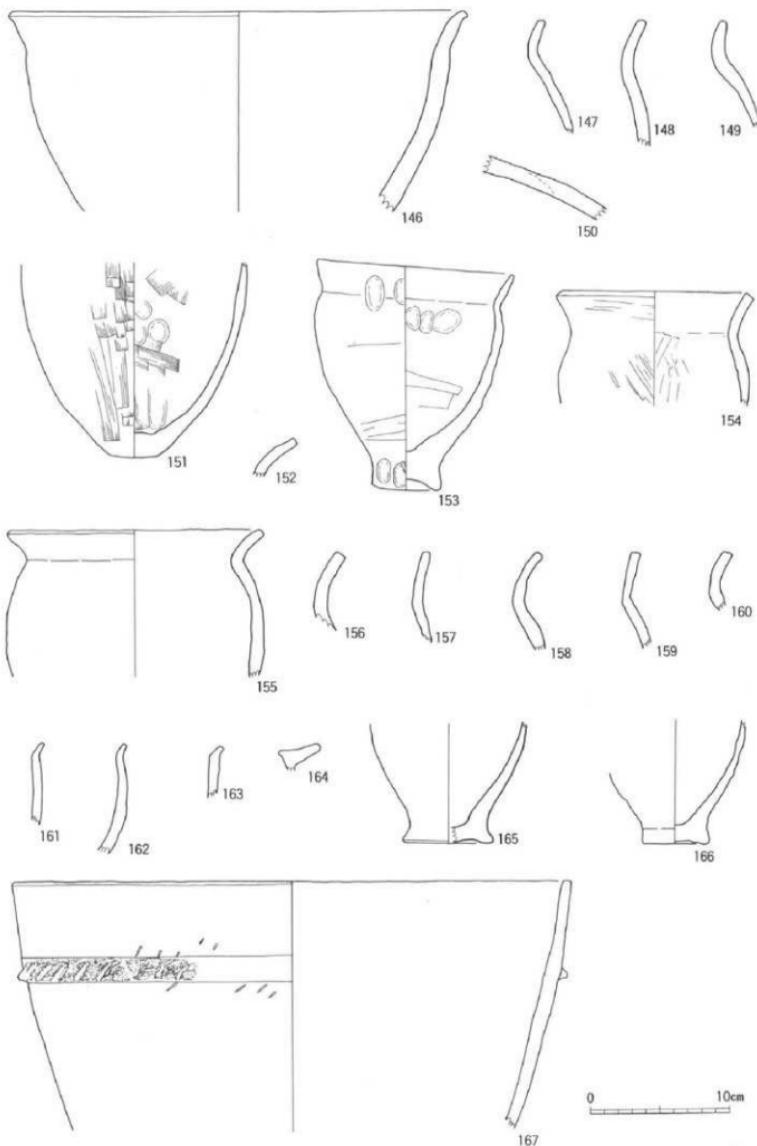
0 10cm



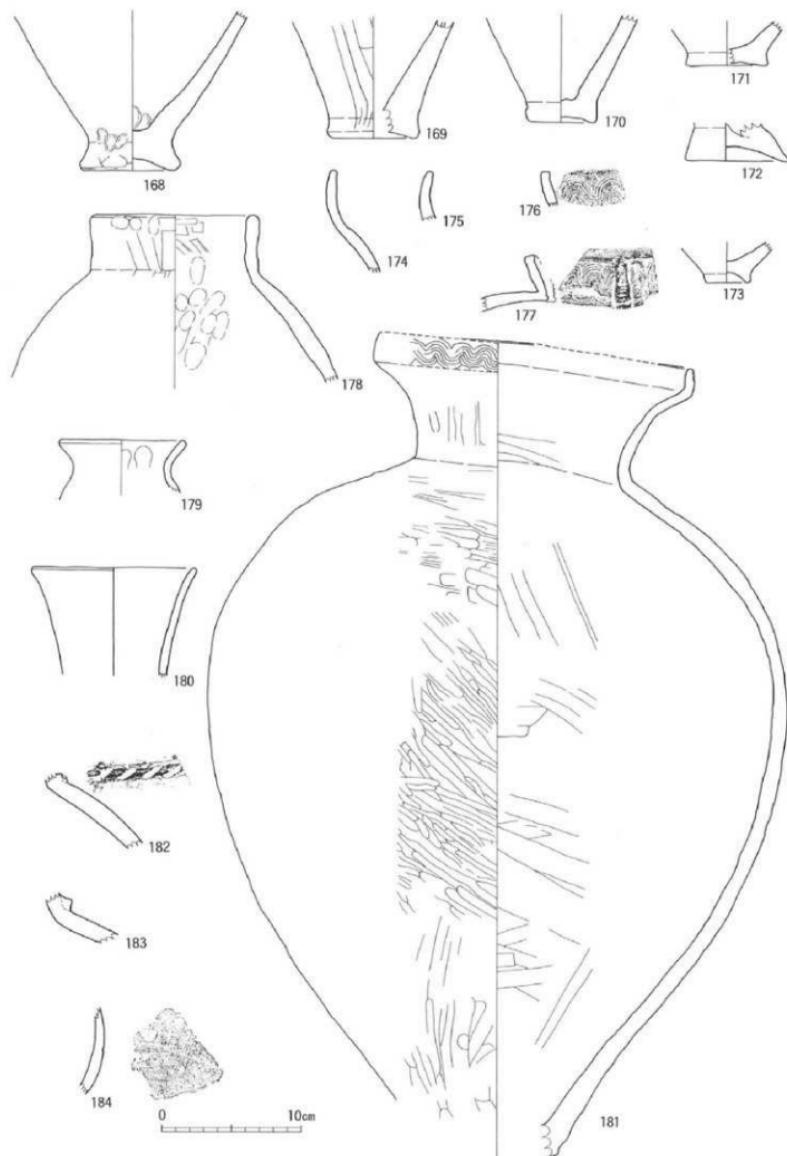
第48図 中大五郎第2遺跡 S L 2 出土土器実測図(2)



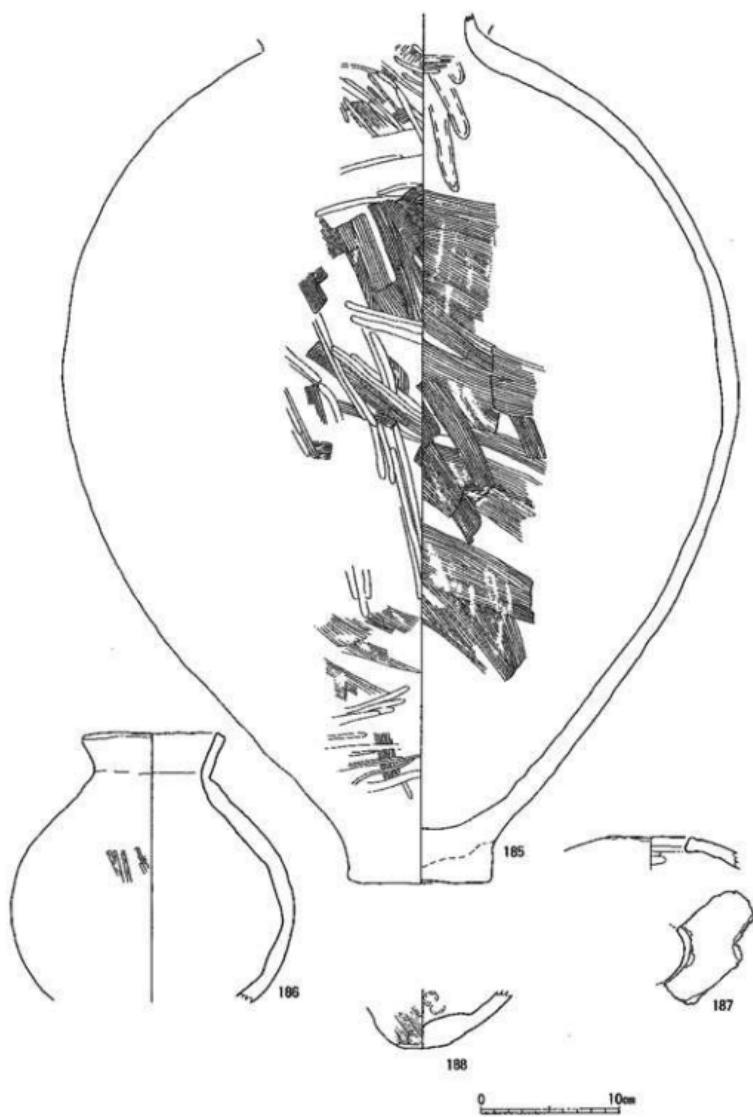
第49図 中大五郎第2遺跡S L 2出土土器実測図(2)



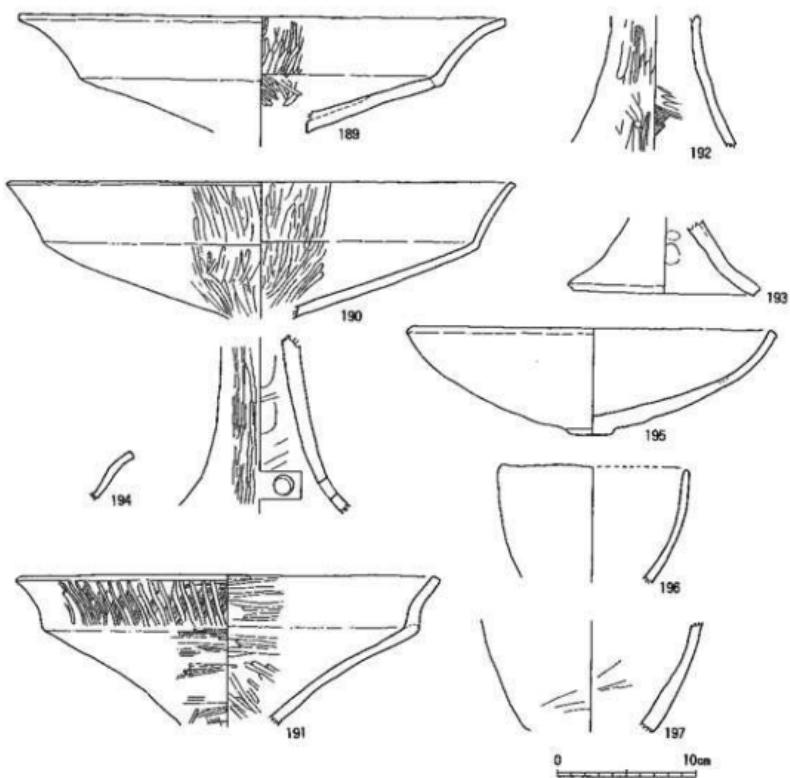
第50図 中大五郎第2遺跡 S L 3 · S C 2・包含層出土土器実測図



第51図 中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(1)



第52図 中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(2)

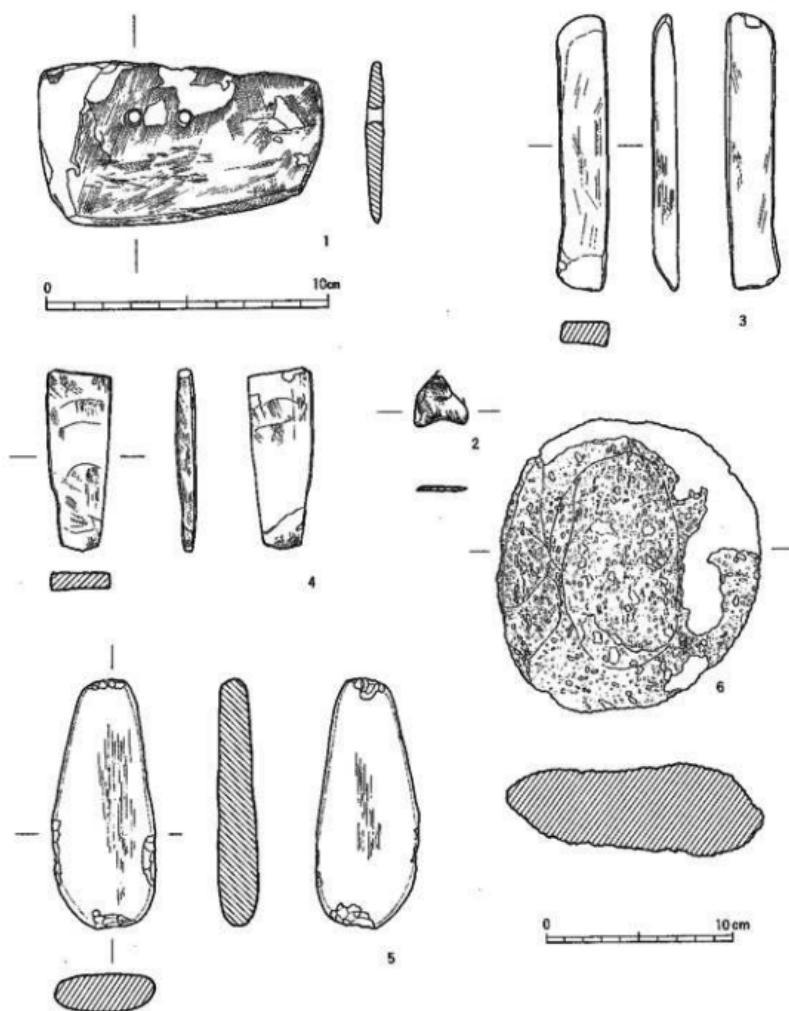


第53図 中大五郎第2遺跡出土包含層土器実測図(3)

含み上げ底である。

壺(11~22)

11は、頸部がほぼ直立的に長く伸び口縁部で若干外反している長頸壺で口径は10.5cmである。調整は外面に縱方向にヘラ磨きやミガキが施され、内面は横・縦・斜め方向に粗いヘラ磨きが施されている。12は、頸部が極小さいもので内外面とも横ナデ調整が施されている。色調はにぶい橙と橙では胎土は4mmの大茶・灰褐色の粒を含んでいる。13は頸部が短く外反する壺で口径は11.4cmである。調整は外面は、横・縦・斜め方向のナデ内面は横ナデ・ナデ調整である。色調は内外面ともに橙である。胎土は、3mm以下の灰褐・黒・灰白色の砂粒を多く含む。また、2mm以下の透明の光沢粒を含んでいる。14も頸部が短く緩やかに外反する壺で口径は、15.3mmで調整は外面が横・斜め方向のナデで内面が横・斜め方向のナデや抑制さえが施してある。色



第54図 中大五郎第2遺跡SA 3・SA 5・SL 2出土石器実測図(1)

調は外面が橙と黄橙で内面は灰白である。15は、頭部が14よりさらに大きく外反するもので口径は10.2cmである。外面の調整は、横ナデと縦・斜め方向の工具ナデが施してある。内面は、横ナデやナデ、縦方向の指ナデや斜め方向の工具ナデなどがみられる。色調は外面が橙で、内面が橙とにぶい橙である。胎土は、5mm以下の褐色粒・3mm以下の赤褐色・して灰白色粒を含み他に2mm以下の黒色光沢粒も含んでいる。16は、口縁部が二重口縁部になっていて外面部に

櫛描波状紋を施すもので、外面に縦・斜め方向のハケ目を施し内面は横ナデやナデを施している。色調は内外面ともに浅黄橙である。17も二重口縁部で口唇部に櫛描波状紋を施しているタイプのものである。頸部が緩やかに外反しているもので口径は12.2cmで測定は、外面に横ナデや工具ナデを施していて内面は指押さえや工具ナデが施してある。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土は、3mm以下の赤褐・灰・黒色・灰色・半透明の砂粒が多く含んでいる。18も壺で外面に櫛描波状紋をもつもので、調整は外面に横ナデやナデ調整が施され外面に横ナデや斜め方向のナデを施している。色調は外面がぶい橙と橙で内面は浅い黄橙である。

表9 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(1)

件 序 号	種別	器種	出土 地点	法 量(cm)	調 整		色 調			胎 土	備 考
					内 外 面	内 面	外 面	内 面	内 面		
1 弥生 壺 SA1 35.5		ナデ・横ナデ (一組人頭模 あり)	ナデ	黄橙 (7.5YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6)	4ミリ大の褐色粒・3ミリ以下の灰・黒 乳白色・半透明の砂粒を含む					外面にスス付着
2 弥生 壺 SA1 24.8		指押さえナデ (頭部と肩部 のハケ目)	指押さえナデ (頭部と肩部 のハケ目)	黒褐色 (5YR 1/4) 赤褐色 (5YR 4/4) 半透明 (5YR 8/4)	黒褐色 (5YR 1/4) 赤褐色 (5YR 4/4) 半透明 (5YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐色・4ミリ以下の褐色 ・5ミリ以上の灰褐色・3ミリ以下の半透 明・黑色光沢粒・3ミリ以下の黄色粒を含む					外面にスス付着 内面に化粧削有 る
3 弥生 壺 SA1 22.8 6.4 35.6		ナデ・ナデ (人頭模あり)	ナデ・ナデ (人頭模あり)	灰褐色 (5YR 4/4) 赤褐色 (5YR 8/4)	灰褐色 (5YR 4/4) 赤褐色 (5YR 8/4)	4ミリ以下の褐色・4ミリ以下の灰褐色 ・5ミリ以下の灰褐色・3ミリ以下の半透 明・黑色光沢粒・3ミリ以下の黄色粒を含む					外面にスス付着 内面に化粧削有 る
4 弥生 壺 SA1		ナデ	横ナデ	灰 (5YR 6/6)	灰 (5YR 6/6)	3ミリ以下の灰褐色・6ミリ以下の 半透明光沢粒・淡黄色光沢粒を含む					
5 弥生 壺 SA1 20.3		ナデ	横ナデ	灰褐色 (5YR 7/4)	灰褐色 (5YR 7/4)	3ミリ以下の灰褐色・3ミリ以下の 黑色光沢粒					外面にスス付着
6 弥生 壺 SA1 18.2		横ナデ・鉛錠形 丸筒形のハケ目	横・前方向 のナデ	赤褐色 (10YR 6/6)	灰 (2.5YR 6/6)	5ミリ大の灰褐色・5ミリ以下の 乳白・茶色の砂粒					外面にスス付着 内面に一部化粧 削有る
7 弥生 壺 SA1 21.2		横・斜方向 のナデ	横・暗・斜方 向のナデ	灰 (2.5YR 6/6)	灰 (2.5YR 6/6)	4~7ミリの暗褐色・3ミリ以下の灰 ・黒・暗褐色・半透明の砂粒・透明 の光沢粒を含む					外面にスス付着 内面に化粧削有 る
8 弥生 壺 SA1 28.8		横ナデ・横・横 筒形のハケ目	横ナデ・横・横 筒形のハケ目	灰褐色 (7.5YR 8/4)	灰褐色 (7.5YR 8/4)	7~4.5ミリの灰褐色・5ミリ以下 の灰・乳白・灰・暗褐色・半透明的 の砂粒・5ミリ以下の光沢粒を含む					輪目自用器
9 弥生 壺 SA1 8.5		頭部のナデの後 頭部のナデの前 のナデ	横・斜・頭部 のナデ	赤褐色 (7.5YR 8/4)	灰褐色 (7.5YR 8/4)	4~5ミリの大乳白色・3ミリ以下の 灰・乳白・黑褐色の砂粒・黑色の光 沢粒を含む					あげ底
10 弥生 壺 SA1 6.05		擬方型のナデ ナデ・指押さえ ナデ	指押さえ	浅黃褐色 (10YR 8/3)	浅黃褐色 (10YR 8/3)	4~5ミリの大範囲・褐色粒・3ミリ以下の 灰・乳白・灰を半透明の砂粒・3ミリ以下の 光沢粒を含む					あげ底
11 弥生 壺 SA1 10.5		擬方型にヘラ ミガキ	横・暗・斜方 向のナデ (頭部無)	灰褐色 (10YR 5/2)	灰褐色 (10YR 4/1)	3~4.5ミリの大範囲の粒 ・3ミリ以下の透明の光沢粒・黒い灰白 の砂粒を含む					
12 弥生 壺 SA1		横ナデ	横ナデ	灰褐色 (5YR 7/4)	灰 (5YR 7/4)	4ミリ大の茶・灰褐色の粒を含む					
13 弥生 壺 SA1 11.4		横・暗・斜方 向のナデ (頭部無)	横ナデ・ナデ (2.5YR 6/6) (2.5YR 7/6)	灰 (2.5YR 6/6) (2.5YR 7/6)	灰 (2.5YR 6/6) (2.5YR 7/6)	3~4.5ミリ以下の灰褐色・黒・灰白色の砂 粒を多く含む・2.5ミリ以下の透明の光 沢粒を少し含む					外面にスス付着
14 弥生 壺 SA1 15.3		横・斜方向の ナデ	横・斜方向の ナデ	赤褐色 (7.5YR 6/6) 半透明 (5YR 1/6)	灰白 (7.5YR 8/1)	4~5ミリ以下の灰・灰・白色の粒・3ミリ 以下の透明の光沢粒・赤褐色・黑色光 澤粒を多く含む					
15 弥生 壺 SA1 10.2		横・暗・斜方 向のハケ目	横ナデ・ナ デ・指押さえ ナデ	指押さえ (頭部無)	指押さえ (5YR 7/1) ナデ (5YR 7/4)	指押さえ (5YR 7/1) ナデ (5YR 7/4)	3ミリ以下の暗褐色・3ミリ以下の赤 褐色・灰白色・2.5ミリ以下の黑色光 澤粒を含む				
16 弥生 壺 SA1 16.0		横・斜方向の ハケ目	横ナデ・ナデ	浅黃褐色 (10YR 8/4)	浅黃褐色 (7.5YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐色・茶色の砂粒 ・4ミリ以下の光沢粒を含む					一重口縁 櫛描波状文
17 弥生 壺 SA1 12.2		横ナデ・工具ナ デ	指押さえ 工具ナデ	浅黃褐色 (10YR 8/4)	浅黃褐色 (10YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐色・3ミリ以下の 黑色光沢粒を多く含む					一重口縁 櫛描波状文
18 弥生 壺 SA1		横ナデ ナデ	横ナデ 鉛錠形のナ デ	灰褐色 (7.5YR 7/4) 鉛錠形のナ デ (2.5YR 7/4)	浅黃褐色 (7.5YR 8/4)	2.5ミリ以下の灰褐色・茶色の砂粒 ・4ミリ以下の光沢粒を含む					櫛描波状文
19 弥生 壺 SA1 18.3		擬方型のハ ケ目	横ナデ 鉛錠形のナ デ	灰褐色 (7.5YR 8/1) 鉛錠形のナ デ (2.5YR 8/1)	灰褐色 (7.5YR 8/1)	3ミリ以下の灰褐色・3ミリ以下の 黑色光沢粒を多く含む					一重口縁 櫛描波状文 内面風化著しい
20 弥生 小壺 SA1 5.8 - 12.4		横・暗・斜 方向のハケ目	ナデ・指押さえ ナデ	深褐色 (10YR 7/6)	深褐色 (10YR 7/6)	0.5~2ミリの灰褐色・灰・黑色光澤粒を多 く含む					外面にスス付着 丸底

表10 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(2)

測定 割	器種	出土 地點	法 量(cm)	調 整			色 調		胎 土	備 考		
				口徑	底径	高さ	外 面	内 面				
21	弥生	縫	SA1				横・斜方角の タリ、底方角の タリとミガキ の凹凸	横方角の指付 タリ、底・側面 横方角の指付 タリとミガキ の凹凸	透(5YR 7/6) 透(7SYR 7/4)	にふり透 (7SYR 7/4)	3ミリ以下の赤褐色、茶・淡褐色の砂粒 を多く含む	内面・周囲 外壁に黒斑
22	弥生	縫	SA1	7.4			横・斜方角の タリ、底方角の タリとミガキ の凹凸	風化透なし (7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4)	3ミリ以下の灰白・褐・黑色、半透明 の砂粒を多く含む。2ミリ以下の透 け透明の光沢粒を含む	内面・全面剥離
23	弥生	高坏	SA1	22.5			横ナダ・ミガキ の指付タリ	横ナダ・ミガキ の指付タリ	透(7SYR 7/6)	透(7SYR 7/6)	2ミリ以下の灰・灰・茶色の砂粒、1ミリ 以下の黑色、透明の光沢粒を含む	
24	弥生	高坏	SA1	32.8	18.2	27.9	横・斜方角の タリとミガキ の凹凸	横・斜方角の タリとミガキ の凹凸	透(7SYR 6/6) 透(7SYR 6/6)	にふり透 (7SYR 6/6)	4ミリ大の褐色斑、3ミリ以下の横・ 斜方角の指付タリ、黑色・半透明の砂粒、黒い透 明の光沢粒を含む	輪郭、四方透かし 輪郭の一部に風 化透明
25	弥生	高坏	SA1				横・斜方角の タリとミガキ の凹凸	透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4)	3ミリ以下の茶・黒・灰褐色の砂粒 を多く含む		
26	弥生	高坏	SA1	21.8	16.15	23.3	横・斜方角の タリとミガキ の凹凸	横・斜方角の タリとミガキ の凹凸	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	3ミリ以下の灰・灰・黑色の砂粒、半透明 の光沢粒を多く含む	外壁に風化透明 三方透かし
27	弥生	高坏	SA1				横方角のミガキ の凹凸	横方角のミガキ の凹凸	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	にふり透 (7SYR 7/6)	3ミリ以下の灰・灰・茶色の砂粒、透 明・黑色の光沢粒を含む	四方透かし
28	弥生	高坏	SA1				横方角のミガキ の凹凸	横方角のミガキ の凹凸	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透(7SYR 7/6)	3ミリ以下の灰・灰・半透明の砂粒、透 明・黑色の光沢粒を含む。薄緑な 透紋が多い	外壁に黒斑 四方透かし
29	弥生	高坏	SA1				ミガキ・横ナダ の指付タリ	ミガキ・横ナダ の指付タリ	透(7SYR 6/6) 透(7SYR 6/6)	透(7SYR 6/6) 透(7SYR 6/6)	2ミリ以下の茶褐色、4ミリ以下の灰褐色、2ミ リ以下の灰褐色、25ミリ以下の半透明の 光沢粒、15ミリ以下の黑色の光沢粒を含む	透かし(四方?)
30	弥生	器台	SA1	20.4			ハサウエの底 横ナダ・ミガキ の指付タリ	ハサウエの底 横ナダ・ミガキ の指付タリ	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	7ミリ以下の茶褐色、4ミリ以下の灰褐色、2ミ リ以下の灰褐色、25ミリ以下の半透明的 光沢粒、15ミリ以下の黑色の光沢粒を含む	二段の腹透かし
31	弥生	台脚	SA1	12.8			ナダ 横方角のナダ	横ナダ 横方角のナダ	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	にふり透 (7SYR 7/6)	2ミリ以下の茶褐色・褐色・灰色の粒 15ミリ以下の半透明光沢粒、灰色の砂粒を含む	内面・一部黒斑
32	弥生	台脚	SA1	13.0			横・斜方角の ミガキ	横・斜方角の ミガキ	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透(7SYR 6/6) 透(7SYR 6/6)	12ミリ以下の茶色・赤褐色・半透明光沢粒 65ミリ以下の茶褐色・灰褐色・乳白色を含む	
33	弥生	ヒトコト	SA1	8.8	-	5.8	ナダ	ナダ 指付さえ	透 透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透 透(7SYR 7/6)	3ミリ以下の灰褐色・灰褐色・茶褐色・ 黑色光沢粒、2ミリ以下の黑色粒、半 透明光沢粒を含む	丸底
34	弥生	ヒトコト	SA1	3.3			ナダ	ナダ 指付さえ	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	2ミリ以下の茶褐色・褐色・灰色の粒 15ミリ以下の茶褐色・褐色・半透明光沢粒を含む	
35	弥生	縫	SA1				横ナダ 指付さえ	横ナダ 指付さえ	透(7SYR 8/6) 透(7SYR 8/6)	透(7SYR 8/6) 透(7SYR 8/6)	2ミリ以下の灰褐色・茶褐色・半透明の輪 状砂粒を多く含む 黒い透明の光沢粒を含む	
36	弥生	縫	SA2	22.3	6.3	33	ナダ 横・斜方角の ナダ	ナダ 横・斜方角の ナダ	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	51ミリ以下の茶褐色、4.5ミリ以下の灰褐色、4.5 ミリ以下の茶褐色、15ミリ以下の茶褐色、2.5 ミリ以下の半透明光沢粒、乳白色を多く含む	外壁・スス付着 あり底
37	弥生	縫	SA2	25.1			横・斜方角の ナダ	横・斜方角の ナダ	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	4.5ミリ以下の茶褐色・茶褐色、4.5ミリ以下 の黑色・灰色の粒、3ミリ以下の半透明 ・透明光沢粒、乳白色を多く含む	外壁・照室
38	弥生	縫	SA2	13.2			横・斜方角の ナダ	横・斜方角の ナダ	透(7SYR 8/3) 透(7SYR 8/3)	透(7SYR 8/3) 透(7SYR 8/3)	2ミリ以下の茶・茶褐色・灰色の砂粒 透明透光性を有する	内面・基盤
39	弥生	縫	SA2	36.2	7.5	22.25	指付さえ 横・斜方角のナダ	指付さえ 横・斜方角のナダ ナダ	透(7SYR 8/6) 透(7SYR 8/6)	透(7SYR 8/6) 透(7SYR 8/6)	6ミリ以下の茶褐色、4ミリ以下の乳白色 5.5ミリ以下の茶褐色・赤褐色の粒 2.5ミリ以下の黑色の光沢粒を多く含む	あげ底
40	弥生	縫	SA2	8.45	3.95	15.65	横ナダ 横・斜方角の ナダ	横ナダ 横・斜方角の ナダ	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	7ミリ以下の茶褐色 4ミリ以下の茶褐色 2.5ミリ以下の茶褐色・透明光沢粒 15ミリ以下の黑色・透明光沢粒・乳白色	
41	弥生	縫	SA2	8.4	4.4	18.5	横ナダ 横・斜方角の ナダ	横ナダ 横・斜方角の ナダ	透(7SYR 8/6) 透(7SYR 8/6)	透(7SYR 8/6) 透(7SYR 8/6)	4.5ミリ以下の茶色・茶褐色・半透明 の砂粒を含む	ヘラ記号
42	弥生	縫	SA2				ナダ T.具附あり	ナダ T.具附あり	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	4ミリ以下の茶・灰・褐色・半透明 の砂粒を含む	二重口縫 輪縫底状
43	弥生	縫	SA2				横・斜方角の ナダ	横ナダ	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	25ミリ以下の茶褐色 2.5ミリ以下の茶褐色 11.5ミリ以下の乳白色	内・外面に三層 透かし 外壁に黒斑
44	弥生	縫	SA2	22.3	8.4	17.8	工具による 削・削痕のナダ ナダ	[工具による削 削痕のナダ ナダ]	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	3.5ミリ以下の茶褐色・茶褐色・茶褐色の砂粒 を含む	外壁にスス付着
45	弥生	縫	SA3	21.6			横ナダ ハサケ日 丁具ナダ	横ナダ ハサケ日 丁具ナダ	透(7SYR 7/6) 透(7SYR 7/6)	透(7SYR 8/4) 透(7SYR 8/4)	3ミリ以下の茶色・茶褐色・半透明 の砂粒	

表11 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(3)

件 番	種別	器種	出土 地点	法 量(cm)	調 整	色		胎 土	備 考		
						外 面	内 面				
46	弥生	壺	SA3		鉢方向のナデ	鉢方向のナデ	浅青緑 (10YR 8/4)	黄褐色 (10YR 8/6)	2ミリ以下の灰褐色・褐色の砂粒を含む		
47	弥生	壺	SA3	8.5 2.1	14.1	横ナデ 工具ナデ	横ナデ ナデ 留押さえ	灰褐色 にふく色 (5YR 7/4)	明褐色 (5YR 1/2) 透明(5YR 8/4)	3ミリ以下の灰白・茶色・乳白色・半透明の砂粒を含む。	外側に黒斑やあげ底
48	弥生	壺	SA3		鉢方向の工具 ナデ	鉢方向のナデ 工具ナデ	透青緑 (10YR 8/4) 灰褐色 (10YR 8/6)	灰白 (10YR 8/2)	2ミリ以下の灰白・灰・茶の砂粒、3ミリ以下の透明の砂粒を含む	外側に黒斑	
49	弥生	壺	SA3	14.3		横ナデ 横・前方の ナデ	横(5YR 7/4) にふく色 (5YR 8/4)	透青緑 (5YR 8/4)	3ミリ以下の灰・灰・灰褐色の砂粒、透明の光沢粒を含む	外側に黒斑	
50	弥生	鉢	SA3	18.7 5.5	8.8	横ナデ ナデ 留押さえ	横(5YR 7/4) 留押(5YR 8/4) にふく色 (5YR 8/6)	透青緑 (5YR 8/4)	4ミリ以下の暗灰・灰白・茶色の砂粒を含む		
51	弥生	にげ壺	SA3	6.6 2.2	4.7	ミガキ	ナデ	透青緑 (5YR 8/4) にふく色 (5YR 8/4)	2ミリ以上の乳白色・半透明の砂粒、透明の光沢粒を少し含む	外側に黒斑	
52	弥生	にげ壺	SA3	5.55 2.05	3.3	衝ナデ ナデ	衝ナデ ナデ	透青緑 (5YR 8/4)	3ミリ以下の灰・茶・半透明の砂粒を含む		
53	弥生	物腰車	SA3			ナデ	灰褐色 (5YR 8/2)		3ミリ以下の茶褐色・乳白色的砂粒を含む。		
54	弥生	壺	SA4			ナデ 横ナデ	衝ナデ 鉢方向に工具 留	透青緑 (2.5YR 8/2)	4ミリ以上の茶色の粒 3ミリ以上の灰・赤・褐色・茶色の砂粒を含む		
55	弥生	壺	SA4			横ナデ	ナデ	透青緑 (10YR 3/4)	3ミリ以下の灰褐色・茶色の砂粒、透明の光沢粒を含む。	外側にスス付着	
56	弥生	壺	SA4			ナデ	ナデ	透青緑 (10YR 8/4)	2ミリ以下の灰褐色・茶色の砂粒を含む		
57	弥生	壺	SA4	8.8		横・前方の ナデ	横・前方のナデ	灰褐色 (7.5YR 7/2) にふく色 (7.5YR 8/4)	3~5ミリ以上の茶・灰褐色の粒 2ミリ以上の灰・茶色・灰白・黒の砂粒を含む	外側・風化剥離	
58	弥生	壺	SA4	5.1		ナデ (工具あり)	ナデ	透青緑 (10YR 7/2)	4~7ミリ以上の茶・灰褐色の粒 3ミリ以上の灰白・茶・半透明の砂粒を含む	あげ底	
59	弥生	壺	SA4	12.3		横ナデ 横ナデ(工具 あり)	横ナデ 横・前方の衝ナ デ	透青緑 (7.5YR 8/6) 透 (7.5YR 7/0)	2ミリ以下の灰白・褐色・半透明の砂粒、透明の光沢粒を含む		
60	弥生	壺	SA4			あらいナデ ナデ	あらいナデ ナデ	透 (10YR 8/6)	3ミリ以上の灰白・茶・灰色の砂粒を多く含む		
61	弥生	壺	SA4			横・前方の1ナデ	横・前方の工 具ナデ ナデ	透青緑 (10YR 7/2)	3ミリ以下の褐色・灰白・黒の砂粒を含む	口部にスス付着	
62	弥生	壺	SA4	2.2 2.65	5.9	混ナデ 留押さえ ナデ	ナデ	透青緑 (10YR 8/6) (7.5YR 8/6)	2ミリ以下の黒い灰白・灰色の砂粒を多く含む 半透明・黒の光沢粒を含む		
63	弥生	壺	SA5			横・前方の ナデ	横・前方のナデ	透青緑 (5YR 6/1) (5YR 7/2)	4ミリ以上の褐色の粒 3ミリ以下の灰白・茶褐色の砂粒を含む		
64	弥生	壺	SA5			横ナデ ナデの後斜方 向(ハケ目)	ナデの後斜方 向(ハケ目)	透青緑 (7.5YR 8/6) (7.5YR 8/6)	2ミリ以下の赤褐色・茶・灰褐色の砂粒を含む		
65	弥生	壺	SA5			ナデ 横ナデ 指ナデ	横ナデ 指ナデ	透青緑 (7.5YR 8/4) (7.5YR 8/6)	3ミリ以上の灰褐色・茶・茶色・黑色・半透明の砂粒、黑色の光沢粒を含む		
66	弥生	壺?	SA5			横ナデ ナデ	横ナデ ナデ	透 (SYR 7/6) (SYR 7/8)	3ミリ以下の灰白・褐・黑色・半透明の砂粒を含む		
67	弥生	壺	SA5	11.9 5.8	11	横・前のナデ ナデ 留押さえ	ナデ 留押さえ ナデ	透青緑 (7.5YR 8/6) (7.5YR 8/6)	4ミリ以下の灰・黑・褐色の砂粒を含む	あげ底	
68	弥生	壺	SA6	23 4.1	19.3	(工具無し) ナデ	透青緑(7.5YR 8/6) にふく色 (10YR 7/4)	透青緑(7.5YR 8/6) にふく色 (10YR 7/3)	4.5ミリ以下の灰色粒、4ミリ以下の墨褐色 3~7ミリ以上の茶色粒、2ミリ以下の褐色・茶褐色・黑色・光沢粒、2ミリ以下の黄色粒	外側にスス付着	
69	弥生	壺	SA6			あらいナデ 横・前方のナデ ナデ	ナデ	透青緑 (10YR 2/1) (10YR 5/4)	2ミリ以下の暗赤褐色・乳白色・半透明の砂粒を少し含む		
70	弥生	壺	SA6			横・前方の ナデ	横・前方の 工具ナデ ナデ	透青緑 (10YR 8/6) (10YR 7/0)	3ミリ以上の茶褐色・灰白・黑・半透明の砂粒を含む	外側に沈穀	

表12 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(4)

件 號	種別	器種	出土 地點	法 量(cm)	銅 型		色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面		
71 弥生 簋 SA6					ナデ	ナデ 指揮さえ 指すナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	5ミリ以下の褐色、3ミリ以下の灰色、灰白色 灰、2ミリ以下の半透明、半透明灰白色、2ミリ 以下の半透明、灰色透明白光沢を含む	外側にスズ付着 内側一面透明白 灰
72 弥生 高杯 SA6			-		前方角のナデ ミガキ	斜方角のナデ ヘラ磨き	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	3ミリ以上の灰、褐色、半透明の砂粒 灰の光沢感を含む。	内側に黒斑
73 弥生 高杯 SA6					ミガキ	ミガキ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	3ミリ以下の赤褐色、系・黒の砂粒、透 明、黒の微細な光沢感を含む	外側一面透明白 灰化灰味
74 弥生 高杯 SA6					前方角のミガキ	前方角のミガキ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	4ミリ大的褐色斑、3ミリ以下の灰白、 灰、半透明砂粒、灰の光沢感を含む	外側一面黒斑
75 弥生 高杯 SA6					前方角のミガキ 後方角のナデ ミコナデ	前方角のミガキ 後方角のナデ ミコナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	4ミリ大的褐色斑、3ミリ以下の灰白色 灰、灰白・黄褐色・半透明砂粒を含む	透かし
76 弥生 高杯 SA6	21.7				ミガキ 横ナデ	ミガキ	灰 (SYR 6/1)	灰 (SYR 7/6)	3ミリ以下の赤褐色、灰色、黒の砂 粒を含む	内側一面黒化
77 弥生 SA6					ナデ	ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	3ミリ以下の赤褐色を含む	
78 弥生 瓢 SL1	26.4	8.6	33.1		横・斜方角 のナデ	横・斜方角 のナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	65ミリ以上の褐色、55ミリ以下の灰白、5ミリ以下の 灰色、41ミリ以下の灰白、25ミリ以下の半透明灰 色、15ミリ以下の褐色斑を多く含む	外側一面黒斑 風化灰味
79 弥生 瓢 SL1	22.8	5.3	39.75		前方角のナデ 横・斜方角 のナデ	横・斜方角 のナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	45ミリ以下の褐色、灰白色、35ミリ以下の黄 褐色斑、31ミリ以下の半透明灰白色、25ミリ以下の 小褐色斑、22ミリ以下の光沢感を含む	内側一面透明白 灰斑、油斑
80 弥生 瓢 SL1	25.7	5.9	31		横・斜方角 のナデ 工具ナデ ミコナデ	横・斜方角 のナデ 工具ナデ ミコナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	5.5ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の 灰褐色、黑色の褐色斑、及び手造明褐色 斑を多く含む。	外側一面透明白 灰斑、油斑
81 弥生 瓢 SL1	22.65	5.6	27.7		横・斜方角 のナデ 工具 ナデ・横ナデ	横・斜方角 のナデ 工具 ナデ・横ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	3ミリ以下の灰褐色、灰褐色、半透明灰 色斑を黒い透明光沢粒を多く含む	外側にスズ付着 油斑
82 弥生 瓢 SL1	14.8				横ナデ 橢円形のナデ	工具ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	5ミリ以下の灰色・灰白色斑、5ミリ以下の赤 褐色斑、3ミリ以下の半透明光沢粒を含む	
83 弥生 瓢 SL1	17.1				工具ナデ	工具ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	7ミリ以下の乳白色、4ミリ以下の灰、赤 褐色斑、2.5ミリ以下の半透明光沢粒、 黑色光沢感を含む	外側にスズ付着 油斑らしい
84 弥生 瓢 SL1	28.1	6.2	34.75		ナデ	工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	6ミリ以下の褐色・赤褐色、4.5ミリ以下 の灰褐色、4ミリ以下の灰白色、3 ミリ以下の半透明光沢粒を含む	スズ付着 油斑成
85 弥生 瓢 SL1	24.15	5.4	33.35		横・斜方角 のナデ	横・斜方角 のナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 7/6)	3~5ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の灰 色、2ミリ以下の灰白色を多く含む。 3ミリ以下の透明光沢粒を少し含む。	内側一面透明白 灰斑
86 弥生 瓢 SL1	17.2				横・斜方角のナ ド	横・斜方角のナ ド	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	8ミリ以下の褐色斑、4ミリ以下の赤褐色、 2.5ミリ以下の半透明光沢粒を含む	外側一面透明白 灰斑
87 弥生 瓢 SL1	24.7	7.8	33.1		横・斜方角的 工具ナデ	横・斜方角的 工具ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	4.5ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の灰 色斑、3ミリ以下の透明半透明光 沢粒を含む	内側一面透明白 灰斑
88 弥生 瓢 SL1	18.3	5.85	23.8		ナデ 指揮さえ	ナデ 指揮さえ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	6ミリ以下の褐色・褐色斑、4.5ミリ以下の 灰白色斑、3.5ミリ以下の半透明光沢粒を含む	外側にスズ付着 油斑成
89 弥生 瓢 SL1	24.3				横ナデ 工具ナデ	前方角のナデ 工具ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	15ミリ以下の褐色・灰白色、5.5ミリ以下の半 透明灰白色、4.5ミリ以下の半透明光 沢粒を含む	外側にスズ付着 油斑
90 弥生 瓢 SL1	28.1	6.9	34.15		横・斜方角的 工具ナデ・横 ナデ	横・斜方角的 工具ナデ・横 ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	6ミリ以下の褐色斑、4ミリ以下の灰白色 斑、半透明光沢粒、3.5ミリ以下の褐色斑、 3ミリ以下の半透明光沢粒を多く含む	内側一面透明白 灰斑
91 弥生 瓢 SL1	30.4	7.85	47.2		前方角のナ ド	前方角のナ ド	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	2.5ミリ以下の褐色斑、4.5ミリ以下の灰白色 斑、半透明光沢粒、3.5ミリ以下の褐色斑、 3.5ミリ以下の半透明光沢粒を多く含む	刷み目穴巣 内側一面黒斑
92 弥生 瓢 SL1	13	-	16.5		ナデ・ヨコナ デ	横ナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	3.5ミリ以下の褐色斑、4.5ミリ以下の灰白色 斑、2.5ミリ以下の半透明光沢粒、1.5ミリ以下 の褐色斑、出光等の斑痕を含む	内側一面透明白 灰斑
93 弥生 瓢 SL1	11.15	3.8	10.7		横方角のナ ド	横・斜方角 のナデ	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	4.5ミリ以下の褐色斑、3.5ミリ以下の灰白色・ 灰白色、3.5ミリ以下の半透明光沢粒、2.5ミリ以下 の褐色斑、2.5ミリ以下の半透明光沢粒を含む	堆積灰化灰味 一部透明白
94 弥生 瓢 SL1	15.2	3.4	16.1		横・斜方角的 工具	横・斜方角的 工具	灰 (SYR 7/6)	灰 (SYR 6/1)	6ミリ以下の褐色斑、4ミリ以下の灰白色、 3.5ミリ以下の褐色斑・灰白色・黑色半透明光 沢粒を含む	内側一面透明白 灰斑
95 弥生 瓢 SL1	10.8	4.8	24.3		ハケナ 丁取ナデ 横ナデ	ハケナ 丁取ナデ 横ナデ	青 (SYR 8/6)	青 (SYR 8/6)	2.5ミリ以下の褐色斑、3.5ミリ以下の灰白色、半 透明光沢粒を多く含む	表面形状 一部透明白 灰斑

表13 中大五郎第2跡出土弥生土器觀察表(5)

件 番	器種	出土 地點	法 量(cm)	調 査		色 調	地 土	備 考
				外 面	内 面			
96 弥生 壺 SL1				横ナデ 横・斜方向の ハケ目	ナデ・横ナデ	復古型 (7.5YR 4/6 10YR 4/6)	黄 (7.5YR 7/6)	5ミリ以下の赤褐色、灰褐色、4.5ミリ以下の 白色、2ミリ以下の白色、半透明光沢 を含む
97 弥生 壺 SL1					ナデ	復古型 (7.5YR 4/6 10YR 8/4)	復古型 (7.5YR 8/4)	2.5ミリ以下の褐色、2ミリ以下の 白色、赤褐色、黑色光沢を含む
98 弥生 壺 SL1 21.2				ナデ	横ナデ 指揮さき	復古型 (10YR 4/6 10YR 8/4)	復古型 (10YR 4/6 10YR 8/4)	4ミリ以下の灰、黑、半透明 の砂粒、1ミリ以下の砂粒を多く含む。 2ミリ以下の黑色透光光沢を含む
99 弥生 壺 SL1 4.0				直角向のナデ 斜方のナデ 指揮さき	直角向のナデ 斜方のナデ 指揮さき	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	8ミリ以下の白色、4.5ミリ以下の褐色、 3.5ミリ以下の灰褐色、3.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む 鉛錠、1.5ミリ以下の白色を含む
100 弥生 壺 SL1 ?				タテ・横ナデ	ナデ	復古型 (7.5YR 4/6 10YR 4/6)	復古型 (7.5YR 5/6)	5ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の褐色 3ミリ以下の灰褐色、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む
101 弥生 壺 SL1 3.1				ナデ	ナデ 指揮さき	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	3ミリ以下の灰白、墨、灰、褐色の砂粒 2.5ミリ以下の黑色透光光沢を含む
102 弥生 壺 SL1 10.8				斜方のナデ 斜方のナデ 指揮さき	斜方のナデ 斜方のナデ 指揮さき	復古型 (10YR 5/6 10YR 5/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	6.5ミリ以下の褐色、3.5ミリ以下の 褐色、2.5ミリ以下の半透明光沢 砂粒、2ミリ以下の灰褐色を含む
103 弥生 壺 SL1 8.5				直角向のナデ 斜方のナデ 指揮さき、指揮 と指揮	直角向のナデ 斜方のナデ 指揮さき、指 揮と指 揮	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	5.5ミリ以下の赤褐色、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む 鉛錠、1.5ミリ以下の白色を含む
104 弥生 高坏 SL1 32.4 19.8 24.2				横・斜方の ナデ 指揮さき	横・斜方的 のナデ 指揮さき	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	6.5ミリ以下の白色、3.5ミリ以下の 白色、3.5ミリ以下の褐色 半透明光沢を多く含む
105 弥生 高坏 SL1 19.2				横方向の ナギ	ナデ	復古型 (7.5YR 8/6)	復古型 (10YR 8/6)	6.5ミリ以下の白色、3.5ミリ以下の 白色、2.5ミリ以下の黑色透光光沢 を多く含む
106 弥生 高坏 SL1 16				ナデの上を ナギ	斜ナデ	復古型 (5YR 7/6) 灰黄褐色 (10YR 4/6)	復古型 (5YR 7/6) 灰黄褐色 (10YR 4/6)	5ミリ以下の赤褐色、3.5ミリ以下の褐色 2.5ミリ以下の白色、半透明光沢を含む
107 弥生 斜方削 SL1 18.8 11.2 15.95				横ナデ・ナデ	ナデ	復古型 (10YR 7/6) 灰黄褐色 (10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	5.5ミリ以下の赤褐色、灰色、褐色 4ミリ以下の黑色透光光沢、2.5ミリ以下の 半透明光沢を多く含む
108 弥生 斜方削 SL1 17.8				板方の工具 ナデ ナデ	板方の工具 ナデ ナデ	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	5.5ミリ以下の赤褐色、2.5ミリ以下の 褐色、黑色透光光沢、半透明光沢、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む
109 弥生 SL1 15.3 5.1 12.8				ナデ・横ナデ 指揮さき (工具あり)	横ナデ 指揮さき (工具あり)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	4.2ミリ以下の白色、2.5ミリ以下の白色、2 ミリ以下の白色、2.5ミリ以下の白色、2.5ミリ以下の 半透明光沢、2.5ミリ以下の黑色透光光沢 1.5ミリ以下の白色、半透明光沢、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む
110 弥生 SL1 14.1 4.95 15.7				ナデ・指揮さ き 横・斜方的 のナデ 指揮さき	横・斜方的 のナデ 指 揮	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	6.5リットルの赤褐色、3.5リットルの白色 3.5リットルの白色、半透明光沢、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢、2.5ミリ以下の白色を含む
111 弥生 壺 SL2 21				横・斜方的 のナデ 指揮さき と指 揮	横・斜方的 のナデ 指 揮	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	4-5ミリ以下の褐色、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む
112 弥生 壺 SL2 23.3				ナデ?	横ナデ?	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	3ミリ以下の茶、墨、灰褐色、灰色 を多く含む。1ミリ以下の透明 の光沢を含む
113 弥生 壺 SL2 24.8				ハケ口 ナデ	横・斜方的 のナデ 指 揮	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	4ミリ以下の褐色、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢、2ミリ以下の半透明光沢 を含む
114 弥生 壺 SL2 18.5				ナデ	ハケ口	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	3.5ミリ以下の褐色、2.5ミリ以下の 黑色透光光沢を含む
115 弥生 壺 SL2 20.8				横・斜方的 のナデ 指 揮	横・斜方的 のナデ 指 揮	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	4-5ミリ大の新、灰褐色の砂、3ミリ以下の 灰、黑、褐色の砂を含む
116 弥生 壺 SL2 16 5.2 19.1				ヘルムに よる 变形 のナデ 指 揮	横・斜方的 のナデ 指 揮	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	復古型 (10YR 7/6 10YR 7/6)	3.5ミリ以下の褐色、4ミリ以下の白色、灰褐色 白色透光光沢、半透明光沢の砂を含む
117 弥生 壺 SL2					ナデ	復古型 (7.5YR 8/6 10YR 8/6)	復古型 (7.5YR 8/6 10YR 8/6)	5.5ミリ以下の白色、4.5ミリ以下の白色、灰褐色 白色透光光沢、半透明光沢の砂を含む
118 弥生 壺 SL2				ナデ	ナデ	復古型 (7.5YR 8/6 10YR 8/6)	復古型 (7.5YR 7/6 10YR 7/6)	4.5ミリ以下の白色、3.5ミリ以下の白色、 3.5ミリ以下の黑色透光光沢を含む
119 弥生 壺 SL2				ナデ	ナデ	復古型 (10YR 8/6 10YR 8/6)	復古型 (10YR 8/6 10YR 8/6)	4.2ミリ以下の白色、3.5ミリ以下の白色、 3.5ミリ以下の黑色透光光沢を含む
120 弥生 壺 SL2				ナデ	ナデ	復古型 (10YR 8/6 10YR 8/6)	復古型 (10YR 8/6 10YR 8/6)	4.5ミリ以下の白色、3.5ミリ以下の白色、 3.5ミリ以下の黑色透光光沢を含む



表15 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(7)

種類	器種	出土 場所	法 量 (m)	頭 部		色 調		胎 上	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面		
146 弥生	甕	SI.2	32.8	横・斜方向の ナデ	横ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	褐色 (10YR 8/4)	3ミリ以下の褐色・灰・灰褐色・半透明 の砂粒を含む	内面は風化跡
147 弥生	甕	SI.3		ナデ	ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	褐色 (10YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐色・赤褐色・褐色 の砂粒、2ミリ以下の半透明・透 明の光沢粒を含む	内面剥離跡
148 弥生	甕	SL3		ナデ	横・斜方向の ナデ	褐色 (10YR 8/4)	褐色 (10YR 8/4)	5ミリ以下の赤褐色・灰褐色・灰色の砂 粒、1~2ミリの半透明の光沢粒を 少し含む。	
149 弥生	甕	SL3		横・斜方向の 工具ナデ	工具ナデ	黄褐色 (10YR 8/6)	淡褐色 (10YR 8/4)	3ミリ以下の墨・灰・褐色・灰白の砂粒を 多く含む	
150 弥生	甕	SL3		横・斜方向の ナデ	ナデ (工具痕あり)	赤褐色 (10YR 8/6)	淡褐色 (10YR 8/4)	4~7ミリ以下の褐色・灰褐色の砂粒 3ミリ以下の灰・灰褐色・灰白色的砂粒 2~3ミリ以下の透・透明の光沢粒を含む	
151 弥生	甕	SI.3	3.4	前・左方向のハケナ 指揮され た跡ナデ	ハケ目	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	2~3ミリ以下の赤褐色・灰・灰褐色の砂粒 2~3ミリ以下の墨・透・透明の光沢粒を含む	外側にスス付着
152 弥生	甕	SC2		横ナデ	横ナデ	灰 (5YH 7/6)	灰 (5YH 8/6)	2~3ミリ以下の灰・褐色・墨・半透明の砂 粒を含む。	外側にスス付着
153 弥生	甕	SC2	13.9	14.95	15.15	横・左方向の ナデ (工具痕あり)	横 (工具痕あり)	4~5ミリ以下の墨・赤褐色・灰 3ミリ以下の灰・褐色砂粒を含む	外側全周にスス付着 あり
154 弥生	甕		13.1	横・斜方向の 横・斜方向の ナデ(工具 痕あり)	ナデ(工具 痕あり)	褐色 (10YR 8/4)	褐色 (10YR 8/4)	5ミリ以下の褐色・赤褐色 4~5ミリの白色・乳白色 2~3ミリ以下の白色・半透明光沢粒を含む	
155 弥生	甕		17.7	横・斜方向の 横・斜方向的 ナデ	ナデ	褐色 (5YR 7/8)	褐色 (5YR 7/8)	4~5ミリの褐色の粒 3ミリ以下の灰・褐色・3~4ミリの半透明の砂粒 2~3ミリ以下の透・透明の光沢粒を含む。	
156 弥生	甕			横ナデ	横ナデ	灰 (10YR 8/4)	灰 (10YR 8/4)	6.5ミリ以下の褐色粒、3.5ミリ以下の半透 明光沢粒、3~4ミリ以下の白色砂粒を含む	
157 弥生	甕			ナデ	ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	4~5ミリ以下の墨・褐色・半透明光沢粒 3.5ミリ以下の白色砂粒 2~3ミリ以下の半透明・黑色等光沢粒を含む	
158 弥生	甕			ナデ	ナデ (工具痕あり)	灰 (5YR 7/8)	灰 (5YR 7/8)	3~4ミリ大的の褐色の粒 3ミリ以下の白色・灰褐色・半透明 の光沢粒を含む。	外側にスス付着
159 弥生	甕			ナデ	ナデ (工具 痕)	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	3ミリ以下の褐色光沢粒、2ミリ以下の 黑色・半透明・透・透明・褐色等光沢粒を 含む。	
160 弥生	甕			ナデ(横・斜 方向のナデ) 内側のハケ目	ナデ (工具痕)	皮膚紋 (10YR 7/3)	皮膚紋 (10YR 7/3)	4~5ミリ以下の赤褐色・2.5ミリ以下の 灰褐色・1.5ミリ以下の白色光沢粒を 含む。	
161 弥生	甕			ナデ (横・斜 方向のナデ) 内側のハケ目	ミガキ	灰 (5YR 4/2)	灰 (5YR 4/2)	2ミリ以下の墨・褐色 1ミリ以下の光沢粒を含む	
162 弥生	甕			ナデ	ナデ 横ナデ	灰 (5YR 7/8)	灰 (5YR 7/8)	2.5ミリ以下の墨・褐色・半透明光 沢粒、2ミリ以下の透・透明光沢粒、1.5ミリ 以下の黑色光沢粒を含む	
163 弥生	甕			ナデ	ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	1.5~2ミリ以下の褐色・黑色・半透明 光沢粒及び、微細な淡黄色粒を含む	
164 弥生	甕			ナデ	ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	1.5~2ミリ以下の褐色・黑色・半透明 光沢粒	
165 弥生	甕		6.5	ナデ	ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	2.5ミリ以下の褐色 2~3ミリ以下の半透明・黑色等光沢粒 を含む。	外側にスス付着 あり
166 弥生	甕		4.6	ナデ	ナデ	皮膚紋 (10YR 8/4)	皮膚紋 (10YR 8/4)	3~4ミリ以下の褐色・乳白色・半透明・黑 褐色の砂粒を多く含む。	外側全周に風化斑 外側にスス付着
167 弥生	甕			ナデ	ナデ (工具痕あり)	灰 (5YR 8/5)	灰 (5YR 8/4)	4~5ミリ以下の赤褐色 2.5~3ミリ以下の半透明光沢粒・白色 砂粒を含む	剥み目発達 外側にスス付着
168 弥生	甕		6.5	横・斜方向の ナデ ナデ・指揮され た跡	横ナデ (工具痕)	灰 (5YR 7/8)	灰 (5YR 7/8)	4~5ミリ大的の褐色の粒 4~5ミリ以下の灰・褐色・灰白の砂粒 2~3ミリ以下の透・透明の光沢粒を含む	高絆部に點状の 内面剥離跡有
169 弥生	甕		6.4	新方向の工具 斜方向のナデ	指揮された 方向のナデ	灰 (5YR 8/4)	灰 (5YR 8/4)	3~4ミリ以下の灰・墨・褐色・半透明 の砂粒を含む	
170 弥生	甕		4.8	横ナデ ナデ	ナデ	灰 (5YR 7/6)	灰 (5YR 8/4)	4~5ミリ大的の褐色・灰褐色の粒 3~4ミリ以下の灰褐色・灰白色・乳白色 の砂粒・透・透明の光沢粒を含む	あり感

表16 中大五郎第2遺跡出土弥生土器觀察表(8)

番号	器種	出土地点	法並(m)	調査		色	土	備考
				口径	底径	外 面	内 面	
171	弥生	壺	5.9	ナデ	ナデ	CA-29H 14 GAR 14 GYR 14	浅黄 (GYR 8/4)	3.1以下の灰褐色・灰・赤褐色・ 黒・半透明の砂粒、黒・透明の光沢 粒を含む
172	弥生	壺	7.4	ナデ (瓶方向の工 具痕あり)	ナデ	CA-29H 14 GAR 14 GYR 14	浅黄 (GYR 8/4)	3.1以下の赤褐色・灰・半透明・ 灰褐色の砂粒
173	弥生	壺	3.0	ナデ	ナデ	浅黄 (GYR 8/4)	白 (GYR 7/6)	3.1以下の灰褐色・灰・褐色・ 黑色等の砂粒を多く含む 2.1以下の中透明・透明・黒の光沢粒を含む
174	弥生	壺		ナデ (工具痕)	ナデ 指揮さえ	浅黄 (GYR 8/4)	浅黄 (GYR 8/4)	4~5ミリ大的灰褐色の粒 3.1以下の中灰・黒・灰白・褐色的 砂粒を多く含む
175	弥生	壺			ナデ	ナデ	白 (GYR 7/6)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
176	弥生	壺			ナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	浅黄 (GYR 8/4)	4~5ミリ大的灰褐色の粒 3.1以下の中灰・黒・灰白・褐色的 砂粒を多く含む
177	弥生	壺				皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 7/6)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
178	弥生	壺	10.3	横ナデ (瓶方向の工 具痕ナデ)	横ナデ 指揮さえ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 7/6)	4.1以下の中灰褐色 3.1以下の中灰色・半透明光沢粒を含む 2.1以下の中透明光沢・乳白色を含む
179	弥生	壺	8.6	横ナデ	横ナデ 指揮さえ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 8/4)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
180	弥生	壺	11.5	横・縦のナデ	横・縦のナデ 指揮さえ	皮膚層 (GYR 7/6)	白 (GYR 7/4)	3~4ミリ大的灰褐色の粒を少し含む 黒褐色の砂粒・光沢粒を多く含む
181	弥生	壺	22.2	横・縦・斜方 のミキナデ	横・縦・斜方 のミキナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 8/4)	5.1以下の中灰褐色 3.1以下の中灰色・半透明光沢粒を含む 2.1以下の中透明光沢・乳白色を含む
182	弥生	壺			ナデ	横ナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
183	弥生	壺			横ナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 8/4)	0.5~4ミリ大的赤褐色を少し・ 2.1以下の中・黒・灰褐色の砂粒を含む
184	弥生	壺			横ナデ	横ナデ	白 (GYR 7/6)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
185	弥生	壺	10.5	横・縦・斜方 のミキナデ	横・縦・斜方 のミキナデ 工具痕ナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 8/4)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
186	弥生	壺	9.4	横・縦・斜方 のナデ	横・縦・斜方 のナデ 工具痕ナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 8/4)	4~5ミリ大的灰褐色・暗褐色の粒 3.1以下の中・黒・灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢・砂粒を含む
187	弥生	壺			ナデ	指揮さえ	白 (GYR 8/4)	3.1以下の中透明光沢粒を含む
188	弥生	高环	3.1	ナデ 指揮さえ	ナデ 指揮さえ	皮膚層 (GYR 8/4)	白 (GYR 8/4)	3.1以下の中灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
189	弥生	高环	34.9		ミガキ	皮膚層 (GYR 8/8)	皮膚層 (GYR 8/8)	5.1以下の中灰褐色 4.1以下の中灰・黒の砂粒 2.1以下の中透明・半透明・ 半光沢粒を含む
190	弥生	高环	35.8	横ナデ 蓋方向のミキナ デ	横ナデ 蓋方向のミキナ デ	皮膚層 (GYR 8/8)	皮膚層 (GYR 8/8)	5.1以下の中灰褐色の粒 3.1以下の中・黒・灰褐色・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
191	弥生	高环	29.7	横ナデ 蓋・瓶方向 のミキナデ	横ナデ 蓋・瓶方向 のミキナデ	皮膚層 (GYR 8/4)	皮膚層 (GYR 8/4)	3.1以下の中・黒・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
192	弥生	高环			ミガキ	ナデ・横ナデ ミキナデ	白 (GYR 6/6)	3.1以下の中・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
193	弥生	高环			ナデ・横ナデ 指揮さえ	ナデ・横ナデ 指揮さえ	白 (GYR 6/6)	4.5ミリ以下の褐色粒 3.1以下の中・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
194	弥生	高环			横ナデ	横ナデ 指揮さえ	白 (GYR 6/6)	3.1以下の中・ 2.1以下の中透明光沢粒を含む
195	弥生	鉢	25.8 3.1 7.2	ナデ	ナデ	皮膚層 (GYR 8/8)	皮膚層 (GYR 8/8)	内側に基化塊 内側裏に基化塊



第18表 中大五郎第2遺跡 振立柱遺物一覽表

遺構番号	規模(間)	方 向	桁 行			梁 間			窓 長			柱 間			床面積			柱 数	穴 積	状 態	備考
			奥 長	柱 間	柱 高	335	316	316	N6° E	N84° E	219.6cm	10	10	20~34	8	22~34	11~24				
SB 1	1×3	E~W	594	198	335	N90° E	208.8cm	8	22~34	11~24											
SB 2	1×4	S~N	581	145	316	N6° E	184.8cm	10	30~49	10~24											
SB 3	2×3	E~W	620	207	357	179	218	N28.5° E	233.186cm	8	22~31	9~22									
SB 4	1×3	NW~SE	628	209	385	193	163	N82° E	199.43cm	8	17~29	5~14									
SB 5	2×2	E~W	523	262	325	163	128	N74° E	181.256cm	9	19~29	7~14									
SB 6	2×3	E~W	566	189	325	110	256	N7° W	123.84cm	12	12~29	9~18									
SB 7	2×4	S~N	439	208	418	209	312	N87.5° W	290.368cm	13	29~40	13~45	一面瓦								
SB 8	2×3	E~W	692	172	349	N87° E	200.31cm	10	26~38	7~13											
SB 9	1×4	E~W	689	184	349	N14° E	190.784cm	10	15~32	6~14											
SB 10	2×3	NW~SE	552	184	349	175	16.0	24.2	2	30~32.5	38.5										

第19表 中大五郎第2遺跡 聚穴住居跡一覽表

遺構番号	平面形	極方位	規 模 (cm)			床面積 (m <sup>2</sup> )	柱穴数	柱穴状態 (cm)			平均深	平均深	備 考
			長 軸	短 軸	深 度			平均深	平均深	平均深			
SA 1	長 方 形	N88° E	680	450	28.0	24.2	2	30~32.5	38.5				
SA 2	長 方 形	N81° E	600	450	12.5	21.5	2	31.5~33	54.5				
SA 3	円形花弁状	N7.5° W	930	900	16.0	58.3	5	30~32.6	40.4				
SA 4	不 整 形	N6.5° W	485	387	22.0	15.5	2	25.5~28	42.5				
SA 5	方形花弁状	N0° E	545	380	13.0	17.0	1	37~39	31.0				
SA 6	方 形	N84.5° E	550	400	19.0	19.9	2	33~40.5	40.5				

胎土は2mm以下の灰色・茶色の砂粒を含んでいる。19も二重口縁の備描波状紋をもつタイプで、口径は18.3cmである。調整は、外面に横ナデと縱方向のハケ目を施してある。内面は横ナデや一部斜め方向のナデ調整が施されている。胎土は、3mm以下の灰褐・黒・灰白・茶色半透明の砂粒を多く含む。また、2mm以下の黒色・透明の光沢粒を含んでいる。20は、小型の壺で底部は、丸底である。胴部が丸く張り、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反するものである。口径が5.8cmで器高が12.4cmである。外面の調整はナデや凝・斜め方向のハケ目がみられ内面は、ナデや指押さえがみられる。21は、壺で胴部が丸く張りをもつタイプで外面の調整は、横・斜め方向のハケ目・縦方向のナデの後ミガキが施され、内面は縦方向の指ナデ縦・横・斜め方向のハケ目を有する。色調は、外面が橙で内面が鈍い橙になっている。胎土は、3mm以下の赤褐・茶・淡橙の砂粒を多く含んでいる。22は、壺の底部で平底のタイプである。底径は、7.4cmである。外面の調整は、縦・斜め方向のハケ目やナデを施されている。色調は外面が浅黄橙で内面が褐灰である。胎土は、3mm以下の灰白・褐・黒色・半透明の砂粒を多く含んでいる。

#### 高坏 (23~29)・器台 (30)・台付鉢 (31)・高台付碗 (32)・ミニチュア (33・34) 壺 (35)

23は、高坏の口縁部で口径は、22.5cmである。内外面の調整は横ナデやミガキ・横ナデや工具ナデの後ミガキが施されている。内外面の色調は橙である。胎土は2mm以下の茶・灰・灰白の砂粒、1mm以下の黒色・透明の光沢粒がみられる。24は、高坏の完形品で口縁部が大きく外反するもので底部はラッパ状を呈している。内外面の調整は横・斜め方向のナデやミガキ等が施してある。色調は、外面が橙と浅黄橙で内面が橙とにぶい黄橙である。胎土は、4mm大の褐色粒・3mm以下の褐・灰・黒色・半透明の砂粒・黒・透明の光沢粒を含む。25は、高坏の脚部で調整は、外面が横・縦方向のミガキで内面が縦方向のナデとミガキである。色調は外面が浅黄橙で内面が褐灰である。胎土は3mm以下の茶・黒・灰褐色の砂粒・黒色・透明の光沢粒を少し含んでいる。26は、高坏で脚部に三方透かしをもつもので口縁部が外反するが24よりも短めである。27は、高坏で調整は外面が縦方向のミガキで内面が指押さえとナデ調整が施されている。色調は、外面が橙で内面がにぶい黄橙である。3mm以下の黒・灰・茶色の砂粒で透明・黒色の光沢粒を含む。28は、高坏の脚部で調整は内外面は、ナデやミガキなどである。色調は外面が橙と浅黄橙で内面が橙である。3mm以下の褐・灰・黒色・半透明の砂粒である。透明・黒色の光沢粒を含む。微細な砂粒が多い。29は、高坏で脚部がラッパ状を呈したものである。調整は、ミガキや横方向のミガキをもつものである。色調は内外面ともに橙を呈する。胎土は2mm以下の赤褐・灰・黒色・半透明の砂粒を含む。30は、器台の底部でラッパ状を呈している。調整は、外面がハケ目の後、縦方向のミガキで縦方向のハケ目をほどこしているものである。色調は外面が橙で内面が浅黄橙や橙を呈しているものである。7mm以下の赤褐色粒、4mm以下の灰色粒、3mm以下の灰白・黑色粒・2.5mm以下の半透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。31は、台付鉢で口唇部が外反している。調整は、外面がナデや縦方向のナデで内面が横・斜め方向のナデ調整である。色調は、外面が黄橙と鈍い黄橙である。胎土は、2mm以下の赤褐色・褐色・灰色の粒・1mm以下の半透明光沢粒または、乳白色の粒を含む。32は、高台付碗で外面の調整は縦・斜め方向のミガキで内面は縦・横方向のミガキがある。色調は内外面と

もに橙である。胎土は1mm以下の褐色・赤褐色・半透明の光沢粒である。0.5mm以下の黒色光沢粒や乳白色粒を含んでいる。33は、ミニチュアの鉢で丸底で口径が8.8cmで器高が5.5cmである。調整は、外面がナデで内面はナデと指押さえである。色調は外面が黄橙と橙で内面が橙である。34もミニチュアの鉢である。口径が3.3cmである。外面の調整は、外面はナデ調整で内面はナデと指押さえである。内外面の色調は浅黄橙である。胎土の状況は、2mm以下の灰白色粒で1mm以下の黒色粒・赤褐色粒・半透明の黒色等光沢粒を含んでいる。35は、3つ口の壺で外面の調整は横ナデと指押さえである。内面は横ナデと指押さえと縦方向の工具跡がみられる。

#### S A 2 出土の遺物

##### 壺 (36~39)

36は、壺の完形で胴部の張りが少なく口縁部がくの字に外反するもので口径が22.3cmで外面の調整は、横・縦方向のナデ調整が施されている。色調は内外面ともに橙である。37は、壺の口縁部から胴部で口縁部がくの字口縁が外反するもので胴部の張りが少ない。調整は、外面が斜め・縦方向のミガキや横方向のミガキがみられる。色調は内外面ともに橙である。胎土の状況は、4.5mm以下の赤褐色粒・4mm以下の黒色・灰色の粒で3mm以下の半透明・透明光沢粒・乳白色粒を多く含んでいる。38は、壺の口縁部から胴部で口径は13.2cmで調整は外面が斜め・縦方向のミガキで内面が横方向のミガキとハケ目の後、横・斜め方向のミガキが施されている。39は、壺で口径が25.4cmで底径が7.5cmで器高は、29.2cmで口縁部が区の字に外反するものである。調整は、外面に指押さえや横・縦方向のナデを持ち、内面に横・斜め方向のナデと工具による上方向のナデや指押さえが施してある。色調は外面が浅黄橙と黄橙で内面が浅黄橙と橙である。胎土の状況は、6mm以下の灰白色粒と4mm以下の乳白色粒で5mm以下の褐色・赤褐色の粒や2mm以下の黒色の光沢粒を多量に含んでいる。

##### 壺 (40~42)・高坏 (43)・鉢 (44)

40は、壺の完形品で頸部があまり絞まらず緩やか気味に立ち上がるものである。口径が8.45cmで底径は、18.95cmで器高は10.05cmである。外面の調整は横ナデとハケ目で指ナデが施してあり、底部に工具痕もみられる。内面は指ナデが施してある。色調は内外面ともに橙である。41も壺の完形品で頸部が40よりも絞まり気味で口縁部が外反するタイプのもので胴部が丸く張っている。口径が8.4cmで底径が4.4cmで器高が18.5cmである。調整は、横ナデや斜め方向のナデを外面に横ナデを内面に施してある。色調は浅黄橙が外面で黄橙が内面である。胎土は、4mm以下の赤褐色の粒や2.5mm以下の褐色粒・半透明の光沢粒や灰色・黒・茶色の砂粒を含む。42は、壺の口縁部で二重口縁の櫛描波状紋である。調整は、外面がナデ調整と工具痕が施され、内面は、横方向の指ナデと指押さえが施されている。色調は、外面が浅黄橙と内面が黄橙である。4mm以下の茶・灰・褐色・半透明の砂粒を含んでいる。

43は、高坏の脚部でラッパ状を呈している。底径は20.75mmで調整は、縦方向のミガキを外部にナデや指ナデを内面に施している。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土は2.5mm以下の赤褐色粒で2mm以下の灰白色粒や1mm以下の乳白色粒や半透明・黒色等の光沢粒も含まれている。

44は、鉢で口径が23.3cmで底径が8.4cm・器高が17.8cmで調整は、外面に工具による横・斜め方向のナデや内面は工具による横・斜め方向のナデや斜め方向のハケ目がみられる。色調は浅黄橙や橙が外面に施され、内面に橙が施されている。3mm以下の赤褐色・茶色・灰色の砂粒を含んでいる。

#### S A 3 出土の遺物 壺 (45~46)・壺 (47~49)・鉢 (50)・ミニチュア (51~52)・紡錘車 (53)

45は、壺の口縁部で口径が21.6cmで調整は、外面に横ナデやハケ目工具ナデを施してあり、内面は横ナデ調整である。色調は、外面が橙で内面は浅黄橙と橙である。胎土は、3mm以下の茶色・灰色・半透明・黒の砂粒を含んでいる。46は、壺の口縁部で調整は、内外面ともに斜め方向のナデである。色調は、外面が浅黄橙で内面が黄橙である。2mm以下の灰黒・褐色の砂粒を含んでいる。47は、壺の完形で口径が8.5cmで底径が2.1cmである。器高は14.1cmである。胴部が丸く張りやや直線的に立ち上がるものである。調整は、外面が横ナデや工具ナデで内面が横ナデや指押さえ等である。色調は外面が鈍い橙で内面が明褐灰で淡橙である。胎土は、3mm以下の灰白・茶色・乳白色・半透明の砂粒を含んでいる。48は、壺の胴部で丸い張りをもつものである。調整は、斜め方向の工具ナデや内面は、斜め方向のナデや横方向の工具ナデが施しており、色調は外面が浅黄橙や褐灰で内面は灰白である。胎土の状況は3mm以下の灰白・黒・茶の砂粒や2mm以下の透明の砂粒を含む。49は、壺の胴部から底部で平底である。調整は外面が工具ナデや指ナデ・ナデが施されていて内面は、横・縦方向の工具ナデが施されている。色調は外面が橙と鈍い橙で内面が浅黄橙である。胎土は、3mm以下の茶・灰・灰白の砂粒・透明の光沢粒を含んでいる。50は、鉢の完形で平底のタイプである。口径が18.7cmで底径が5.5cm・器高が8.8cmである。調整は、外面が横ナデやナデ・指押さえが施されている。内面にナデや放射状にハケ目がみられる。色調は外面が橙・褐灰・黒褐で内面が褐灰・浅黄橙・鈍い橙である。胎土は、4mm以下の暗灰・灰白・茶色の砂粒を含んでいる。51は、ミニチュアの鉢で口径が6.6cmで底径が2.2cmである。また、器高が4.7cmである。内外面の調整は外面がミガキで内面がナデである。52もミニチュアで口径5.55cm・2.05cm・3.3cmである。調整は内外面が指ナデやナデ調整が施してある。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土は3mm以下の灰・茶・半透明の砂粒が含まれている。53は、紡錘車で外面の調整はナデで色調は外面が灰褐である。3mm以下の茶褐色・乳白色的砂粒を含んでいる。

#### S A 4 出土の遺物

##### 壺 (54~58)・壺 (59)・高台付碗 (60)・高坏 (61)・ミニチュア (62)

54は、壺の口縁部で緩やかに外反するタイプである。調整は外面にナデや横ナデを内面に指ナデや斜め方向に工具痕等がみられる。色調は外面が淡黄で内面が灰白である。胎土の状況は、4mm大的茶色の粒・3mm以下の灰・赤・褐色・茶色の砂粒を含んでいる。55も壺の口縁部で内外面の調整は、横ナデとナデ調整で色調は外面が浅黄橙で内面はそれに灰白が含まれている。胎土の状況は3mm以下の灰褐色・茶色の砂粒・透明の光沢粒を含んでいる。56も壺の口縁部で調整は内外面ともにナデ調整で色調も内外面ともに浅黄橙である。胎土は2mm以下の灰褐・茶

の砂粒を含んでいる。57は、壺の胴部から底部で平底のタイプである。底径が8.8cmで外面の調整は横・縦方向のナデ調整が施されている。外面の色調は明褐灰と内面の色調は灰白である。3~5mm大の茶・灰褐色の粒・2mm以下の灰・茶色・灰白・黒の砂粒を含んでいる。58は、壺の底部で上げ底である。底径は、5.1cmで調整は内外面ともにナデ調整が施されている。色調は外面はにぶい黄橙で内面が浅黄橙である。4~7mm大の茶・灰褐色の粒・3mm以下の灰白・茶・半透明の砂粒を含んでいる。59は、壺の口縁部でくの字に大きく外反するもので、口径が12.3cmである。外面の調整は、横ナデと工具痕をもつ縦ナデである。内面はナデと縦方向の指ナデが施してある。色調は外面が浅黄橙と内面が橙である。胎土の状況は2mm以下の灰白・褐灰・茶・半透明の砂粒や黒・透明の光沢粒を含んでいる。60は、高台付碗の底部から脚部で、調整は、内外面ともに荒いナデを施している。色調は外面が橙で内面が黄橙である。3mm以下の灰白・茶・灰色の砂粒をおおく含んでいる。61は、高坏の口縁部で調整は、横方向の工具ナデや横ナデを外面に横方向の工具ナデを内面に施してある。62は、ミニチュアの壺で上げ底である。口径が2.2cm・底径が2.65cm・器高が5.9cmで外面の調整は荒いナデや指押さえやナデ調整を施している。内面はナデ調整である。色調は外面が黄橙で内面が浅黄橙である。胎土は2mm以下の黒い灰白・灰色の砂粒を多く含んでいる。

#### S A 5 出土の遺物

壺 (63~65)・壺 (66)・鉢 (67)

63は、壺の口縁部で口唇部にかけて緩やかに外反するタイプである。外面の調整はナデ調整で内面に横・斜め方向のナデ調整が施されている。色調は、外面が黄灰で内面が灰黄である。4mm大の褐色の粒が3mm以下の灰白・灰褐色の砂粒を含んでいる。64は、壺の口縁部で口唇部がゆるく外反しているタイプのもので調整は外面が横ナデやナデの後斜め方向のハケ目が施されている。色調は、黄橙が外面で内面は浅黄橙である。65は、壺の口縁部で調整は、外面がナデや横ナデ調整が施されている。内面は横ナデや指ナデ調整がある。色調は、内外面ともに橙である。3mm以下の灰褐・灰・茶・黒色・半透明の砂粒・黒色の光沢粒を含まれている。66は、壺の口縁部で口唇部が外反するものである。内外面の調整は、横ナデやナデ調整を施している。色調は内外面ともに橙である。胎土の状況は3mm以下の灰白・褐・黒色・半透明の砂粒を含んでいる。67は、鉢で上げ底である。口径は、11.9cm・5.8cm・11cmである。調整は外面が横・斜めのナデと指押さえで内面がナデと指ナデと指押さえである。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土の状況は4mm以下の灰・黒・褐色の砂粒を含んでいる。

#### S A 6 出土の遺物 壺 (68~70)・壺 (71)・高坏 (72~76)・ミニチュア (77)

68は壺で胴部が張り、くの字に外反するものである。底部は平底である。口径が23cmで底径が41cmで器高が19.3cmである。調整は、内外面にナデや横方向の工具ナデが施されている。色調は内外面ともに浅黄橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は、4.5mm以下の灰色粒・4mm以下の黒褐色粒・3mm以下の黑色粒・2.5mm以下の褐色粒・赤褐色・黒色光沢粒・2mm以下の黄色粒が含まれている。69は、壺の胴部で調整は外面に荒いナデや斜め方向のナデや内面はナデ調整で

ある。色調は内外面ともに赤褐色である。2mm以下の暗赤褐色・乳白色・半透明の砂粒が含まれる。70は、壺の胴部で内外面の調整は縦・斜め方向のナデや工具ナデである。色調は外面が黄橙とにぶい黄橙で内面が浅黄橙である。胎土の状況は3mm以下の褐色・灰色・黒・半透明の砂粒を含んでいる。また、外面に沈線が施されている。71は、壺の胴部から底部で平底である。調整は、外面にナデ調整が施され内面にはナデや指押さえ・指ナデがみられる。色調は外面が橙で内面が黄灰である。胎土の調整は、5mm以下の褐色粒・3.5mm以下の黒色・灰白色粒・2.5mm以下の半透明・黒色・光沢粒・2mm以下の赤褐色・乳白色・透明光沢粒を含んでいる。72は、高坏の坏の部分で調整は、外面に斜め方向のナデやミガキが施され、内面は斜め方向のナデやヘラ磨きが施されている。色調は、外面が橙で、内面が浅黄橙が褐灰である。3mm以下の灰・褐色・半透明の砂粒・黒の光沢粒を含んでいる。73は、高坏の口縁部で内外面の調整は、ミガキが施されている。色調は外面は橙と黒褐で内面は橙である。胎土の状況は、3mm以下の赤褐色・茶・黒の砂粒・透明・黒・の微細な光沢粒を含んでいる。74は、高坏の胴部で調整は、外面に横方向のミガキが施され、内面に横方向の丁寧なミガキが施されている。色調は浅黄橙と褐灰が外面で内面が黒褐である。胎土の状況は、4mm大的黒色粒・3mm以下の灰白・黒・半透明砂粒・黒の光沢粒を含んでいる。75は、高坏の脚部で透かしをもっている。外面の調整は縦方向のミガキや縦方向のナデが施されていて内面の調整は横斜め方向のハケ目や横ナデが施されている。色調は外面が鈍い黄橙で内面が浅黄橙で4mm大的黒色粒・3mm以下の黒褐色・灰白・黄橙・半透明砂粒を含んでいる。76も高坏の脚部で底径が21.7cmで内外面の調整は、ミガキや横ナデが施してある。内外面の色調は橙や黄橙である。胎土の状況は、3mm以下の赤褐色・灰色・黒の砂粒を含んでいる。77は、ミニチュアの高坏の脚部で内外面の調整はナデ調整である。色調は内外面ともにぶい黄橙である。胎土は1mm以下の赤褐色粒を含んでいる。

### S L 1 出土の遺物

#### 壺 (78~94)

78は、壺の完形で胴部が少し張り口縁部がくの字に外反するもので口径が26.4cmで底径が8.6cmで器高が33.1cmである。調整は内外面に横・斜め方向のナデや工具痕がある。色調は外面が橙と浅黄橙である。胎土は、6.5mm以下の赤褐色・5.5mm以下の灰色・5mm以下の黄色・4mm以下の褐色・乳白色・半透明光沢粒・3.5mm以下の黒色・3mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。79も壺の完形で口縁部は口径は、22.8cm・底径は5.3cm・器高は、29.75cmである。調整は、外面に斜め方向のナデ調整と横・縦方向の工具ナデが施されている。内面には、横・縦・斜め方向のナデ調整が施されている。色調は、外面が橙とにぶい褐・内面が橙と黒褐である。胎土の状況は、4.5mm以下の灰色・乳白色粒・3.5mm以下の褐色粒・3mm以下の半透明光沢粒・2.5mm以下の赤褐色粒・2mm以下の黒色粒が含まれる。80は、壺の完形で口径は25.7cm・底径は5.9cm・器高は、31cmである。外面の調整は縦・横・斜め方向のナデ調整が施され、内面にはナデ・斜め方向のナデや指押さえ等が施されている。色調は、外面が橙・にぶい橙・黒褐で内面は橙で、灰褐・黒褐である。胎土の状況は、5.5mm以下の赤褐色・4mm以下の灰色・黒色の褐色粒及び半透明の

褐色粒を含んでいる。81は、壺の完形で口径は22.65cm・底径は5.6cm・器高は、27.7cmで、調整は、縦斜め方向の工具ナデや横ナデを施している。内面は縦・斜め方向の工具ナデや横ナデを施している。色調は、外面に橙やにぶい赤褐で内面は橙である。胎土の状況は3mm以下の褐・灰褐・赤褐黒の砂粒・微細な黒い透明光沢粒を多く含んでいる。82は、壺の口縁部で、口径は14.8cmである。調整は外面が横ナデや斜め方向のナデで、内面は、工具ナデが施してある。色調は、外面が浅黄橙とにぶい黄橙で内面は浅い黄橙である。胎土の状況は、6mm以下の灰色・灰白色粒・5mm以下の赤褐色粒・3mm以下の半透明光沢粒を含んでいる。83は、壺の口縁部で、口径が17.1cmである。調整は内外面ともに工具ナデである。色調は、外面が橙と明黄褐で内面が橙と浅黄橙である。胎土の状況は、7mm以下の乳白色・4mm以下の褐・赤褐色粒・2.5mm以下の半透明の光沢粒・黒色光沢粒を含んでいる。84は、壺の完形で胴部が少し張り口縁部がくの字に外反するタイプである。口径が28.1cm・底径が6.2cm・器高が34.75cmである。内外面の調整は、ナデや工具ナデが施され、色調は、内外面ににぶい橙や橙・黄橙である。6mm以下の褐色・赤褐色粒4.5mm以下の灰褐色・4mm以下の灰白色・3mm以下の半透明光沢粒を含む。85は、壺の完形で上げ底のタイプである。口縁部の外反部が84よりも小さいようである。口径が24.15cm・底径が5.4cm・器高が33.35cmで内外面の調整は、横・斜め方向のナデ調整を施している。内外面の色調は、褐灰や橙・にぶい赤褐である。胎土の状況は3~5mm大の灰色・褐色粒・3mm以下の灰・灰白・黒の砂粒を多く含んでいる。また、3mm以下の透明光沢粒を少し含んでいる。86は、壺の口縁部から胴部で口径が17.2cmで内外面の調整横・縦・斜め方向のハケ目や横ナデを施されている。内外面の色調は、にぶい赤褐・赤褐・明赤褐で8mm以下の淡黄色粒・4mm以下の赤褐色粒・2mm以下の透明光沢粒を含んでいる。87は、壺の完形で口径は24.7cm・底径は7.8cm・器高は、33.1cmである。内外面の調整は横・縦・斜め方向の工具ナデが施されている。内外面の色調は橙やにぶい黄橙・灰褐色などがみられる。4.5mm以下の赤褐色・4mm以下の灰色粒・3mm以下の透明・半透明光沢粒を含んでいる。88も壺の完形で上げ底で口縁部の反りが短いものである。口径が18.3cm・底径が5.85cmで器高が23.8cmである。内外面の調整は、ナデや指押さえで内外面の色調は、浅黄橙・にぶい褐・橙などである。胎土の状況は6mm以下の赤褐色・褐色粒・4mm以下の黄色・灰白色粒・4mm以下の半透明光沢粒・1.5mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。89は、壺の口縁部から胴部にかけてのもので、口径は24.3cmほどになる。内外面の調整は横ナデ・工具ナデ・斜め方向のナデである。また、内外面の色調は橙・鈍い黄橙・灰黄褐である。5.5mm以下の赤褐・白色粒・5mm以下の灰褐色・灰色の粒・3.5mm以下の半透明光沢粒・2.5mm以下の黒色光沢粒・2mm以下の透明光沢粒を含んでいる。90は、壺の完形で口径が28.1cmで底径が6.9cm・器高は34.15cmで、内外面の調整は、横・斜め方向の工具ナデや横ナデが施してある。内外面の調整は橙で、胎土の状況は6mm以下の赤褐色・4mm以下の灰色・白色粒・半透明光沢粒・3.5mm以下の黒色粒・3mm以下の黒色光沢粒を多く含んでいる。91は、壺の完形で口唇部が外反していて張付刻目突帯を頭部に施している。胴部の張りが少なく底部は平底気味である。口径が30.4cmで底径が7.85cm・器高が47.2cmで外面の調整は、斜め方向のハケ目やナデや指押さえなどがある。内面の調整は、横・斜め方向のハケ目や指ナデがみられる。色調は内外面

に橙やにぶい黄橙・浅黄橙などがみられる。胎土の状況は、5mm以下の褐色・4mm以下の灰色・半透明・黒色光沢粒・3.5mm以下の赤褐色粒を含んでいる。92は、壺で口縁部が短めに外反していて、胴部が丸く張るタイプである。口径が13cmで、器高が16.5cmである。内外面の調整はナデや横ナデである。また内外面の色調は、橙やにぶい橙・にぶい褐である。胎土の状況は、3mm以下の褐・黄色粒・2.5mm以下の灰色粒・2mm以下の半透明光沢粒・1.5mm以下の透明・黒色等光沢粒を含んでいる。93は、壺の完形で胴部の張りが少ないもので底部は平底のタイプである。口径が11.5cmで底径が3.8cmで器高が10.7cmで内外面の調整は、横方向のハケ目と横・斜め方向のナデ調整・ナデなどである。内外面の調整は、浅黄橙と黄橙である。胎土の調整は、4mm以下の褐色・3.5mm以下の灰色・乳白色・3mm以下の黒・赤褐色粒・半透明の光沢粒2.5mm以下の透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を多く含んでいる。94は、壺の完形品で平底で口縁部の外反が少なく、胴部の張りが少ないタイプのものである。口径が15.2cmで底径が3.4cm・器高が16.1cmのもので、内外面の調整は、横・斜め方向に工具ナデが施されている。また、横・斜め方向のハケ目や指押さえが施されている。内外面の色調は橙やにぶい褐で胎土の状況は6mm以下の赤色粒・4mm以下の黄色粒・3mm以下の褐色褐色粒・灰色粒・黒色・半透明等光沢粒を含む。

#### 壺 (95~103)

95から98は、二重口縁で、櫛描波状紋と線刻を施してある。95は、口径が10.8cmで底径が4.8cmで器高が24.3cmである。内外面の調整は、ハケ目・丁寧なナデや横・斜め方向のハケ目・横ナデ・指ナデ等が施されているものが多いようである。内外面の色調は、黄橙やなどの色をしている。99~103は、壺の胴部から底部のもので、99・100・102・103は胴部が丸く張っていて平底のタイプである。それに対して101は、胴部が著しく張っているものである。内外面の調整などはナデや斜め方向のハケ目や指押さえ等が施してある。内外面の色調は、橙やにぶい黄橙等が多い。

#### 高坏 (104~106)

104は、高坏の完形で坏の口縁部が大きく外反するもので脚部がラッパ状を呈するものである。口径が32.4cm底径が19.8cm・器高が24.2cmで内外面の調整は、横・縱方向のミガキや横・斜め方向のミガキや指押さえなどが施されている。内外面の色調は橙や浅黄橙・黒などである。6.5mm以下の赤褐色・4.5mm以下の灰白色・3mm以下の褐色粒・2.5mm以下の半透明黒色等光沢粒を多く含む。105は、坏の下方の部分から脚部の部分で脚部がラッパ状を呈しているものである。底径が19.2cmで内外面の調整は、縱方向のミガキとナデ調整がみられる。内外面の色調は浅黄橙と黄橙・橙である。胎土の状況は6.5mm以下の赤褐色・3.5mm以下の灰色粒・半透明光沢粒・3mm以下の淡黄色・白色粒・2.5mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。106は、高坏の脚部で透かしを3カ所もっている。内外面の調整は、ナデの上をミガキ・指ナデを施している。内外面の色調は、橙と灰黄褐色である。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色・3.5mm以下の褐色粒・2mm以下の黒色・半透明の光沢粒を多く含む。

### 脚台付鉢 (107~108)

107は、口縁部が大きく外反するタイプのもので底部がラッパ状を呈するものである。口径が18.8cmで底径が11.2cm・器高が15.95cmで内外面の調整は横ナデやナデ調整で内外面の色調は橙と明黄褐色である。胎土の状況は、5.5mm以下の赤褐色・灰色・褐色粒・4mm以下の黒色光沢粒・2.5mm以下の半透明光沢粒を多く含む。108は、107より胴部が張り口縁部の反りが小さいものである。内外面の調整は、ナデ・縱方向の工具ナデなどが施されている。また、内外面の調整は橙が多い。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の褐色粒・灰色粒・半透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を含む。

### 鉢 (109)・瓶 (110)

109は、鉢の完形で平底のタイプである。口径が15.3cmで底径が5.1cm・器高が12.8cmで内外面の調整はナデや横ナデ・ハケ目の後ナデ・指押さえが施してある。内外面ともに色調は橙で、胎土の状況は、4mm以下の褐色粒・3mm以下の灰色粒・2.5mm以下の乳白色赤褐色の粒・2mm以下の半透明黒色等光沢粒を多量に含んでいる。110は、瓶で把手が2カ所あり、底部に穿孔がある。口径が14.1cmで底径が4.95cm・器高が15.7cmである。内外面の調整はナデや指押さえやハケ目などがみられる。色調は橙である。胎土の状況は、6mm以下の赤褐色粒・3.5mm以下の半透明光沢粒・3mm以下の灰白粒・2.5mm以下の褐色粒・2mm以下の黒色光沢粒を多く含む。

### S L 2 出土の遺物

#### 壺 (111~127)

111は、壺の口縁部から胴部で、口縁部が大きく外反するタイプである。口径は、24cmで内外面の調整は、横・斜め方向のナデ調整や指押さえが施されている。内外面の色調は、にぶい橙・にぶい褐・橙などである。4~5mm大の褐色の粒・3mm以下の灰褐色・褐色・黒・淡黄橙の砂粒を含んでいる。112は、壺の口縁部で111と同様に大きく外反している。内外面の調整は、ナデや横ナデで色調は浅黄橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は、3mm以下の茶・黒・灰褐色・灰色の砂粒を多量に含み、1mm以下の透明・黒の光沢粒を少し含んでいる。113は、口径が24.8cmで内外面の調整はハケ目や横・斜め方向のハケ目やナデが施されている。内外面の色調は淡黄やにぶい黄橙・浅黄橙である。胎土の状況は、4mm大の褐色の粒・3mm以下の褐色・灰褐色の砂粒・2mm以下の透明の光沢粒を含んでいる。114は、壺の口縁部で口縁部が緩やかに外反するタイプである。口径が18.5cmで内外面の調整は、ナデやハケ目が施されている。内外面の色調はにぶい黄橙と浅黄である。胎土の状況は、3mm以下の灰褐色・灰・茶・半透明の砂粒を含む。115は口縁部が緩やかに外反するタイプのものである。口径は20.8cmである。内外面の調整は、横・縱・斜め方向ナデや工具ナデ・工具による横方向の端部痕などの調整を施している。色調は橙や浅黄橙・明黄褐色である。4~5mm大の茶・灰褐色の粒・3mm以下の灰・茶・黒の砂粒を含む。116は、壺の完形で口径が16cmで底径が5.2cmで器高が19.1cmの少し上げ底気味のタイプで口縁部の外反は、短いものである。内外面の調整はヘラ工具による縱方向のナデと横・

斜め方向のナデ・指押さえである。内外面の調整は、橙やにぶい橙・にぶい黄橙からなっている。胎土の状況は、3mm以下の褐色・灰・黒・半透明の砂粒を含んでいる。117は、壺の口縁部から胴部で内外面の調整はナデ調整である。貼付突帯を有している。内外面の色調は浅黄橙と黄橙である。胎土の状況は、5mm以下の褐灰色粒・4mm以下の赤褐色・灰白色・乳白色の粒・3.5mm以下の黒色粒・3mm以下の半透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を多量に含んでいる。118は、貼付突帯をもつもので口縁部が大きく外反している。内外面の調整はナデ調整で、内外面の色調は黄橙や橙などである。4mm以下の灰色粒・3.5mm以下の褐色粒・3mm以下の半透明光沢粒・乳白色・2.5mm以下の黒色粒を多量に含んでいる。119は、壺の口縁部で内外面の調整はナデ・縦方向の上から横方向のナデと横方向のナデがみられる。色調は、浅黄橙で胎土の状況は4mm以下の赤褐色粒・3.5mm以下の灰白色粒・3mm以下の褐色粒・2mm以下の半透明光沢粒を含んでいる。120は、口縁部で119が緩やかに外反するのに対して120は、外反が大きい。内外面の調整は、縦・斜め方向からのナデの上から横方向のナデと横・斜め方向のナデ調整を施している。内外面の色調は浅黄橙である。胎土の状況は、4.5mm以下の褐色粒・3mm以下の灰白色粒・2mm以下の半透明光沢粒を含んでいる。121は、口縁部から胴部にかけてのもので口縁部が大きく外反している。内外面の調整は、ナデや横・斜め方向のナデを施している。内外面の色調は橙と黄橙・浅黄橙である。胎土の状況は、3~4mmの大粒の褐色の粒・3mm以下の灰褐色・黒・半透明の砂粒を多く含む。122は、口縁部から胴部にかけてのところで122は、121に比べて外反が少ない。内外面の調整は、ナデや横ナデ・部分的ハケ目等が多い。また、内外面の色調は橙や浅黄橙・褐灰などである。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色・灰色の粒を含む。123は、底部で底径4.7cmで内外面の調整はナデや指押さえが施されている。内外面の色調は灰白と褐灰である。124は、底径5.9cm底部で内外面の調整は縦・横・斜め方向のナデと指押さえなどが施してある。内外面の色調は浅黄橙と褐色灰である。胎土の状況は、3mm以下の暗褐色・灰白・半透明の砂粒を含む。125は、底径5.7cmの内外面の調整は、工具で撫でた後指ナデや指押さえなどが施してある。内外面の色調は浅黄橙・明褐灰・褐灰である。126は、底径は、5.2cmの内外面の調整は、ハケ目やナデ・横ナデが施されている。内外面の色調は浅黄橙やにぶい黄橙がみられる。胎土の状況は、4mm以下の茶・灰褐色・灰色の砂粒・2mm以下の透明・黒の光沢粒を含んでいる。127は、底部で上げ底タイプである。底径が5cmで内外面の調整はナデや縦方向のナデ・指ナデ等が施されている。内外面の色調は、にぶい橙・灰褐で胎土の状況は、3mm以下の黒・褐色の砂粒・2mm以下の透明の光沢粒を含んでいる。

#### 壺 (128~137)

128は、二重口縁の壺で櫛描波状紋を施すタイプである。胴部が大きく張っているものもある。内外面の調整は、ナデや工具ナデや指押さえ・指ナデ等が施されている。内外面の色調は橙や浅黄などである。胎土の状況は、4mm以下の灰色・褐色・黒色・赤褐色の粒・3mm以下の白色粒・2mm以下の半透明の光沢粒を含む。129は、二重口縁の櫛描波状紋を施すタイプで内外面の調整は、ナデや工具ナデ・指ナデ・指押さえなどが施されている。内外面の色調は浅黄橙

と明黄褐色・にぶい黄橙等である。3mm以下の赤褐色・褐色・灰・黒の砂粒・2mm以下の透明・黒の光沢粒を含んでいる。130は、口径12.2cmの二重口縁の壺で内外面の調整は横・縦方向の工具ナデや横方向の工具ナデや横方向のミガキがみられる。内外面の調整は浅黄橙で、胎土の状況は3mm以下の褐色粒・灰白色粒・半透明の光沢粒・1mm以下の黒色光沢粒も含んでいる。131は、二重口縁で内外面の調整は横ナデで内外面の調整は黄橙と浅黄橙である。胎土の状況は、4~5mm大の褐色の粒・3mm以下の灰白・灰・黒・灰褐色の砂粒・黒・透明の光沢粒を含んでいる。132までは、壺の口縁部で口縁部が大きく外反するタイプのものである。内外面の調整は、横ナデやミガキ・ナデなどが施されている。内外面の色調は、黄橙や浅黄橙・にぶい黄橙である。胎土の色調は、4mm以下の灰色・赤褐色の粒・3mm以下の乳白色・黒色・褐色の粒・2.5mm以下の半透明光沢粒も含んでいる。133は、壺の底部で底径が4cmのものである。内外面の調整は横ナデやハラ状工具による横・縦方向のナデ調整・指ナデが施されている。内外面の色調は浅黄橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は、4mm以下の灰色・赤褐色の粒・3mm以下の乳白色・黒い構・褐色の粒・2.5mm以下の半透明光沢粒を多く含む。134は底径3.9cmの壺の底部で、内外面の調整はハケ目がみられる。内外面の調整は明黄褐・にぶい黄橙である。胎土の状況は2mm以下の半透明・乳白色の砂粒を少し含む。135は、壺の底径4.9cmの底部で平底のものである。肩部は丸く張っている。内外面の調整は、縦・斜め方向のナデなどが施されている。色調は明黄橙・にぶい黄橙などである。136は、口径15.7cm・底径6.15cm・器高が43.35cmの壺の完形で内外面の調整は横ナデやナデ・ミガキなどが施されている。内外面の色調は、橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は4.5mm以下の赤褐色粒・4mm以下の灰色・黒色・褐色の粒・3.5mm以下の半透明光沢粒・橙色粒・3mm以下の黑色光沢粒を多量に含む。137は、壺の完形で口縁部の外反が少なく肩部が張り気味のタイプである。両方ともに平底のタイプである。内外面の調整は、横ナデやミガキ斜め方向のナデなどがみられる。内外面の色調は橙やにぶい黄橙等がみられる。胎土の状況は、7mm以下の褐色粒・3.5mm以下の赤褐色粒・3mm以下の灰色粒・2.5mm以下の半透明光沢粒・2mm以下の透明・黒色等光沢粒を多量に含んでいる。

#### 高坏（138~142）

138は、高坏の完形で口径が25cm・底径15.45cm・器高が22.9cmで三方透かしをもっているタイプである。脚部がラッパ状を呈している。内外面の色調は、ナデや横・縦・斜め方向のミガキや指押さえなどが施されている。内外面の色調は橙やにぶい黄橙・黒褐色である。胎土の状況は、4mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の灰色粒・2mm以下の透明光沢粒を含んでいる。139は、口縁部がやや外反するタイプのものである。口径は、29.4cmで内外面の調整は、横・斜め方向のミガキである。また、内外面の色調は橙やにぶい黄橙である。3~6mmの褐色粒・2mm以下の透明・黒の光沢粒を少し含む。2mm以下の褐色灰色の砂粒を少し含んでいる。140は、口縁部が大きく外反するものである。口径は、42.6cmで横ナデや丁寧なナデやミガキ等を施している。内外面の色調は、黄橙や橙・浅黄橙・褐灰などである。胎土の状況は、3mm以下の褐色粒・半透明光沢粒・1.5mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。141は、高坏の脚部で、ラッパ状を呈して

いる。底径は、18.6cmで内外面の調整は、ミガキや横ナデ・指押さえなどが施こされている。内外面の色調は、橙である。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色粒・2mm以下の半透明・黒色等・光沢粒を含んでいる。142は、脚部でラッパ状を呈している。底径が9.4cmで内外面の調整はナデ調整で内外面の色調は、浅黄橙である。胎土の状況は、3mm以下の灰褐色・灰・白・黒・半透明の砂粒・透明の光沢粒を含んでいる。143は、脚部でラッパ状を呈したものである。底径は、21.5cmで内外面の調整は、横方向のナデである。色調は橙である。胎土の状況は、4mm以下の灰褐色粒・3mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の黒色光沢粒・2mm以下の半透明光沢粒・灰色粒を含んでいる。

#### 鉢（144～146）

144は、浅い鉢である。口径は、24.3cmで底径6.2cmで器高は、8.05cmである。内外面の調整は、ナデや横・縦・斜め方向のナデが施されている。内外面の色調は橙である。胎土の状況は、3mm以下の茶・灰褐色・灰・半透明の砂粒・2.5mm以下の透明・黒の光沢粒を含んでいる。145は、鉢の完形で口縁部がやや直線的に立ち上がるものである。口径は、11.9cmで器高は9.75cmで底部は丸底である。内外面の調整は、荒いナデやハケ目がみられる。内外面の色調は黄橙や明黄褐・灰黄褐・橙等である。胎土の状況は、5mm以下の褐色粒・2.5mm以下の黒色光沢粒・4mm以下の灰色・赤褐色の粒・3mm以下の乳白色粒・半透明光沢粒である。146は口唇部がやや外反しているものである。口径は、32.8cmで内外面の調整は横・斜め方向のナデやなどである。内外面の色調は、浅黄橙・黄橙・にぶい黄橙等である。胎土の状況は、3mm以下の褐色灰・灰褐色・半透明の砂粒を含む。

#### S L 3 出土の土器

##### 壺（147～149）

147は、壺で内外面の調整はナデや工具ナデや横ナデが施されている。内外面の色調は、浅黄橙と浅黄・暗灰黄である。胎土の状況は、3mm以下の灰褐色・赤褐色・褐色・褐灰の砂粒・1～2mmの半透明の光沢粒を多く含んでいる。148は、壺で斜め方向の工具ナデや横・斜め方向のナデが施してある。内外面の色調は、明褐色・暗褐色・明黄褐色・黄橙・浅黄橙である。胎土の色調は、5mm以下の赤褐色・灰褐色・灰色の砂粒・1～2mmの半透明の光沢粒を含んでいる。149は、壺の口縁部で口唇部が外反しているものである。内外面の調整は、横・斜め方向のナデや工具ナデが施されている。色調は浅黄橙や黄橙などである。3mm以下の黒・灰・褐色・灰色の砂粒を多く含む。

##### 壺（150～151）

150は、壺の頸部から胴部にかけてのところである。内外面の調整は、工具ナデを含むナデ調整である。内外面の色調は、黄橙や浅黄橙・にぶい黄橙等である。胎土の状況は14mm以下の赤褐色・灰褐色の砂粒・3mm以下の灰・灰褐色・灰白色の砂粒・2mm以下の透明・黒色の光沢粒を含んでいる。151は、壺の胴部から底部で平底のタイプで胴部の張りは少ない。内外面の調整は、斜め方向のナデとハケ目・指押さえからなるものが多い。色調は、黄橙や浅黄橙・にぶい

黄橙・橙からなっている。胎土の状況は、2mm以下の赤褐色と橙・灰・褐色灰色の砂粒を含んでいる。

## S C 2 出土の遺物

152は、壺の口縁部である。内外面の調整は、横ナデで内外面の色調は橙と黄橙である。胎土の状況は、2mm以下の灰・褐色・黒・半透明の砂粒を含んでいる。153は、壺の完形で口唇部がやや外反するタイプのものである。内外面の調整は、荒いナデと指押さえなどである。内外面の色調はにぶい黄橙や浅黄橙などである。胎土の状況は、4~5mm以下の褐色・赤褐色粒・3mm以下の灰・褐色砂粒を含んでいる。

## 包含層出土の土器

### 壺 (154~173)

154と155は、壺の口縁部から脇部にかけてのところで口縁部が大きく外反するタイプのものである。内外面の調整は、横・斜め方向のナデやナデ調整が施してある。色調は、橙やにぶい黄橙・浅黄橙などがある。

156~159は、壺の口縁部でくの字に大きく外反するタイプのものである。内外面の調整は横ナデや工具痕を含む斜め方向のナデがみられる。また、内外面の色調は浅黄橙やにぶい黄橙・橙等である。160~165は、壺の口縁部で口縁部の外反は少ないものである。内外面の調整は、ナデや横ナデ調整が多く、色調はにぶい黄橙や浅黄橙・橙・灰白・灰褐等が多いようである。166~168・169~173は、壺の底部で168と170・172は、上げ底である。内外面の調整は、縱や斜め方向ナデや指押さえが施されている。内外面の調整は、橙やにぶい黄橙・褐灰などである。

### 壺 (174~188)

174と175・178は、壺の口縁部で口縁部がほぼ内側に立ち上がるタイプのものである。内外面の調整は、ナデや工具痕などがあり、内外面の調整は浅黄橙や橙である。176・177・181は、二重口縁壺の櫛捲波状紋を施すタイプである。180は、長頸壺の口縁部で口縁部がわずかに外反している。内外面の調整は、横ナデや工具ナデまたは、指押さえなどが施されているものである。内外面の色調は浅黄橙やにぶい黄橙や褐色灰などがみられる。182~184は、壺の頸部から脇部にかけてのところで182と183は、張付突帯をもつもので184は、線刻がある。内外面の調整は、横ナデやナデが多く色調は浅黄橙や橙や褐灰などがみられる。185は、壺の脇部から底部で平底のタイプである。186は、脇部に丸い張りをもつタイプで、187は、頸部で188は平底の底部である。内外面の調整は、横ナデやナデ・ミガキなどが施されている。内外面の調整は、浅黄橙や褐色灰やにぶい橙・明褐などである。

### 高坏 (189~194)

189~191・194は、高坏の坏部で口縁部が大きく外反するタイプである。192~193は、脚部で193は、ラッパ状を呈している。内外面の調整は、横ナデやナデ調整などを施してあり斜め方向のナデや工具痕もみられる。内外面の色調は浅い黄橙や橙・明褐色などである。

碗・鉢 (195・197・196)

195と197は、鉢で内外面の調整は横ナデやナデ調整で色調は浅黄橙が多いようである。196は碗である。

S A 3・S A 5・S L 2出土の石器

1は、石包丁で2個の穿孔を有している。2は、磨製石鏃である。3は、砥石で全体的に研かれている。4も砥石である。5は、磨製石斧で6は、軽石製品である。

第20表 中大五郎第2遺跡出土土器観察表

河 川 別 別	種別	器種	出土 地點	法 量 (cm) 幅 高 度 厚 さ	内 装		色 調		胎 上	備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面		
1		釜	SB8		ナデ	ナデ 舟押え	灰白 (10YR 8/2) 透青緑 (7.5YR 8/4)	灰白 (7.5YR 8/2)	4ミリ以下の褐・赤褐色・灰・黒色の砂粒 を多く含む。2ミリ以下の半透明・透 明・黒色の光沢粒を含む。	外表面……部断面 丸底
2	土器 質鑑	SC1	11.95 7.6 3.7	横ナデ	横ナデ	透青緑 (7.5YR 8/2)	透青緑 (10YR 8/2)	1ミリ以下の褐・灰褐色の砂粒を少し含む。	未切り底	
3	*	SC1	12.05 7.1 3.7	横ナデ	横ナデ	透青緑 (7.5YR 8/3) 透青緑 (7.5YR 8/3)	灰白 (7.5YR 8/2) 透青緑 (7.5YR 8/2)	1ミリ以下の褐・赤褐色・黒色の砂粒を 少し含む。	未切り底	

第21表 中大五郎第2遺跡出土石器観察表

レ イ ア ク ト 番 号	グリッド	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
1.	S A 3	石包丁	5.85	10.1	0.6	60.0	頁岩	
2.	S A 3	磨製石鏃	—	2.8	0.25	2.2	々	先端部欠損
3.	S A 3	砥石	14.8	2.8	1.3	97.0	々	
4.	S A 3	砥石	9.65	3.35	0.95	47.0	々	
5.	S A 5	磨製石斧	13.3	5.5	2.0	198.9	々	
6.	S L 2	砥石	15.75	14.2	5.05	303.4	軽石	

#### 第4節 中近世と時期不明の遺構と遺物

##### 1. 中世の掘立柱建物・近世の土坑

###### S B 8

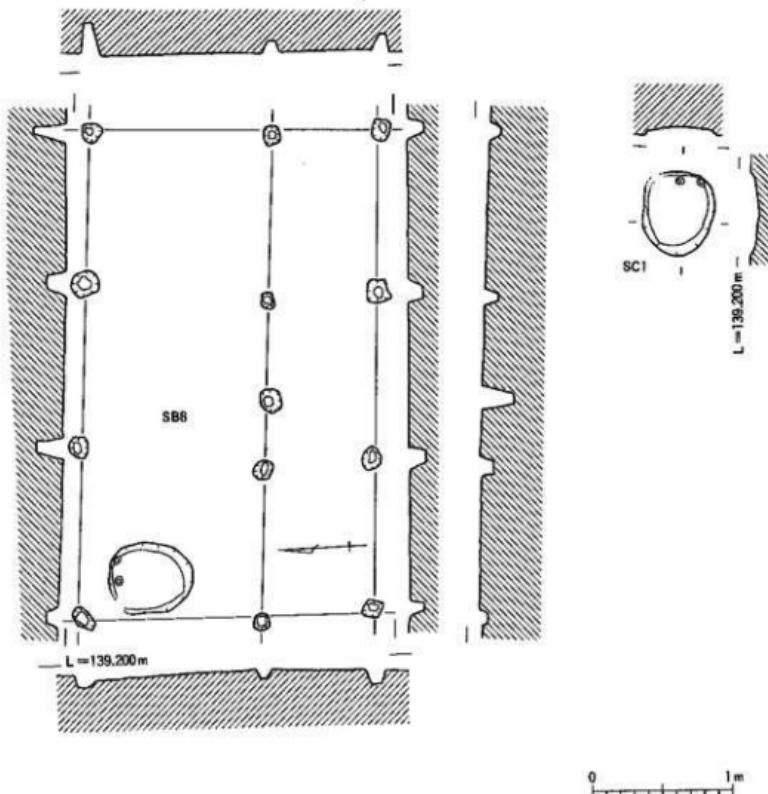
S B 8は、2間×3間で屋敷内に土壙をもっている。柱穴数は、8個でpit径は、22~32cmでpitの深さは、11~30cmである。また、床面積は、12.06m<sup>2</sup>である。

###### S C 1

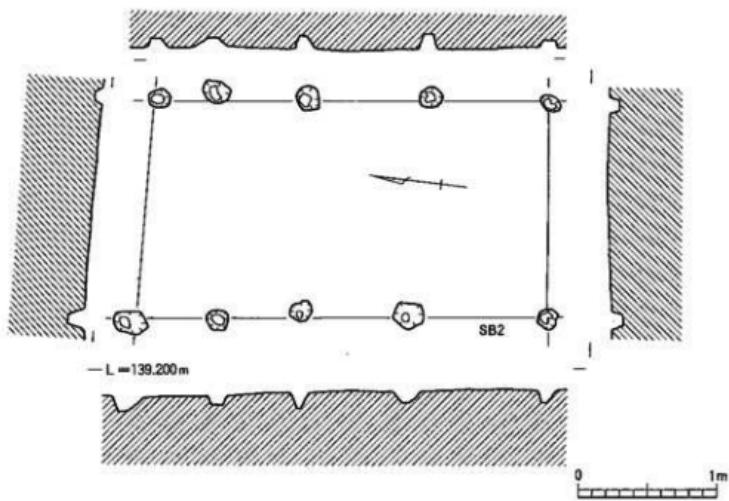
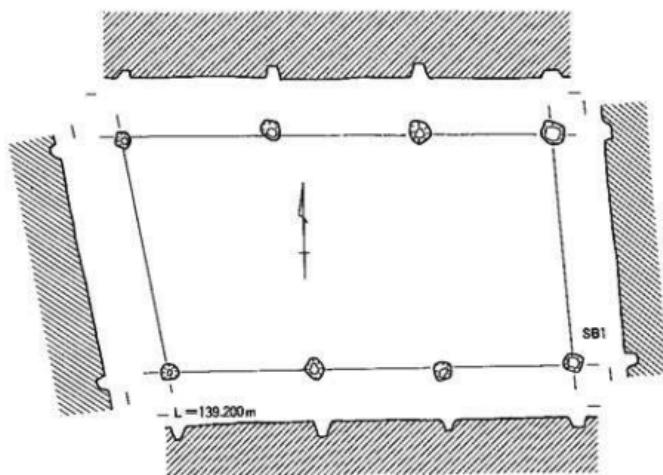
S B 8の敷地内にあり、長径1.2m×短径1mの楕円形プランで深さは、10cmである。北の方向に土師器が配列されていたので土壙墓の可能性がある。

###### 2・S B 8・S C 1出土の遺物

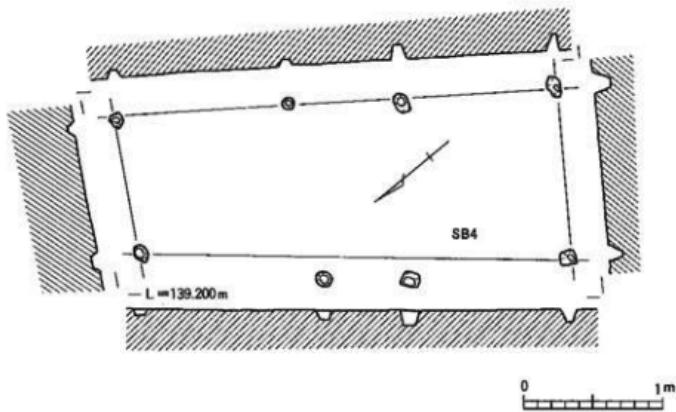
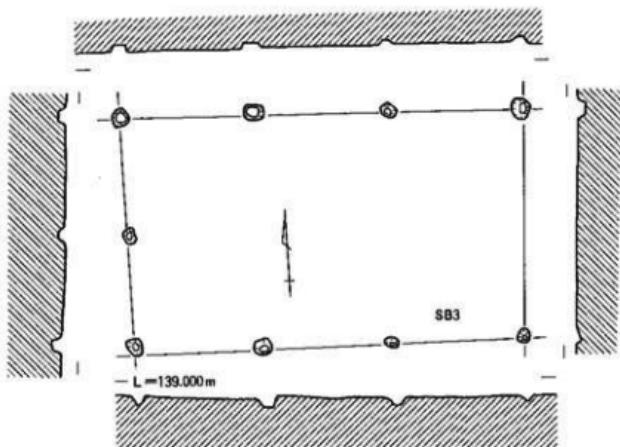
1は、壺の底部付近で指押えの痕がある。2・3は、糸きり底の土師器である。



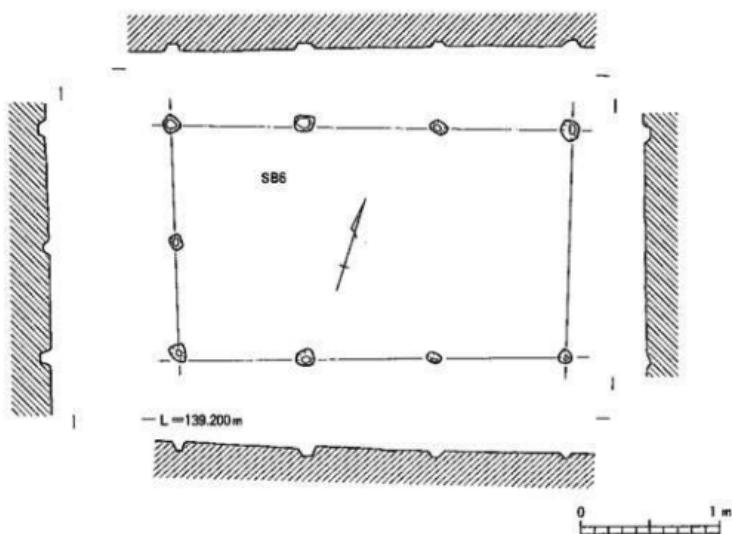
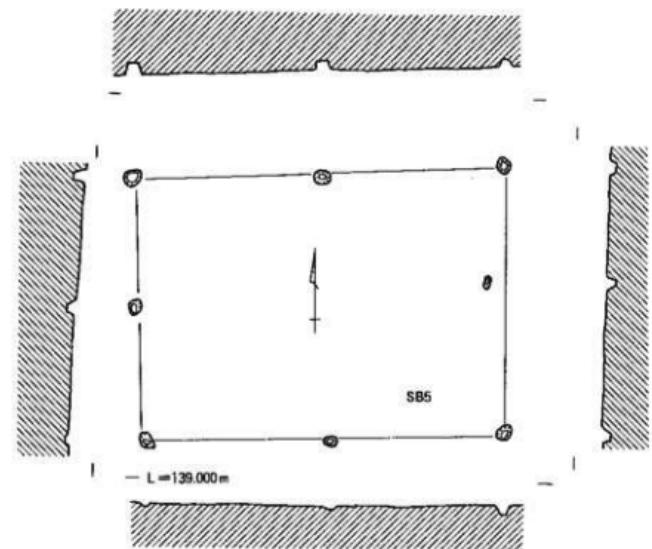
第55図 中大五郎第2遺跡 S C 1・S B 8 実測図



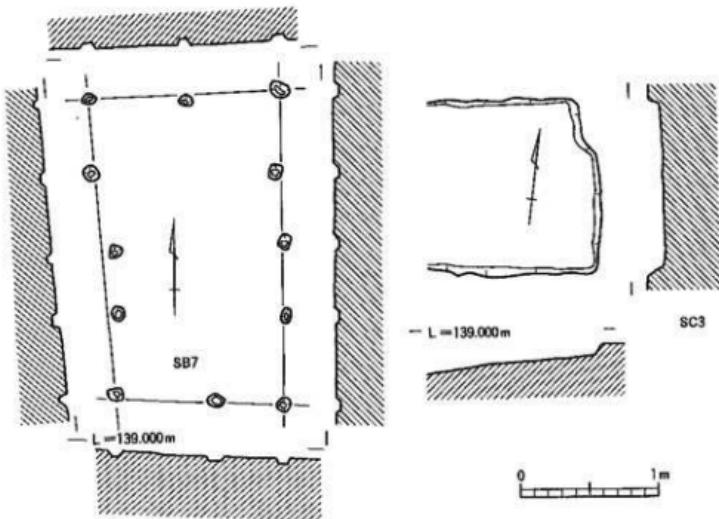
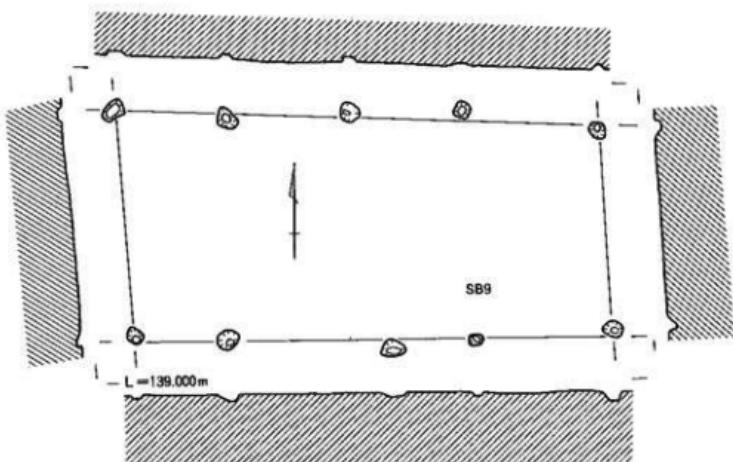
第56図 中大五郎第2遺跡 S B 1・S B 2実測図



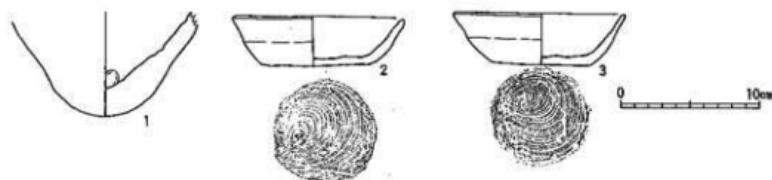
第57図 中大五郎第2通路SB3・SB4実測図



第58図 中大五郎第2遺跡 S B 5・S B 6 実測図



第59図 中大五郎第2遺跡SB7・SB9・SC3実測図



第60図 中大五郎第2遺跡SB 8・SC 1出土土器実測図

### 3. 時期不明の遺構

#### SB 1

SB 1は、1間×3間で柱穴数は10個でpit径は29~49cmでpitの深さは10cm~24cmである。床面積は21.5m<sup>2</sup>である。

#### SB 2

SB 2は、1間×4間で柱穴数は10個でpit径は30cm~49cmでpitの深さは、7cm~16cmである。また、床面積は21.45m<sup>2</sup>である。

#### SB 3

SB 3は、2間×3間で柱穴数は、10個でpit径は18cm~34cmで床面積は24.96m<sup>2</sup>である。

#### SB 4

SB 4は、1間×4間で柱穴数は8個でpit径は22cm~30cmでpitの深さは、9cm~22cmである。床面積は17.47m<sup>2</sup>である。

#### SB 5

SB 5は、2間×2間で柱穴数は8個でpit径は17cm~29cmでpitの深さは、5cm~17cmである。床面積は23.31m<sup>2</sup>である。

#### SB 6

SB 6は、2間×3間で柱穴数は9個でpit径は19cm~29cmでpitの深さは、7cm~14cmである。床面積は21.17m<sup>2</sup>である。

#### SB 7

SB 7は、2間×4間で柱穴数は12個でpit径は12cm~29cmでpitの深さは9cm~18cmである。床面積は14.51m<sup>2</sup>である。

#### SB 9

SB 9は、1間×4間で柱穴数は、10個でpit径は28cm~34cmでpitの深さは7cm~13cmである。床面積は17.16m<sup>2</sup>である。

#### SC 3

SC 3は、直径2.5mの豊穴状の遺構で深さは13cmと浅く目立った遺物はなく時代を特定できなかった。

以上は遺構の時期を特定する遺物がなかったのであえて時期不明の遺構としている。

#### S E 1

S E 1は、全長31.9mで幅は、1mであるが深さは平均10.5cmと浅く埋土も分けられず包含する遺物もないので時期を特定できなかった。

#### 第5節 小結

中大五郎第二遺跡は、弥生時代から中近世に至るまで様々な遺構が検出された複合遺跡である。宮崎県教育委員会が平成2年度に下大五郎遺跡・平成5・6年度に山ノ田第一遺跡など、ここ数年間に丸谷町周辺で発掘調査が多く行われている。その中で多くは、弥生時代の後期から古墳時代初頭までと中世の遺構遺物が多く検出されている。本遺跡でもこの時代を中心に検出されている。ここでは、この時代を中心に考察してみたい。

#### 弥生時代～古墳時代初頭

弥生時代～古墳時代初頭の中大五郎第二遺跡は、竪穴住居跡が6軒検出されている。住居跡の形態は、円形の花弁状住居が1軒と方形住居が4軒で、残りの1軒は不整形のものである。住居跡の埋土は黒色土にボラ混じりの土で床面に近づくにしたがってボラの含有率が多くなる。住居跡の中には、主柱が炭化したものもあった。一般的に住居跡の残りはよく、住居跡内土壤をもつものもあった。住居跡の時期であるがS A 1は、小型丸底壺を有していることから弥生時代終末～古墳時代初頭に比定できる。S A 2・S A 3・S A 4・S A 5・S A 6は、弥生時代の後期から弥生時代終末と考えられる。住居跡の外には、周溝状遺構が3基検出されているが、S L 1とS A 1出土の遺物が接合できることからS A 1と同時期であろうと考えられる。S L 2・S L 3も同様であろう。S B 10は、棟持ち柱をもつ掘立柱建物で弥生時代後期から終末にかけてのものだと思われる。

#### 中・近世

中大五郎第二遺跡では中・近世の遺構が検出されているがS B 8は、東西に庇をもっている。もう1カ所有ると考えられたが検出することはできなかった。S C 1は、S B 8の敷地内にあるが、遺物が近世のものであることから、屋敷が廃絶されてから上層を掘った可能性が考えられる。他に明確な出土遺物がないために時期不明とした掘立柱建物が8軒ほどあるがそのおおくは、2間×4間か1間×4間が多いようである。

以上簡単ではあるが本遺跡の調査結果をまとめてみた。最後に本遺跡の周辺では数多くの遺跡が存在し、ここ数年間に、県や都城市で発掘調査が行われてきた。その中で、丸谷川を望む低位段丘上に立地している本遺跡を含む一連の遺跡群は弥生時代後期～古墳時代初頭の聚落跡である。また、丸谷川に開削された低地部に谷ノ口遺跡、下川原遺跡があるが中世以降の水田跡が検出されている。しかし、まだ弥生時代の水田等は、検出されていない。これからの調査に期待がもてると思われる。

〈参考文献〉

- (1) 都城市教育委員会 『祝吉遺跡』 都城市文化財調査報告書第2集 1982
- (2) 都城市教育委員会 『上大五郎遺跡・前畠遺跡』 都城市文化財調査報告書第26集 1994
- (3) 都城市教育委員会 『丸谷地区遺跡群・上大五郎遺跡』 都城市文化財調査報告書第22集 1993
- (4) 都城市教育委員会 『松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』 都城市文化財調査報告書第7集 1989
- (5) 都城市教育委員会 『天神・河内第1遺跡』 1991
- (6) 都城市教育委員会 『前原北遺跡』 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集 1988
- (7) 都城市教育委員会 『熊野原遺跡』 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985

図 版



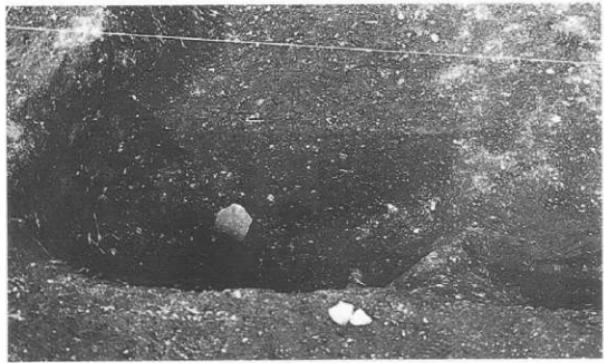
中大五郎第2 SA 1 土器出土状況(1)



中大五郎第2 SA 1 土器出土状況(2)



中大五郎第2 SA 1 土器出土状況(3)



中大五郎第2 SA 2 土器出土状況(1)



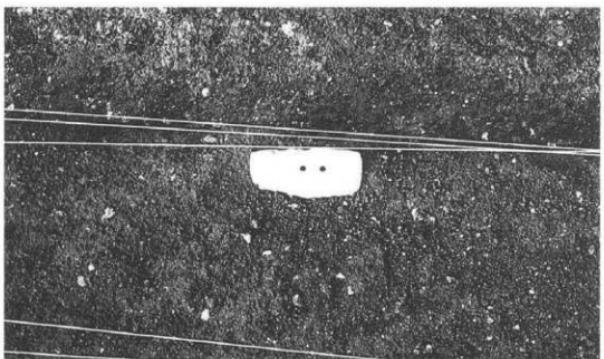
中大五郎第2 S A 2 土器出土状況(2)



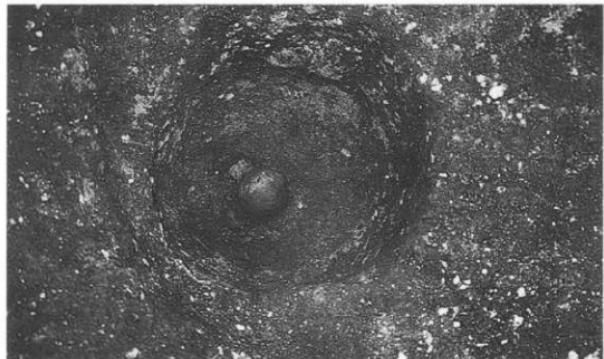
中大五郎第2 S A 3 土器出土状況(1)



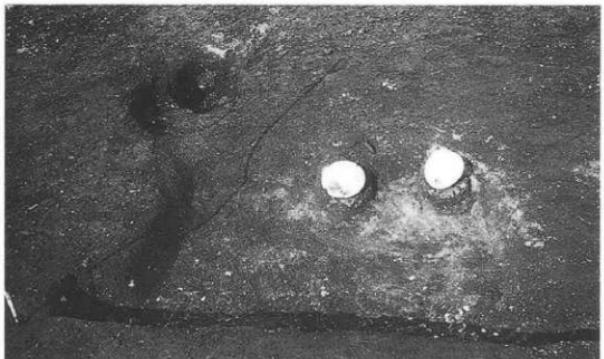
中大五郎第2 S A 3 土器出土状況(2)



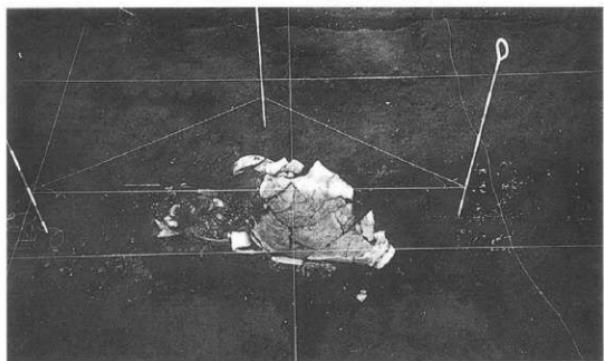
中大五郎第2 S A 3 出土土器



中大五郎第2 SA 3出土土器状況(3)



中大五郎第2 SC 1出土土器



中大五郎第2 出土土器



中大五郎第2 SL 1出土土器状況(1)



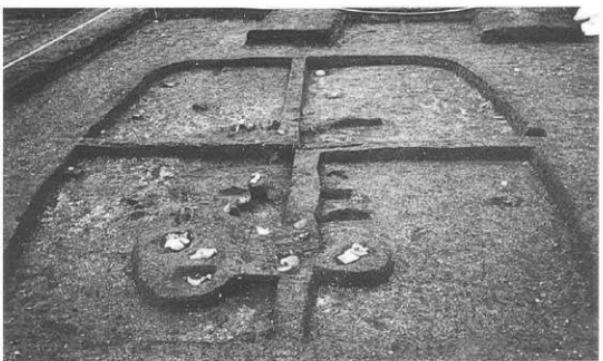
中大五郎第2 S L 1 土器出土状況(2)



中大五郎第2 S L 2 土器出土状況(1)



中大五郎第2 S L 2 土器出土状況(2)



中大五郎第2 S A 2 检出状況



中大五郎第2 S A 3検出状況



中大五郎第2 S A 5検出状況



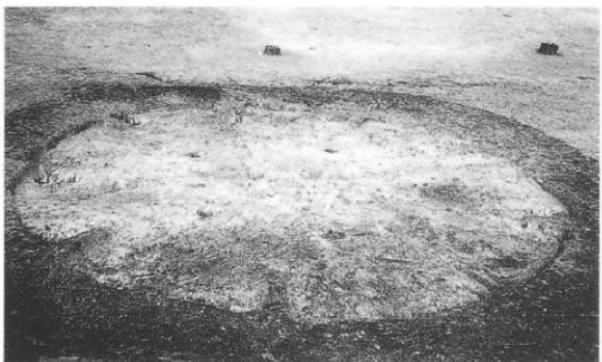
中大五郎第2 S L 3検出状況



中大五郎第2 S A 1完掘状況



中大五郎第2 S A 2 完掘状况



中大五郎第2 S A 3 完掘状况



中大五郎第2 S A 4 完掘状况



中大五郎第2 S A 6 完掘状况